

## 総 会 記 事

### 第 1 回 理 事 会

日 時：昭和51年 5 月26日（水）

12時15分～13時30分

会 場：松本市浅間温泉・ホテル鷹の湯

出席者：岩井正二会長，九嶋勝司・滝 一郎副会長  
理事：足立春雄，飯塚理八，岡田弘二，倉智敬一，坂元正一，塩島令儀，須川 佑，鈴木雅洲，鈴木正勝，関場 香，竹内正七，東條伸平，鳥越正，中山徹也，西村敏雄，橋本正淑，藤原幸郎，古谷 博，山辺 徹（欠席：石塚直隆，加藤 俊，野田克巳，松本清一，森 一郎，渡辺行正）

監事：関 闡，目崎鉦太

名誉会員：澤崎千秋，藤森速水

幹事：秋谷 清，荒木日出之助，岩崎寛和，小畑英介，木川源則，高田道夫，塚田一郎，筒井章夫，寺島芳輝，長谷川直義，松田静治，矢内原巧，吉田孝雄，我妻 堯

事務：松崎 進

開会 12時15分，理事総数28名中21名出席，定足数に達したので，岩井会長，開会を宣す。九嶋副会長，議長となり議事に入る。

#### 協議事項

##### 1. 理事の補充について

石塚，渡辺両理事が名誉会員になり両理事より理事の辞表が提出されたので，会長より両理事の所属していたブロックに対し後任理事の選出を依頼することとした。

##### 2. 理事の業務分担の一部変更について

橋本新理事，岩井会長の業務分担について協議の結果次のように決定した。

橋本理事：学術担当

岩井理事：学術担当

##### 3. 常務理事の補充について

1) 坂元学術担当常務理事の副会長就任に伴う常務理事の補充について

投票により竹内理事が学術担当常務理事（学術企画委員会委員長）に決定した。

2) 渡辺社保担当常務理事の辞任に伴う常務理事の補

充について

協議の結果社保担当常務理事に塩島理事が決定した。

3) 竹内常務理事の学術担当常務理事への移動に伴う後任について

鈴木理事が会長指名の常務理事に推薦され承認された。

##### 4. 幹事の移動について

1) 塚本幹事の辞任に伴う後任は長谷川直義君が推薦され承認決定した。

2) 岩崎編集担当幹事の辞任に伴う後任は補充はせず業務は寺島幹事が兼務することが承認された。

##### 5. 総会幹事の委嘱について

会長より，真木正博，福島峰子，蒔田光郎の3君が推薦された。

##### 6. その他

###### 1) FIGO 担当理事の新設について

澤崎名誉会員より FIGO 担当理事を早急に決めて欲しいと要望があり，会長，副会長，監事で相談の上，決めることを了承した。

###### 2) 演題採用者の無届欠席について

協議の結果，演題発表は取り消しとし，二次抄録を学会誌にのせないこととした。

### 第 2 回 理 事 会

日 時：昭和51年 9 月11日（土）10時～16時

会 場：東京市ヶ谷・私学会館

出席者：九嶋勝司会長，坂元正一副会長

理事：飯塚理八，岩井正二，岡田弘二，加藤 俊，倉智敬一，塩島令儀，須川 佑，鈴木雅洲，鈴木正勝，竹内正七，東條伸平，鳥越 正，中山徹也，西村敏雄，野田克巳，橋本正淑，藤原幸郎，古谷 博，細川 勉，松本清一，山原秀，山辺 徹（欠席：足立春雄，関場 香，滝一郎，森 一郎）

監事：内野総二郎，関 闡，目崎鉦太

議長：木下二亮

幹事：秋谷 清，荒木日出之助，小畑英介，木川源則，高田道夫，塚田一郎，筒井章夫，寺島芳輝，長谷川直義，松田静治，松山栄吉，矢内原巧，吉

田孝雄, 我妻 堯

事務: 松崎 進

10時15分, 理事総数28名中22名出席, 定足数に達したので九嶋会長開会を宣す。

## I 報告事項

### 1. 新理事紹介

会長より, 山原 秀君(東海ブロック), 細川 勉君(関東ブロック)の理事就任が紹介された。

なお, 担当業務は後刻協議する。

### 2. 業務担当常務理事報告

#### 1) 庶務(松本理事)

##### (1) 理事補充について

石塚・渡辺両理事辞任に伴い, 5月31日関東, 東海両ブロック代表者に欠員補充を依頼した結果, 6月22日関東ブロックより細川 勉君(慈恵医大教授)が, 8月19日東海ブロックより山原 秀君(山原病院長)が後任に決定した旨, 通知を受取つた。

##### (2) 本会法人化の手続きについて

7月12日, 小畑幹事長と共に文部省情報図書館課担当官に面会, 今後の手続きについて懇談した。

(3) 大阪地方部会長からの FIGO 募金委員推薦方法に関する要望について

7月14日, 藤原大阪地方部会長から, 日母からの推薦名簿は白紙に還して, 改めて日産婦として各地方部に推薦かた依頼されることを要望する旨の通知を受けた。

本件に関しては, 7月28日, 九嶋会長名で事情説明と今後の協力依頼を内容とする回答を送つた。

(4) 和歌山地方部会長からの FIGO 募金委員推薦通知について

7月26日, 一戸和歌山地方部会長から FIGO 募金委員3名追加推薦の通知を受け, その氏名を組織委員会に通知した。今後, 同様の通知については事務的に組織委員会に連絡することにした。了解

##### (5) 日母東海ブロック協議会からの要望書について

7月2日付, 日母東海ブロック協議会山原会長から九嶋会長宛に FIGO 開催に伴う会員からの募金方法は, 寄付によらず本会の特別会費制によつて行われたい旨の要望書を受取つた。本件については FIGO 組織委員会に通知済である。

○ これに関して, 地区によつて事情は異なるであろうが, 募金は強制することはできない。また特別会費制にすると納入しない場合, 罰則のこともあるので寄付という形式をとつたものであり, 近く募金委員会から募金

方法のサンプルを配布するので, それに従つて募金されたい旨 坂元副会長より発言があつた。なお, 先の募金委員推薦に関しては, 事情説明し, 了解を求めている旨追加があつた。了解。

(6) 日産婦・日母連絡会の本会側担当理事の欠員について

渡辺理事の理事辞任に伴い担当理事1名が欠員となっている。

○ 会長より鈴木理事を推薦 承認。

(7) 日本学術会議からの学術関係国際会議代表派遣決定通知について

7月19日, 日本学術会議から FIGO 第8回世界大会への国費派遣は坂元副会長に決定した旨の通知を受取つた。

(8) 昭和52年度文部省科学研究費審査委員候補者推薦依頼について

8月30日, 日本学術会議から標記の候補者第1段3名の推薦かた依頼を受けた。推薦期限は9月30日。

○ 会長より慣例に従い, 委員経験者並びに現委員を除外して投票により決したい旨の発言があり, 投票の結果, 東條理事, 須川理事, 鈴木理事を順位を付けて推薦することに決定した。

##### (9) 第20回日本医学会総会分科会連絡会について

5月21日, 第20回日本医学会総会副会頭および準備委員長から第20回総会について各分科会との連絡会を開催するので6月10日迄に出席者の氏名を通知されたい旨の通知を受けた。常務理事会に諮る時間的余裕がなかつたので, 九嶋会長の下承を得て, 坂元副会長に出席を依頼した。

坂元副会長が7月6日の連絡会に出席され, 7月9日その報告を受取つた。

第20回日本医学会総会の会期は昭和54年4月7日~9日, 学術展示は講演会の前後1週間以上, またプログラム委員会を発足させ具体的企画を立案中であるが, 総会独自の特色をだしたい意向である。学術講演, 学術展示について各分科会の意見・希望を9月末日までに提出するよう依頼を受けている。

○ 連絡員は分科会長である坂元副会長が適当であるが, 同副会長は日本医学会の幹事であるため, 別に連絡員を推薦する必要がある, 会長より 細川理事を推薦, 承認。

(10) 日本医学会会長からの日本医学会評議員会の報告について

7月13日、日本医学会長から第39回日本医学会評議員会(臨時)の報告を受取った。内容は第20回医学会総会の日程、分科会の新設(申請14学会、加盟承認7学会:新生児、人工臓器、免疫、消化器外科、臨床病理、核医学、不妊)、分科会名変更などである。

(11) 日本小児科学会からの通知について

7月27日、筋拘縮症の発生防止について「注射に関する提言(Ⅱ)」を発表した旨の通知を受取った。

(12) 新生児管理改善促進連合ニュースの受領について

7月3日、同連合から新生児連合ニュース 昭和51年 No. 1 を受取った。

(13) 日本救急医学会からの通知について

7月27日、同医学会救急蘇生法基準作成委員会から「救急蘇生法の指針」案の送付と、本会でも検討するよう依頼を受けた。

(14) 日本外科系学会連合会の医療事故研究会について

5月21日、同連合会から第2回会議のテーマとして「診断と検査」を採り上げ7月12日に研究会を開催するので、本会より演者2名を6月20日迄に推薦されたい旨の依頼があつた。

九嶋会長から松浦鉄也、山口光哉両君を推薦したいとはかり、了解された。

(15) 日産婦・日母連絡会について

第1回連絡会(昭和51年4月28日)及び第2回連絡会(昭和51年7月7日)について評議員会記録の報告事項と同一内容を報告。

2) 会計(古谷理事)

(1) 昭和50年度収支決算監査について

7月24日、内野、関、目崎3監事により、昭和50年度会計決算の監査を受けた。

(2) 会計担当理事会の開催

7月24日、会計担当理事会を開催し、専門委員会の予算配分、FIGO 補助金の支出、役員等の旅費規程、職員給与の改訂時期などについて協議した。

○ 3監事を代表し目崎監事より、これらの協議内容は監事として適正であると思われた旨の発言があつた。

(3) 事務職員の増員について

FIGO 特別会計の設置に伴う事務量増加の段階で職員1名の臨時増員が必要である。なお、今年度給与は予備費より支出し、明年度は予算に計上したい。承認。

3) 学術(竹内理事)

(1) 第30回学術講演会シンポジウム担当希望者並びに第31回学術講演会シンポジウム課題の公募については例年通り機関誌8月号から会告を掲載している。期限は11月30日。

(2) 昭和51年度第1回学術企画委員会の開催

9月10日、第1回委員会を開催し、第29回学術講演会の日程、一般演題の詮衡方法、特別講演、教育講演などについて協議した。

協議の結果は後刻答申する。

4) 編集(鈴木理事)

(1) 論文受付状況

5月受付原稿

和文号: 原著9, 速報4, 診療1

欧文号: 原著1, 速報0

6月受付原稿

和文号: 原著9, 速報1, 診療2

欧文号: 原著3, 速報1

7月受付原稿

和文号: 原著10, 速報3, 診療1

欧文号: 原著4, 速報1

8月受付原稿

和文号: 原著9, 速報3, 診療2

欧文号: 原著4, 速報0

(2) 編集担当理事会の開催

7月15日、9月10日、編集担当理事会を開催し、合併号のスタート、その体裁、用紙の紙質向上、投稿規程の改訂などについて協議した。

(3) 編集担当幹事会の開催

8月30日、編集担当幹事会を開催し、機関誌合併に伴う諸問題について協議した。

(4) 欧文原稿投稿についての会告

機関誌28巻8号および9号に本年8月25日以降の欧文原稿の投稿は、第29巻第1号以降の日本産科婦人科学会雑誌に掲載される旨の会告を掲載した。

5) 渉外(東條理事)

メキシコ産科婦人科学会から、同学会の新役員についての通知を受取った。

6) 社保(塩島理事)

8月29日、全国委員会を日母社保全国委員会と合同で開催し、日医疑義解釈委員会、外保連などについて状況を聴取した。

3. FIGO 世界大会組織委員会報告(坂元副会長)

(1) 募金委員会について

今月中に募金趣意書および委員名簿が完成する。完成次第関係者に送付する。

(2) 組織の一部変更について

参与に功労会員を加える。

(3) メキシコ大会に第1回案内を持参できるよう広報委員会で作成中である。

(4) FIGO 理事会に主題案を報告する必要がある、配布資料の如く4群20題の主題(案)をプログラム委員会で選定した。

#### 4. その他

(1) 臨床用分娩監視装置安全基準案について

(前田産科婦人科 ME 問題委員会委員長特別出席)

日本 ME 学会・日本産科婦人科学会分娩監視装置合同委員会で作成した安全基準案(資料配布)について説明

なお、IEC 勧告が未発表のため明年4月には ME 学会で公表する予定なので、本会でもその時期に機関誌に委員会報告として掲載されたい。また昭和48年日母より同問題について本会に諮問があつたので安全基準案が完成した旨回答されたい。以上理事会で承認されるよう要望する。

九嶋会長から、この基準案並びに日母に対する回答文案について諮り承認された。

## II 協議事項

### 1. 新理事の業務分担について(九嶋会長)

山原理事に社保担当、細川理事に庶務担当をお願いしたい。承認。

### 2. 学会法人化の手続きについて(松本理事)

7月12日の文部省担当官との懇談内容について報告、文部省側と了解点に達した定款第46条(事業計画及び収支予算)第1項、及び第50条(定款の変更)へのただし書きの追加、並びに機関誌と欧合併に伴う機関誌の名称などについての施行細則の一部修正、また役員および評議員選任規程第12条(評議員の定数)については附2を追加することなどが説明された。

更に設立申請に当つては、設立発起人会も必要であり、慎重協議の上、九嶋会長から定款、施行細則、役員および評議員選任規程の修正案並びに社団法人設立の手続きをとることについて諮り、出席全理事異議なくこれを承認した。

なお年内に設立が許可された場合の実務的事項などについて2, 3の質疑応答が交された。

### 3. 学術企画委員会の答申について(竹内委員長)

9月10日、学術企画委員会を開催し、次のことを審議したので答申する。

(1) 会場は4会場、一般演題は250題採用する。

宿泊設備の都合上、午後4時に学会を終了する必要がある、4会場制は止むを得ない。原則は2会場制であり、採用演題は250題位、50%程度にしたい。しかし会場を制限し演題を増すには発表時間を短縮せざるを得ない。なお会場数に関しては、次回より開催地決定に際して考慮すべきであるという意見もあつた。

(2) 教育講演、特別講演、招請講演について配布資料の通り答申する。

なお、先の学術企画委員会から答申のあつた「ホルモンの細胞内作用機序」については第28回総会において類似のものが発表されているので除外した。

「卵巣癌の臨床」を教育シンポジウムとしたい。

九嶋会長から、時間の関係で配布資料にある招請講演の(1)を中止する旨の発言があつた。

#### 教育講演

(1) 心身症診療の実際(30分)

秋田大 長谷川直義君

(2) 小児婦人科学の実際(30分)

国立小児病院 高島達夫君

(3) 内視鏡の現況と問題点(30分)

東邦大 林 基之君(または柴田直秀君代講)

(4) 上皮内癌および高度異形成上皮の臨床(30分)

近畿大 野田起一郎君

#### 教育シンポジウム

卵巣癌の臨床(90分)

司会 久留米大教授 加藤 俊君

演者 富山医大教授 泉 陸一君

慈恵医大助教授 寺島芳輝君

久留米大助教授 薬師寺道明君

#### 会長講演

秋田における産科(30分)

九嶋勝司君

#### 特別講演

妊娠中毒症に対する低カロリー療法(40分)

京都大 城戸国利君

#### 招請講演

Fertility control through active

immunization using placenta proteins (仮題)

Prof. V.C. Stevens (Ohio 大)

以上の答申について出席全理事承認。

## ○ 教育シンポジウムの定義について

教育シンポジウムの定義付けがなされていない。シンポジウム形式の教育講演なのか。委員会ではそのように解釈した。シンポジウムの中の教育シンポジウムとすると、演者公募の必要があり時間も3時間となる。

シンポジウム形式の教育講演と考えたい。了解。

○ シンポジウム・特別講演の主題、演者は公募すべきであり、その精神は尊重されたい。

当然であるが、主題は学術企画委員会により独自に企画されることもある。また特別講演については公募の規定も前例もないので、学術企画委員会で検討されたい。了解。

○ 申込み演題数制限に関して、1機関の定義を再確認した。

現在、関連病院も含めて1機関10題以内となつていますが、1機関の定義を再確認したい。分院あるいは2～3講座を有する大学をどのようにするか。

分院、講座数にかかわらず、1機関とは1大学と解すべきである。了解。

## 4. 第29回総会並びに学術講演会の運営について

昭和52年5月20日(金)10時～16時

評議員会並びに総会(県民会館)

5月21日(土):教育講演, 会長講演, シンポジウム(I)(県民会館)。

5月22日(日), 23日(月):一般講演(県民会館①, 秋田銀行ホール②, 正庁ホール③, 教育会館④)。

5月24日(火)特別講演, 招請講演, シンポジウム(II)(県民会館)。

交見は一般講演に限りオーバーヘッドプロジェクターを用いて行いたい。

○ 法人化された場合、総会は評議員会当日でよいのか。

従来通りがよければ、第1日目にするが、このことについては今後検討して決定したい。

以上、スケジュールを承認。

## 5. 専門委員会について

## (1) 委員会経費(古谷理事)

7月24日の会計担当理事会において総額840万円の配分案を次の如くまとめたとの説明があり、質疑応答の上、出席全理事この配分案を承認した。

| 委員会名      | 配分額      |
|-----------|----------|
| 子宮癌登録委員会  | 600,000円 |
| 卵巣腫瘍登録委員会 | 600,000円 |

|              |            |
|--------------|------------|
| 絨毛性腫瘍登録委員会   | 730,000円   |
| 周産期管理登録委員会   | 641,000円   |
| 産科婦人科用語問題委員会 | 880,000円   |
| 産科婦人科 ME     | 598,000円   |
| 産科婦人科栄養      | 930,000円   |
| 産科婦人科教育      | 1,120,000円 |
| 助産婦教育        | 300,000円   |
| 黄体ホルモン剤      | 441,000円   |
| 婦人科癌検診       | 960,000円   |
| 社会保険学術委員会    | 600,000円   |

## (2) 産科婦人科用語問題委員会について(鈴木理事)

(1) 陣痛の強さの表現法, (2) 頸管成熟度, (3) fetal distress について各小委員会報告ができたので機関誌に掲載した。

理事会で承認されれば、広く利用されることを要望する。承認

(3) FIGO 用語委員会からの問合せについて(鈴木理事)

同委員会より, (1) menstruation, (2) Amenorrhea, (3) dysmenorrhea, (4) 胎盤早期剝離について諮問があり, 10月14日メキシコにおける FIGO 用語委員会に報告しなければならない。その取扱いを如何にするか。

これについて会長から用語問題委員会に一任したい旨を述べ承認された。

## 6. 機関誌編集について(鈴木理事)

## (1) 合併号の欧文名について

編集担当理事会では, Acta は Index Medicus にも採用されているので, 従来通り “Acta Obstetrica et Gynaecologica Japonica” としたいとの希望があつた。なお, 欧文号は24～28巻まで欠巻になる形であるが差し支えないようである。承認。

## (2) 学術講演会の英文抄録について

編集担当理事会で検討の結果, 従来通り Acta に掲載したい。承認。

## (3) 投稿規程について

配布資料の如く改めたい。承認。

Key word については検討中であるが, 今回は間に合わない。表紙についても検討中である。

## 7. FIGO 世界大会について

## (1) 第8回 FIGO 世界大会について(会長)

① メキシコにおいて“教育のあり方に関するシンポジウム”が開催される。日本から出席者を推薦されたい旨の要望があつた。

倉智理事，我妻幹事を推薦したい．承認．

なお，坂元副会長より追加説明あり．

② FIGO 総会における Vote 3 票がある．

代表出席者として滝副会長，東條理事，竹内理事（予備として倉智理事，古谷理事）を推薦する．承認．

（2）第9回 FIGO 世界大会について（東條理事）

各委員会において準備中であり，メキシコ大会後，具体的活動に入る．募金については趣意書を作成し，募金の具体的方法について検討中である．

会長より，日産婦が Host であるから理事者は卒先して寄付を行いたい旨の提案がなされ全理事趣旨に賛成．

8. その他 なし

### 第 3 回 理 事 会

日 時：昭和52年1月22日（土）10時～16時

会 場：東京・東京ステーションホテル

出席者：九嶋勝司会長，滝 一郎・坂元正一副会長

理事：足立春雄，飯塚理八，岩井正二，岡田弘二，加藤 俊，塩島令儀，須川 佑，鈴木雅洲，鈴木正勝，関場 香，竹内正七，東條伸平，鳥越正，中山徹也，西村敏雄，野田克巳，橋本正淑，藤原幸郎，古谷 博，細川 勉，松本清一，森 一郎，山原 秀，山辺 徹（欠席：倉智敬一）

監事：内野総二郎，関 闌，目崎鉦太

名誉会員：篠田 紘，丸山 正

副議長：余語栄三

幹事：秋谷 清，荒木日出之助，小畑英介，木川源則，高田道夫，塚田一郎，筒井章夫，寺島芳輝，長谷川直義，松田静治，吉田孝雄，我妻 堯

事務：松崎 進

10時10分，理事総数28名中23名出席，定足数に達したので九嶋会長開会を宣す．

理事会開催に先立ち，九嶋会長より議事録署名人として坂元副会長，鈴木理事を指名す．

#### I 報告事項

##### 1. 業務担当常務理事報告

###### 1) 庶務（松本理事）

###### （1）吉松信宝名誉会員の逝去

昭和51年12月5日逝去，1月29日午後2時より大阪大松下講堂で大阪大学産婦人科教室葬が営まれる．九嶋会長が参列する予定．

###### （2）高齢会員の会費免除について

茨城地方部会から軽部権市会員および山口地方部会から大谷・杵会員の会費免除申請があり，いずれも該当するので申請を受理した．

###### （3）地方部会宛各種通知について

昭和51年11月29日および30日付で，名誉会員・功労会員の候補者推薦，昭和52年度高齢会員会費免除取扱いの申請などについての依頼，評議員の改選，監事候補者の推薦（2月28日締切）の依頼などを通知した．

また，1月17日付で，本年1月評議員改選に際し，選出すべき評議員の定数を通知した．選出される新評議員は全国合わせて362名である．

###### （4）専門委員会の設置改廃について

昭和52年度は専門委員会改廃の年に当るので，機関誌28巻12号に専門委員会の設置手続きについての会告を掲載した．

###### （5）昭和52年度文部省科学研究費審査委員について

第2回理事会の議を経て，9月13日日本学術会議に東條伸平，須川 佑，鈴木正勝の3教授を候補者として推薦した．

なおこの結果について九嶋会長から，東條，須川両教授が決定した旨追加報告された．

###### （6）日母からの礼状について

さきに日母から要請された分娩監視装置の安全基準について，第2回理事会の議を経て9月11日「臨床用分娩監視装置安全基準案」を回答したところ，これについて9月30日，日母森山会長から礼状を受取つた．

###### （7）第3回日産婦・日母連絡会について

第3回連絡会（昭和51年11月17日）について評議員会記録の報告事項と同一内容を報告．

（8）FIGO Cancer Committee への本会からの委員派遣について

橋本名誉会員から，既に本会に FIGO Cancer Committee の委員を交代したい旨申し出ているが，今般同委員会から案内があつたので，誰方が出席されたい旨，会長宛に通知があつた．

本件について子宮癌登録委員会岩井委員長に諮り，滝副会長を推薦されたので，九嶋会長の了承を得て滝副会長に出席を依頼した．

ここで九嶋会長より，FIGO 子宮癌委員会日本代表については従来，橋本名誉会員にお願いしていたが，辞意を表明されているので，滝理事を推薦したい旨を述べられ承認された．

なお、本会子宮癌登録委員会でもそのように決定した旨を岩井委員長より報告があつた。

(9) 新生児連合ニュースの受領について

新生児管理改善促進連合よりニュース No. 2, No. 3を受取つた。

また、昭和51年12月22日、同連合から同連合委員の懇談会を本年1月18日に開催する旨の通知を受けたので、本会からの委員である久保 博、高橋禎昌両委員に連絡した。

(10) 日本小児科学会からの照会について

昭和51年12月2日、さきに同学会から送付を受けた「注射に関する提言(1)、(2)」についての本会での取扱いについて照会を受けた。本会としては、現在、機関誌掲載の予定はしていないのでその旨回答した。

(11) 日本学術会議からの通知について

i) 学協会との懇談会について

第71回総会の報告もかねて昭和51年11月26日、学協会との懇談会を開催するので出席されたい旨の案内を受取つた。従来懇談会への出席は在京の理事をお願いしており、渡辺前理事が出席されていた。今後は鈴木理事をお願いすることにした。

昭和51年11月26日、開催され、その結果について鈴木理事より次のような報告を受けた。

① 学術会議会員選挙の候補者を、学会が機関誌などに公表する場合は、予め選挙管理委員に届け出た後に行う。

② 国際会議を学会と学術会議が共催する場合、国から出る補助は学術会議を中心として管理する。募金などは学会独自で行つてよい。

③ 国際会議を学術会議と共催することを望む場合は、3年前に届出られたい。文部省は国際会議の広報費、会場費などを負担する。但し法人化していなければならない。

④ 科学者憲章についての説明

ii) 11月22日、1977年度学術関係国際会議国費派遣代表候補者推薦依頼の通知を受取つた。

今年度は FIGO 総会はないので推薦しないこととしたい。

○ 内分泌学会、アジア産婦人科学会、International Congress of Human Reproduction など関連学会はどうか(東條理事・他)

○ 関連学会でもよいと思うが、今年度は締切になつたかもしれない。また、関連学会では学術会議の詮衡で

低く評価される可能性がある。来年度からは関連学会も含めて考慮するようにしたい(会長)。了解。

iii) 12月6日、医学教育(歯学、薬学を含む)に関するシンポジウム開催についての案内を受取つた。本件に関しては教育問題委員会倉智委員長にコピーを送付し、飯塚理事が出席することになった。

(12) 日本外科系学会連合会からの通知について

第3回医療事故研究会を3月5日(土)に開催することになり、テーマとして「手術」を採り上げるとのことである。

本会からは「手術により発生した副損傷について」という演題で講演を願いたいので、できれば1月31日までに抄録を送付願いたいとのことである。第3回医療事故研究会のシンポジウム担当者については、九嶋会長から学術企画委員会委員長に一任したい旨が述べられ承認された。

2) 会計(古谷理事)

(1) 専門委員会への昭和51年度予算配分額決定通知について

第2回理事会で承認を得た本年度予算配分額およびその請求方法などを各委員長宛に9月20日通知した。

(2) FIGO 分担金送付について

9月28日、1976年度分担金1,300ドルの送金手続をとつた。

(3) 第9回 FIGO 世界大会特別会計について

静岡銀行東京支店に特別会計の預金口座を新設した。

(4) 機関誌印刷代の値上げについて

本会機関誌の印刷所から、印刷費全体で約13%程度を、できれば52年1月から値上げさせて欲しい旨の要請を受けている。

(5) 広告料金の値上げについて

機関誌広告料金は50年4月に値上げしたが、その後、諸物価、郵便料金の値上がり、また今般の印刷費の値上げ要請などを考慮して、本年4月を目途に15%程度の値上げを計りたい。

(6) 各地方部会別会費納入状況について

昨年9月末現在における地方部会別会費納入状況を集計し、各地方部会に対して、51年11月25日に所属会員氏名および個々の会費納入状況を通知した。9月末現在の全国会費完納率は約70.52%である。また、同時に昭和52年は評議員、役員の改選期であり、その定数は51年12月31日現在の会費完納会員を基礎として算定される旨を書添えて未納会費納入を依頼した。

51年12月31日現在の会費納入率は95.4%である。

(7) 昭和52年度事業計画並びに予算案編成に関する意見・希望聴取について

12月3日、九嶋会長名で、役員および評議員に対し、意見・希望があれば、12月25日までに寄せられたい旨通知した。その結果、役員2名、評議員1名から希望等の開陳があつた。

(8) 第9回 FIGO 世界大会会長並びに事務総長からの要望について

第9回 FIGO 世界大会開催に対する会員の意識向上並びに募金活動の向上を目的としたダイレクトメール(開催趣意書、募金趣意書など)を学会全会員に個々に送る必要とこれに要する約200万円の費用および現在のFIGO 経済状況の説明が坂元会長並びに東條事務総長よりあり、資金面での援助が要望された。

本件に関して、援助については賛成であるが、その費用の支出方法並びに処理方法について種々協議した結果、一応、本会からの立替払とし、その処理方法は第3回理事会で検討願うことになった。

このFIGO 開催趣意書、募金趣意書送付に関する立替金の処理について、九嶋会長から本会全会員に送付したものである。本会会計の中から支出するようにしたい旨の提案があり、古谷理事からも組織委員会で開催趣意書を急送付する必要があると生じ52年度事業を繰上げて行つたもので、資金の関係で学会が立替払をしたものであることを了承されたい旨の説明が行われた。

種々協議の結果 Host society の日産婦から直接費用を出した形として予備費より支出することが承認された。

### 3) 学術(竹内理事)

(1) 第29回学術講演会一般演題の整理について

12月8日、竹内学術企画委員長、高田・木川両幹事が秋田大学に出張し、531題の申込演題を32群に分けた。群別したものをそれぞれのレフェリーに発送した。

(2) 第30回学術講演会シンポジウム演者応募について

- |                |     |
|----------------|-----|
| 1. 子宮内膜異常増殖の病態 | 14名 |
| 2. 妊孕現象と子宮頸部   | 9名  |

の担当希望者があつた。

(3) 第31回学術講演会シンポジウム課題応募について

14題の課題応募があつた。

(4) 第3回学術企画委員会の開催

昭和52年1月21日に開催し、第29回学術講演会の一般

演題の詮衡を行い、その他協議した。

### 4) 編集(鈴木理事)

(1) 論文受付状況

9月受付原稿

和文号：原著6，速報5，診療2

欧文号：原著4，速報0

10月受付原稿

和文：原著5，速報6，診療2

欧文：原著3，速報0

11月受付原稿

和文：原著24，速報2，診療2

欧文：なし

12月受付原稿

和文：原著2，速報4，診療2

欧文：なし

9月受付の欧文は Acta に掲載，9月以降投稿の欧文は合併号に掲載することになった。

(2) キーワードについて

第2回理事会で要望のあつたキーワードについては、調査の結果、和文雑誌20種、欧文雑誌約60種が採用している。将来採用したいと思うが、ある程度リストに合わせたほうがよいと考えるので、さらに検討したい。

(3) 機関誌編集について

昨年12月13日編集担当幹事会を開催し、投稿論文の掲載方法、とくに論文名、所属機関、氏名、抄録(和文、欧文)の掲載方法について協議した。また、機関誌の表紙、機関誌の紙質(事務局に一任)、学術講演会英文抄録(機関誌に掲載)を協議した。なお、表紙および機関誌の紙質については52年1月号より実施されるので、第3回理事会で追認を求めることとし、第5回常務理事会の了承を得て行つた。

(4) その他

i) 投稿規程の(3)に「アート紙、カラー写真は投稿者の自己負担とする」を入れる。

ii) 合併号になつた旨を会告する。

iii) 欧文号の第24～28巻は欠番になる旨を会告する。

iv) 欧文投稿規程を掲載する。

v) 機関誌の紙質に一部問題があるので幹事会で検討し、事務的に処理したい。

vi) 学術講演会英文抄録をいずれに掲載するか後刻協議されたい。総会号に掲載すると約350頁となる。

vii) 編集規定は次回検討したい。

5) 渉外(東條理事)

国際学会の案内について

(1) 第7回アジア産婦人科学会(1977年11月, バンコク)の Preliminary information 約90部を受取った。なお, この7th AFOG の第1回案内は機関誌28巻10号に掲載した。

(2) The 7th Meeting of the International Study Group for Steroid Hormon, 1977年12月, ローマで開催。

(3) The 5th International Congress of Psychosomatic Obstetrics and Gynecology, 1977年11月, ローマで開催。

(4) 5th Sudanese Congress of Obstetrics and Gynecology, 1977年2月, Khartoum で開催。

(5) 国際不妊学会, 1977年4月, マイアミで開催。

(6) The 2nd International Congress of Human Reproduction, 1977年10月, テルアビブで開催。

(7) 1st Asian Congress of Fertility and Sterility, 1977年2月, ボンベイで開催。

(8) 21st British Congress of Obstetrics and Gynecology, 1977年7月, 英国 Sheffield で開催。

(9) IFCPC (International Federation for Cervical Pathology and Colposcopy) からの案内。1972年に始められた団体であり, 1978年に次回 Congress 開催予定, 会費は1ドルで入会を募集中である。

#### 6) 社保(塩島理事)

51年11月27日, 外保連開催, 手術の難易度について検討

52年1月29日, 次回外保連開催予定

〃 2月26日, 小委員会開催予定

#### 2. 法人設立申請の経過報告(松本理事)

第2回理事会以後, 文部省と接衝の結果, 設立申請の際の理事数は現理事28名全員が認められたので, 理事全員に身分証明書と印鑑証明書の送付を依頼した。

昭和51年11月5日, 申請書及び関係書類1組を文部省情報図書館課担当官に手渡し, 一応のチェックを受けた。その結果9月末日現在の最終財産目録及びこれに基づいて作成した寄付申込書を10月末日現在に改めるよう要請を受けた以外には特別指摘されたものはなかった。

11月15日, 九嶋会長, 岩井前会長及び松本理事が文部省の関係部局を訪ね, 法人設立についての配慮を願った。

11月24日, 前述の指摘を受けた書類も完備したので東京都教育委員会に提出, 同教育委員会から文部大臣宛進達書の交付を受けた。

11月25日, 東京都教育委員会からの進達書に設立許可申請書及び関係書類の正本, 副本を添えて文部省情報図書館課に提出, 受理された。

12月4日, 文部省担当官から, ① 日本母性保護医協会の事業目的, 本会との関係, ② 日本学術会議, 日本医学会, 日本医師会との関係, ③ 諸官庁からの諮問等についての具体的事例などについて照会があつた。

12月8日, 情報図書館課, 官房審議班に挨拶。

12月9日, 文部省担当官から12月6日の連絡課長会議にかけられ, これから局長段階に廻る旨連絡があつた。連絡課長会議では定款についての修正はなかった。現在の役員が多いことが一つの問題となつたが, これも52年改選までであるので了解されたとのことであつた。

12月13日, 九嶋会長が再度文部省を訪ね, 関係部局を廻つた。

昭和52年1月11日, 文部省担当官から昭和52年1月7日付で設立が許可された旨の連絡を受け, 即日東京都教育委員会を経由して設立許可書及び副本を受領した。

1月12日, 直ちに東京法務局新宿出張所に対し設立登記の申請を行い, 1月13日登記された。

#### 3. FIGO 第8回世界大会報告

昨年10月17日~22日, メキシコで開催。約6,200名が参加。日本, 米国, 西独からの参加が多かつた。日本から300名以上が参加した。

総会で次回開催地東京及び坂元会長が再確認された。

応募演題は1,500以上あり, うち712題が採用され, またフィルムセッションが盛会であつた。セミナーのテーマが多く30数題であつた。

FIGO 役員が次のように交代された。

President : R.Caideyro Barcia (ウルグアイ)

President-elect : K.P.Russell (USA)

Vice-President : L.Townsend (オーストラリア)

Secretary General : J.S.Tomkinson (イギリス)

Assistant Secretary General :

C.Sureau (フランス), C.MacGregor (メキシコ)

Treasurer : C.Käser (スイス)

Editor of the FIGO Journal :

H.A.Kaminetzky (USA)

Scientific Program Committee :

A.Ingelman-Sundberg (スウェーデン)

#### 4. FIGO 第9回世界大会組織委員会報告(東條理事)

(1) メキシコ大会での広報活動

会場で東京大会のパンフレットを配布して PR を行った。各国プレスマンを集め東京大会の案内を行い、メキシコ大会の組織委員会のメンバーと会合し、学会内容など具体的に打合わせを行った。また、メキシコ大会の新聞に次回は日本であることを掲載し宣伝した。

## (2) 国内の広報活動

日産婦・日母全会員に第9回 FIGO 大会の趣意書、募金趣意書を配布した。機関誌を利用して東京大会について会員への周知徹底を計ると同時に各地区の大会・日母関係の会合に出席して、東京大会について協力要請、広報活動を行いたい。各委員には委嘱状を送付した。

## (3) 学会関係

会期は1979年10月25～31日。開会式場は NHK ホール、学術集会場はホテル・ニューオータニに決定した。会場は14カ所、展示は商業展示も含めて同ホテルの地下駐車場を使用する。

25日、登録と歓迎パーティー

26日、  
27日、 } 学会

……27日夜…ジャパンナイト

28日、午後、総会

29日、学術集会

30日、バンケット

31日、閉会式

24日、28日に教育講演会を計画。

主題の最終決定は FIGO のプログラム委員会で決定される。20題の日本案はメキシコの理事会に提出してある。

公用語は日本語、英語。

事務局はサイマルインターナショナル

(坂元理事より追加)

## (1) FIGO 委員会への代表について

従来、FIGO 各種委員会への代表出席が乏しく不利な面が多かった。委員会への代表出席の旅費補助なども考慮する必要があると思う。

## (2) 第9回 FIGO 大会について

主催：日産婦、協賛：日母ということがあまりよく理解されていないようである。1月23日、募金関係の全国会合を開催する。意志の統一されていない面もあるのでよく了解されるようにしたい。

## 5. その他

○ 配布された各地方部会別会費納入表について2、3の質疑があり、事務局から説明された。

## II 協議事項

### 1. 法人設立許可に伴う諸手続について(松本理事)

(1) 本会法人化に伴う全会員への周知方について  
一般会員に対しては配布案の如き会告を機関誌に掲載し、周知方を計る。

評議員に対しては会告案と同文の通知並びに第28回定例評議員会で要望があり理事会に一任された定款の修正部分を明記した新定款を送付する。承認

(2) 法人に移行する場合の予算並びに財産の譲渡について

法人化後は一度任意団体の決算を行い、数カ月の新予算を編成する必要があるのではないかと監事より意見が出された。

これにつき文部省に問合わせたとこ、同一団体であるから新予算の扱いは4月1日からでよいとの回答を得たので、そのようにしたい。承認

新役員は23名にするか、それとも定款で定めた会員数に応じて決めるのか、という質問あり、後日改めて協議することにした。

### 2. 学術企画委員会の答申について(竹内理事)

#### (1) 第29回学術講演会一般演題の詮衡について

応募総数534題、うち失格3題、途中辞退1題あり、530題を審議の対象とした。学術企画委員会で慎重に審査した結果、合計採用演題247題、採用率46.6%となった。以上答申する。承認

#### (2) その他の事項

##### i) 1機関の解釈について

従来、1機関とは分院等を含むと解釈していたが、九大温研、阪大微研は学部・部局も異なるので独立した1機関として取扱った。なお日本医大の如きを3病院含めて1機関とするのは不公平のように思われたが、結論は出なかった。委員長並びに担当幹事2名で実情を調査し、後日検討することにした。

##### ii) 採用率について

今後申込演題はさらに増加する可能性があり、ますます採用率は低下すると思われる。会員の要望にこたえ採用率を50～60%にするためには1機関7～8題に申込を制限するか、あるいは原則である2会場制を3会場に改めることなどを考えなければならない。

##### iii) シンポジウムの名称について

以前「宿題シンポジウム」「教育シンポジウム」の名称について検討したが、会則変更の必要があるので中止されていた。今回も審議した結果、ニックネームとして

「教育シンポジウム」という名称を用いるのはよいが正式に文字で印刷する場合は「教育講演」とすることにした。

iv) 演題分類について

医学の進歩に伴い再整理が必要。

v) 特別講演の演題並びに演者の選定

現在、定った規約がないので今後検討したい。

vi) 学術企画委員会の内規も再検討したい。

vii) シンポジウムの座長の選考について

慎重に決定する必要があるので、複数制・公募等を考慮している。公募の場合は学企委員が前もって公募資料を検討し、委員長に答申したものを全体委員会に付して決定する。次回から採用したい。

学術集会についての基本的問題について、さらには運営企画委員会との合同審議も考慮している。

○ 第29回学術講演会についてはすでに「教育シンポジウム」の名称を使っているが、次回の会告から改める。 以上承認

3. 第29回総会ならびに学術講演会について（九嶋会長）

5月20日 理事会、評議員会・総会

5月21日 教育講演、会長講演、シンポジウム（Ⅰ）  
主会場のみ使用。

5月22日、23日 一般講演、座長は複数制、質疑はオーバーヘッド・プロジェクター使用、4会場使用。

5月24日 特別講演、教育講演、招請講演、シンポジウム（Ⅱ） 主会場のみ使用。

一般講演のスライドは横長とし、プロジェクターは1台、スライドは10枚以内に制限する。

その他、交通事情、宿泊配分について説明があつた。承認

4. 第30回総会ならびに学術講演会について（滝副会長）

昭和53年4月8日 理事会、評議員会（九電ホール）

4月9日～12日 学術講演会

市民会館（主会場、第2会場）

明治生命ホール（第3会場、展示） 承認

5. 機関誌編集について（鈴木理事）

○ 機関紙の新表紙について 承認

○ 紙質の変更：担当理事会、幹事会に一任することについて 承認

○ 投稿規程と分けて編集規定を新しく定めたい。次

回理事会に提案する。了解

○ 学術講演会英文抄録と和文抄録とを同時に掲載すると約450頁になる。いずれに掲載するか、次回提案したい。了解

6. FIGO 第9回世界大会について（東條理事）

1月23日（日）、全国各地方部会募金委員長会議を開催する。なお古谷理事から FIGO 会計に関する書類を作成中である旨述べられ、了解。

7. 昭和52年度事業計画並びに予算編成方針について

滝副会長から事業計画として法人化に則った運営、FIGO に対する全面協力、学術の振興を3大方針として運営したい旨説明あり、了解された。

これに対して、FIGO 補助金を増額すると同時に、一般会員をさらに啓蒙すべきであるとの意見もあつた。

つぎに予算編成について古谷理事から、先に役員及び評議員に対して昭和52年度の事業計画並びに予算について意見・希望を聴取したが、役員2名、評議員1名から配布資料のような意見がよせられた旨報告があつた。

なお FIGO 募金に関して誤解・不満があるので種々の機会を通じて説明することが申合わされた。

8. その他

1) 役員等旅費規程の改訂について 追認

2) 職員就業規程の改訂について 追認

3) 総会の日程について（九嶋会長）

総会は評議員会の直後に行い、併せて表彰その他の行事も行う。総会案内と委任状は往復ハガキで全会員に送付する。承認

4) 新理事数については次回理事会に提案する。承認

5) 国際外科学会第2回アジア・太平洋合同総会の実行委員推薦について外科系連合学会というべきもので、今回は福島医科大学外科教授が会長である旨、加藤理事より補足説明があつた。

会長より福島 務教授を推薦。承認

6) 賀川玄悦先生没後200年祭に対し本会の協賛依頼あり、西村理事より、補足説明。協賛承認

7) 第4回理事会までに副会長候補者を推薦されたい旨、会長より要望さる。

8) 本会法人化を記念して、秋田地方部会から日産婦学会旗を作成し寄附したい旨、申出あり、了承された。

これも法人化の機会に永年勤続事務職員を表彰したい旨、会長より希望があり、本件に関しては協議の結果、昭和52年度の予算に計上することで承認された。

9. 産科婦人科用語問題委員会に関して（鈴木理事）

(1) 前回評議員会において質問のあつた「偽ムチン性」という言葉について、卵巣腫瘍委員会に問合わせ中のところ、同委員会から単に「ムチン性」としたい旨の回答があつた。了承

(2) FIGO 用語委員会では Term を37W以後とすることについて賛否交々で結論が出せなかつた。

(3) 産婦人科用語集については再検討を要するものがあり、あと1～2年かかる予定である。了承

#### 第 4 回 理 事 会

日 時：昭和52年3月12日（土）10時～17時

会 場：東京・東京ステーションホテル

出席者：九嶋勝司会長、滝 一郎・坂元正一副会長

理事：足立春雄、飯塚理八、岩井正二、加藤 俊、塩島令儀、須川 佶、鈴木雅洲、鈴木正勝、関場香、竹内正七、東條伸平、鳥越 正、中山徹也、西村敏雄、野田克巳、橋本正淑、藤原幸郎、古谷 博、細川 勉、松本清一、森 一郎、山原 秀、山辺 徹（欠席：岡田弘二、倉智敬一）

監事：内野総二郎、関 闌、目崎鉦太

名誉会員：澤崎千秋、水野潤二

議長：木下二亮

副議長：余語栄三

幹事：秋谷 清、荒木日出之助、小畑英介、木川源則、高田道夫、筒井章夫、寺島芳輝、長谷川直義、松田静治、松山栄吉、矢内原巧、吉田孝雄、我妻 堯

事務：松崎 進

10時5分、理事総数28名中23名出席、定足数に達したので九嶋会長開会を宣す。

九嶋会長より議事録署名人として古谷・松本両理事を指名す。

第3回理事会議事録の確認については、会議時間の都合により朗読を省略し、異議があれば後刻、会長まで申し出ることとする。了解

#### I 報告事項

##### 1. 業務担当常務理事報告

###### 1) 庶務（松本理事）

昭和50年度庶務報告は評議員会記録の報告事項と同一内容を報告、また昭和51年度庶務報告については、評議員会記録の報告事項の中間報告を行い、併せて日本医学

会会長、副会長の交代、第20回日本医学会総会準備委員長からの通知、新生児管理改善促進連合などについても報告が行われた。

###### 2) 会計（古谷理事）

(1) 2月19日、会計担当理事会を開催し、昭和52年度予算について協議した。

(2) 会費納入状況は配布資料に見るように昭和51年12月31日現在の納入率95.34%であり、各地方部会の協力に感謝したい。

###### (3) 各委員会の経費について

3月末日で昭和51年度の会計を閉鎖するので、各委員長は早急に委員会経費の精算をお願いしたい。

(4) 印刷費の値上がり、及び広告料の値上げについて

機関誌印刷費が4月から約13%程度値上げになる。これに応じて機関誌刊行協力費（広告料）も15%値上げすることとし、新薬協会の了解もとつた。

###### 3) 学術（竹内理事）

学術企画委員会報告の項で行う。

###### 4) 編集（鈴木理事）

昭和51年における機関誌の刊行などについて評議員会記録の報告と同一内容を報告。

###### 5) 渉外（東條理事）

(1) FIGO Cancer Committee の委員交代について橋本名誉会員に代り滝副会長が後任に決定した旨をFIGO Cancer Committee に通知した。

(2) 3rd World Congress for Cervical Pathology and Colposcopy に関するパンフレットがFIGO 坂元会長のところに届いたので、慶応大学の栗原教授に送付した。

(3) FIGO Committee on Medical Terms and Annual Reports (Vice-Chairman D. Lewin) から Logimed Form などについての書類が届いたので、産科婦人科用語問題委員会鈴木委員長に回付した。

###### 6) 社保（塩島理事）

(1) 日医の疑義解釈 に関する新しい事項はなかつた。外保連では手術難易度について毎月検討中である。

(2) 委員会は51年8月29日、52年2月6日、2回開催した。

(3) 先年、本会で発行した診療要綱の改訂については、日産婦・日母社保委員会で検討することになった。

##### 2. 学術企画委員会委員長報告（竹内理事）

昭和52年3月11日（土）第3回学術企画委員会を開催し、(1) 第30回学術講演会シンポジウム演者の詮衡、

(2) 第31回学術講演会シンポジウム課題の詮衡, (3) 申請のあつた登録・専門委員会について, (4) その他, 一般演題応募に関する一機関の定義, 示説の可否等について討議した。その結果については後刻答申する。

### 3. 運営企画委員会委員長報告 (松本理事)

昭和52年3月11日(土)第1回運営企画委員会を開催し, (1) 申請のあつた登録・専門委員会について, (2) 理事選出に関する選任規程の一部変更, (3) 学術講演会のあり方について, などを討議した。これに基づいてその結果を後刻答申する。

### 4. 第9回 FIGO 世界大会組織委員会報告 (東條理事)

(1) 具体的スケジュール, 決定事項を機関誌29巻2号より掲載し, 会員に周知方をはかる。

(2) 会期は1979年10月25日～31日, 会場はホテルニューオータニ, 会場の使用計画を具体的に検討中である。

(3) 学術集会の主題について

先に, 日本案をFIGO・Program Committeeに提案したが, 過日, Program Committeeより日本案を考慮した第1案(主題8)がとどいた。近日, 日本でFIGO・Program Committeeを開催する予定である。

(4) 教育講演(10月24日)鈴木小委員長のもとで具体策を検討中である。

(5) 学術展示, 商業展示: 細川委員長のもとで検討中である。

(6) 広報活動については, 機関誌, 日母医報等を通じて行っている。

(7) 会期終了後, 関西で別途の会を計画中である。

(8) 国内会員向けに教育講演会について

10月28日(日)の午後は総会が行われ, 各国代表者のみの出席となるので, その時間を利用して教育講演会を開催するよう検討中である。

さらに坂元 FIGO 総会会長の追加発言があつた。

九嶋会長から FIGO 問題に関する地方部会長会を5月22日昼食時間に開催する予定である旨述べられた。

### 5. その他 なし。

## II 協議事項

### 1. 昭和50年度決算及び昭和51年度見込決算につき承認を求める件 (古谷理事)

2月19日会計担当理事会を開催した。

(1) 昭和50年度決算について

昭和50年度収支決算書の内容について説明。

目崎監事から, 昭和51年7月24日, 内野, 関, 目崎3監事で監査の結果, 適正であると認めた旨の監査報告が行われた。

ついで会長からこの件につき承認を求め, 出席全理事承認。

(2) 昭和51年度見込決算について

合同名簿の売上金が入金したので, 昭和51年度収支決算見込書のうち収入の一部を変更して説明。

この説明に対し,

○ 出納閉鎖の時期はいつにしているか, 総会開催の時期が毎回一定していないので困難と思うが…3月31日にしている。

○ 現在, 学会では経理規程がないが, 法人化されたので今後は出納規程を作る必要があると思うが…, 検討する。

○ 法人化したので, 昭和51年度は任意団体の決算と法人の決算が必要なのではないか…, 文部省の了解により1通の決算書でよいことになっている。

などの質疑応答があり, 九嶋会長から総会では51年度の確定決算書を提出することになるが, 総会までに理事会がないので, 決算書検討を会計担当理事会に一任されたい。なお後日臨時理事会で追認をいただくことになる旨説明があり了解された。

ついで会長から昭和51年度見込決算の承認を求め出席全理事承認。

### 2. 昭和52年度事業計画並びに予算について

(1) 事業計画 (滝副会長)

方針として, 定款に従い従来の事業を行うとともに, 特に学術の振興, FIGO への協力につとめたい。具体的には, FIGO 補助金の増額, FIGO に対する会員の理解促進, 専門委員会活動の強化などである。

(2) 昭和52年度予算(案)について (古谷理事)

副会長の意向, 役員・評議員からのアンケートなどを考慮して作成した。

資料・案について説明

歳入は繰越金を4,100万円程度に変更。

歳出は新規事業として永年勤続職員表彰事業費, 地方部会長会費を設け, 予備費が前年に比べて約1,600万円程度減少していることなどの詳細を説明。

これについて質疑応答があり繰越金も減少しているので, 53年度には会費の値上げを考慮する必要性も論ぜられ, 九嶋会長から昭和52年度予算(案)について承認を求め, 出席全理事承認。

### 3. 学術企画委員会の答申について（竹内理事）

1) 第30回（昭和53年度）学術講演会シンポジウム演者について

竹内委員長より学術企画委員会における審議内容についての説明があり以下の答申がなされた。

#### （1）子宮内膜異常増殖の病態

○ 早川謙一君（異常増殖を示す内膜細胞の性格に関する細胞生物学的検討）

○ 加藤順三君（人内膜癌の Peceptor 分析）

○ 植木 実君（子宮内膜の異常増殖，とくに異所性子宮内膜病増殖の病態解明に関する研究）

以上をシンポジウム演者とし，

○ 石束嘉男君，関谷宗英君を予定追加発言者とした。

#### （2）妊孕現象と子宮頸部

○ 一條元彦君（分娩時の頸管開大機構）

○ 齊藤良治君（子宮頸熟化の電顕的研究）

○ 橋本武次君（妊娠子宮頸部の生体力学的研究）

○ 平川 舜君（ヒト子宮頸部の軟化機序に関する生化学的研究）

以上をシンポジウム演者とし，菊地三郎君を予定追加発言者とした。

会長から答申について諮り，出席全理事承認。

座長については（1）は須川 信教授，（2）は鈴木正勝教授と決定した。

会長から座長につき諮り，出席全理事承認。

#### 2) 第31回学術講演会シンポジウム課題について

14の応募課題と従来のものを併せ，（i）排卵をめぐる問題，（ii）早期頸癌をめぐる問題，（iii）分娩周辺期をめぐる問題，（iv）その他 について慎重審議した結果，

#### （1）排卵をめぐる卵巣の生理・病理

—ヒト卵巣を中心としての問題点—

#### （2）早産因子の解析と対策

以上の2課題を詮衡した。

これについて，

○ 排卵誘発も含まれるか？ 然り。

○ 排卵抑制はどうか？ 討議されなかつたが，卵巣因子に限って可と思う。…などの質疑応答があつた。

会長からこの2課題に決定してよいかを諮り出席全理事承認。

#### 3) その他

（1）予定追加発言者の「追加」の言葉が好ましくないで，予定発言者としてはということが討議された。

（2）座長の複数制についても検討したが，運営企画との関連もあるので継続審議事項とした。

会長から以上のことにつき承認が得られるかを諮り承認。

#### 4. 運営企画委員会の答申について

#### 5. 専門委員会の設置改廃について

#### 6. 理事選出について

以上3件は企画委員会の答申に関連があるので一括協議する。

#### 1) 専門委員会の設置改廃（松本理事）

運営企画委員会としては申請のあつた11委員会の設置は認められる。但し，登録委員会では登録業務に多くの委員を必要としない。登録方法，結果の検討，関連学会との対応などもやるべきであるが，懇話会的なものは委員会が中心となつて別に自由に行うべきである。その他，委員兼務の整理，委員長（原則的に理事，問題によつては理事以外でも可），2年間で行う具体的問題の明確化の必要性，委員数（20名程度）等が討議され，要望事項として答申することになった。

（竹内理事）学術企画委員会においても次の11委員会の設置は可とした。

子宮癌登録，卵巣腫瘍登録，絨毛性腫瘍登録，周産期管理登録，用語問題，ME 問題，教育問題，癌検診問題，社保，小児思春期問題，栄養代謝問題

委員長は次年度第1回理事会にはかり会長が委嘱し，委員は第2回理事会にはかり，委嘱することになる。

会長から，申請のあつた11委員会の設置について諮り，11委員会の設置が承認された。

なお本件について次のような質疑が交わされた。

○ 学術企画委員会では，専門委員会の委員数は予算に影響しないので制限の必要はないという意見である。

実質的な活動をしてもらうため，少数精鋭主義をとりたい。また将来は旅費等のことも考慮する必要があるとの要望により少数人数でよいとした。

○ 社保学術委員会は委員会業務というよりも，学会自体の業務として行われるべきではないか…。厚生省，日医などに対応する窓口の性格である。今後検討するが，今回は委員会として継続されたい。

○ 学術企画委員は同一機関から2名出てもよいのか。またシンポジウム演者についても同様に考えてよいのか…。特に制限はないと思う。

#### 2) 理事選出について（松本理事）

定款で理事数は18名以上23名迄である。

○ 現在役員選任規程通りに選出すれば配布資料の通り理事数は21名となる。理事数を定款で定められた最高の23名にするためには選任規程の一部を変更しなければならない。

第3回理事会において理事数を23名にすることが要望されたので、運営企画委員会において審議した結果、次のような選任規程の改正案を答申する。

なお、理事、評議員定数の算出基礎になる「12月31日現在の会員数」で、しばしば疑義を生ずるので選任規程第6条、第12条を次のように改めることを併せて答申する。

(選任規程第6条改正案)。

理事の定数は、各ブロックごとに前年の12月31日現在そのブロックに所属する会員で会費を完納した会員数700名につき……1名を加え得るものとする。但し理事総数が23名を超え、または下つたときは、理事会は各ブロックの比例人員または端数が生じた場合の人員を変更し、理事総数を23名にする。

(同規程第12条改正案)

評議員の定数は、各地方部会ごとに前年の12月31日現在、その地方部会に所属する会員で会費を完納した……。

なお、この変更は定款に抵触しない。

以上の説明について第12条の「但し以下」も評議員数が常に370名になるよう改めては…、との発言もあつたが、これは将来の問題とした。

会長から選任規程の改正案につき承認が得られるかを諮り出席全理事承認。

次に理事選出に関して運営企画委員会で検討された下記の件について協議されたい。

「理事選出年度でない年度に理事以外のものが副会長に選出された場合はその所属ブロックの理事は如何にするか」。委員会での審議の結果は、そのブロックの理事と交代する以外に方法はないであろうということになった。

これについて会長から交代ということにはなろうが、前理事は議決権を持たないで1年間理事会に出席できるようにしてはどうかと提案され了解された。

九嶋会長から先の選任規程の改正は評議員会の承認を得なければならないので、資料にある如く、理事数が21名になるよう各ブロックで選出されたい。なお東海および九州は資料にある数より各々1名あて増員となることを含みとして次点者を用意されたい(合計23名)。予め各ブロックで候補者を選出しておき、評議員会で選任することになる旨述べられた。

これに関して選出の時期、場所等に疑義を生じたが、討議の結果、締切り時期を付さずに各ブロックに依頼し、評議員会における本件議案上程までに候補者を会長に届けることとした。

#### 7. 副会長及び第32回総会並びに学術講演会開催地選定について(九嶋会長)

会長から副会長候補者として松本清一教授、竹内正七教授の2名が推薦されている旨報告があり、投票の結果副会長に松本清一自治医科大学教授、第32回総会並びに学術講演会開催地として、東京都を評議員会及び総会に推薦、承認を求めることとした。

#### 8. 名誉会員及び功労会員推薦について(九嶋会長)

##### (1) 名誉会員候補者について

岩井正二、九嶋勝司、佐伯政雄の3会員を推薦することに決定。

##### (2) 功労会員候補者について

次の15名の候補者について協議の結果、15名とも推薦することに決定。

田畑武夫(北海道)、三宅秀郎(東京)、彦坂恭之助(東京)、天野一忠(神奈川)、依田省吾(山梨)、花岡堅而(長野)、越野達郎(福井)、今泉静夫(愛知)、山田利男(愛知)、山原 秀(愛知)、田中亀三郎(京都)、浜田春次郎(大阪)、正岡 旭(広島)、八木国男(熊本)、遠矢善栄(鹿児島)

#### 9. 機関誌編集について(鈴木理事)

##### (1) 学術講演会英文抄録の掲載について

和文抄録との同時掲載は頁数を著しく増加するので、和文抄録掲載号の次号とすることにしては如何。承認

##### (2) 編集内規

配布資料の如く、内規案を作成した。承認

#### 10. 第29回総会ならびに学術講演会について(九嶋会長)

##### (1) 総会、評議員会、学術講演会の日程

配布資料の如く作成したが、この承認が得られるか。承認

##### (2) 総会運営について

総会通知および委任状の様式は配布資料の通り、会員への通知方法は機関誌4月号に折り込みとする。なお各地方部会長に委任状提出促進方を依頼する。承認

#### 11. 第29回定例評議員会について(九嶋会長)

##### (1) 議長、副議長の選出

仮議長(評議員中より)を選び、次いで詮衡委員会に付議し、評議員会で決定する手順となる。

## (2) 運営委員会

評議員会の当日開催する。運営委員の人数は関東・近畿・九州ブロックは各3名、その他のブロックは各2名とする。なお、運営委員と議長・副議長・監査委員は兼務とされたい。

## (3) 予算決算委員会

従来通り、評議員会の当日開催する委員数は関東・近畿・九州ブロックは各3名、その他のブロックは各2名とする。

運営・予算決算委員推薦方の依頼は早急に行う。

以上一括承認

## 12. 第30回総会ならびに学術講演会について（滝副会長）

昭和53年4月8日：評議員会、総会。

昭和53年4月9日～12日：学術講演会。以上了解

特別講演2題の取扱いについて質問があつたが、今回の学術企画委員会では討議されなかつた旨答弁。

## 13. 第9回 FIGO 世界大会について（東條理事）

1979年10月28日（日）の午後は FIGO 総会（代表者のみ出席）に当るので、その時間に3会場位で国内会員向けの医政問題を含めた教育講演を行いたい。鈴木小委員長のもとで計画されるが、課題等について日産婦学会の意見を伺いたい。

鈴木理事から特に方針、形式などについて伺いたい。内容でもよいが詳細なものでなくてよい旨が述べられ、会長から理事各位は意見、具体案などを4月15日までに学会事務局に提出されるよう要望。了解

なお東條理事から参加資格者（参加費を支払わないものでも参加させるか、寄附をしたものは？）については後日検討したい旨発言があつた。

## 14. その他

## 1) 高齢会員の会費免除について

事務的に処理してよろしいか。承認

入会時期が約半年位遅れたために永久に恩典を受けられない会員がいて、各地方部会は困っている。運営企画委員会で検討されたい旨の要望もあつたが、本来は会費完納40年以上ということであり、本会設立後40年を経っていないので現在は暫定措置として「本会設立当初」としている。どこに線を引くかは非常に困難な問題なので現行のままで了解願うこととした。

## 2) 2年以上の会費未納者処理について

各地方部会に再度問合せ、納入方を督促する。評議員会資料は3月31日以降のものとするこゝでよろしいか。

了解

**臨時理事会**

日 時：昭和52年5月20日（金）9時～10時

会 場：秋田県民会館3階会議室

出席者：九嶋勝司会長、滝 一郎・坂元正一副会長

理事：足立春雄、飯塚理八、岩井正二、岡田弘二、加藤 俊、倉智敬一、塩島令儀、須川 佑、鈴木雅洲、鈴木正勝、関場 香、竹内正七、東條伸平、鳥越 正、中山徹也、西村敏雄、野田克巳、橋本正淑、藤原幸郎、古谷 博、細川勉、松本清一、森 一郎、山原 秀、山辺 徹

監事：内野総二郎、関 闡、目崎鉦太

名誉会員：明石勝英、赤須文男、小川玄一、加来道隆、小島 秋、小南吉男、澤崎千秋、篠田 紘、夏目 操、橋本 清、長谷川敏雄、丸山 正、水野重光、水野潤二、山村博三

議長：木下二亮

幹事：秋谷 清、荒木日出之助、小畑英介、木川源則、高田道夫、塚田一郎、筒井章夫、寺島芳輝、長谷川直義、松田静治、松山栄吉、矢内原巧、吉田孝雄、我妻 堯

事務：松崎 進

9時、理事総数28名全員出席、九嶋会長開会を宣す。九嶋会長より、議事録署名人として古谷・松本両理事を指名す。

**I 報告事項**

## 1. 庶務（松本理事）

1) 産科婦人科ME問題委員会からの依頼について  
前田委員長から、「臨床用胎児心電計規格（案）」について本理事会に報告したいとの申出があつた。さらに「臨床用分娩監視装置安全基準案」及び「臨床用胎児心電計規格（案）」をME学会では機関誌6月号に掲載する予定なので、本会においてもなるべく同時期に公表されるよう希望する旨 ME 学会長から連絡があつたことでもあり、両案の機関誌掲載を認められたいとの申出があつた。承認

2) 免疫学的尿中エストリオール測定試薬の健保採用に関する要望書について

日母より、厚生省、日本医師会に要望するにあたり、本会と連名の要望書を提出したい旨の依頼を受けた。本会としては理事会の了承を得るいとまがなかつたので、

会長及び社保担当常務理事の了承を得て依頼に応ずることとした。本理事会の事後承認をお願いする。承認

## 2. 編集（鈴木理事）

国際がん研究データバンク計画（ICRDB）への英文著者抄録の採用許可依頼について

4月28日、（財）国際医学情報センターから、米国国立癌研究所（NCI）の国際がん研究データバンク計画プログラムの日本及びアジア諸国における情報センターとしての業務を開始したが、本会機関誌は論文毎に英文要旨を掲載しているので、これを著者抄録として入力用に採用させて欲しい旨許可を求めてきた。入力用に採用された著者抄録は“author abstract”と明示され、全世界の研究者にその情報が流布されることになる。このことについては昨年末 NCI から依頼があり、その際にもこの依頼に応ずることとし、機関誌第28巻第6号にもこのことを掲載しているので、今回の依頼にも応ずる旨を5月9日回答した。了解

## II 協議事項

### 1. 昭和51年度決算につき承認を求める件（古谷理事）

昭和50年度収支決算および財産目録についての報告。昭和51年度収支決算の監査結果について報告。承認

### 2. 昭和52年度予算案の一部変更に関する件（古谷理事）

予算案の一部変更理由とその内容について説明がなされた。承認

### 3. 昭和52年度決算の取扱いについて（九嶋会長）

52年度決算は昭和53年3月15日で切るので、第30回評議員会でのこの面の資料は当日配布することになる（時間的制約の為に止むを得ないことの説明がなされた）。尚予算決算委員会委員には前もって決算書草稿を送附し検討してもらう。この件について本日の評議員会で予算が承認された後、会計理事から説明して了解を求めることにした。承認

### 4. 第29回評議員会について（九嶋会長）

総会との関連において評議員会の運営について説明があつた。今回は定款による第1回の総会なので評議員会に引続いて午後3時半より行うことにした旨説明がなされた。承認

### 5. その他

（1）母子保健法および健康保険法の一部改正について（木下議長）

社会党より国会に上記改正についての議案が提出され

た旨説明がなされた。その内容は分娩費の現物給付が主であり、この対応策について日母、日医でも検討しているので本学会としての態度、対策についての検討がなされた。その結果、本日の評議員会に議案を追加提出、審議してその取扱い方法を決定することにした。

### （2）黄体ホルモン剤問題委員会報告（松本委員長）

検討成績を機関誌に掲載するに当つて、本理事会で内容の検討、承認を得たい旨の説明があり、審議の結果、内容の一部の文章の修正をして掲載することが承認された。

## 第29回日本産科婦人科学会評議員会

日 時：昭和52年5月20日（金）10時～15時30分

会 場：秋田市・秋田県民会館

### 出席者

会長：九嶋勝司

副会長：滝 一郎，坂元正一

理事：足立春雄，飯塚理八，岩井正二，岡田弘二，加藤 俊，倉智敬一，塩島令儀，須川 佑，鈴木雅洲，鈴木正勝，関場 香，竹内正七，東條伸平，鳥越 正，中山徹也，西村敏雄，野田克巳，橋本正淑，藤原幸郎，古谷 博，細川 勉，松本清一，森 一郎，山原 秀，山辺 徹

監事：内野総二郎，関 闌，目崎鉦太

### 評議員：

（北 海 道）一戸喜兵衛，小国 親久，木脇 祐普，小森 昭，佐竹 実，清水 哲也，関口 四郎，西谷 巖，橋本 正淑，横尾 和夫 （10名）  
（東 北）品川 信良，関 一彦，長沢 一磨，永山 正剛，松本益太郎，利部 輝雄，工藤 直彦，佐藤 友義，秦 良磨，安達 寿夫，一條 元彦，斉藤 一夫，鈴木 雅洲，高橋 克幸，東岩井 久，平野 睦男，村井 秀夫，五十嵐信寛，長谷川直義，福島 峰子，真木 正博，大沼 雅彦，広井 正彦，松尾 正孝，山下 徹，富松 俊行，福島 務，星 敬一，村田 武司，渡辺 宏 （30名）  
（関 東）秋葉 照夫，秋元 正雄，岩崎 寛和，岩間 芳雄，早乙女二郎，瀬尾 芳寛，星合 久司，隅田 能文，玉田 太朗，中山 博之，橋口 精範，松本 清一，五十嵐正雄，平山量太郎，石井 照雄，岡部 忠夫，岡村 泰，久保木 元，小林 賀雄，佐々木寿男，佐藤 美好，田淵 孫一，田村 武

藤間 利行, 萩原 信之, 丸山 正義, 三上 正  
 清川 彰, 工藤 純孝, 小堀 恒雄, 高橋 清  
 高見沢裕吉, 皆川 進, 山崎 敬逸, 渡辺 義男  
 相羽早百合, 秋谷 清, 荒井 清, 荒木日出之助  
 飯塚 理八, 石原 力, 岩城 章, 岩田 正晴  
 尾島 信夫, 織田 明, 小畑 英介, 大内 広子  
 大川 公康, 大村 清, 大屋 敦, 沖永 莊一  
 加藤 順三, 唐沢 陽介, 河合 信秀, 木川 源則  
 木下 二亮, 木下 佐, 菊地 三郎, 北井 徳藏  
 栗原 操寿, 小林 拓郎, 五味潤政人, 斉藤 幹  
 真田 幸一, 塩見 勉三, 神保 利春, 杉山 四郎  
 鈴木 正彦, 鈴村 正勝, 相馬 広明, 高木 繁夫  
 高田 道夫, 高橋 文子, 竹内 久弥, 街風 喜雄  
 塚田 一郎, 塚本 信一, 筒井 章夫, 坪井 秀夫  
 露口 元夫, 寺島 芳輝, 永田登喜雄, 中山 徹也  
 野末 源一, 蜂屋 祥一, 橋本 武次, 藤原 幸郎  
 古谷 博, 福井 靖典, 穂垣 正暢, 細川 勉  
 堀口 貞夫, 増渕 一正, 松浦 鉄也, 松沢 邦昌  
 松田 静治, 松山 栄吉, 水野 正彦, 諸橋 侃  
 矢内原 巧, 山口 光哉, 山本 皓一, 吉田 茂子  
 吉田 孝雄, 我妻 堯, 新井 正夫, 荒木 勤  
 内田 勝次, 長内 国臣, 太田 徹, 木村 龍夫  
 小林 一夫, 佐伯 政雄, 塩島 令儀, 島田 信宏  
 鈴木 健治, 住吉 好雄, 関口 允夫, 田所 文夫  
 田村 正男, 武田 重三, 中村 隆次, 浜田 宏  
 林 茂, 原田 輝武, 藤井 明和, 三宅 清平  
 室岡 一, 山本 浩, 岩田 嘉行, 岩井 正二  
 石井 次男, 木村 好秀, 福田 透, 山田 貞一  
 岡田 和親, 川島 吉良, 河田 修, 佐橋 良雄  
 塚田不二彦, 寺尾 俊彦, 舟橋 守, 安井 志郎

(143名)

(北 陸) 後藤 司郎, 笹川 重男, 高橋 光雄  
 竹内 正七, 野口 正, 半藤 保, 宮川 糧平  
 渡辺 重雄, 泉 陸一, 大沢 汎, 越野 三男  
 館野 政也, 藤田 敏雄, 岡田 国佐, 桑原 惣隆  
 高邑 昌輔, 古谷小三郎, 飯田 和質, 加藤 初蔵  
 山田 良

(20名)

(東 海) 磯田 和夫, 豊木 実, 野田 克己  
 松尾 龍雄, 真鍋 真, 飯田 茂樹, 石原 実  
 大池 哲郎, 可世木辰夫, 加納 泉, 須之内省三  
 千原 勤, 友田 豊, 鳥居 章, 中西 勉  
 中西 正美, 並木 勉, 蜷川 映巳, 野口 圭一  
 堀 好二, 水野金一郎, 八神 喜昭, 山原 秀

余語 栄三, 杉山 陽一, 鈴木 昶, 野口 多六  
 森本 英雄 (28名)

(近 畿) 青地 重夫, 寺井 晋, 山田 兵衛  
 吉田 吉信, 今木 重雄, 小野 和男, 小畑 義  
 岡田 弘二, 中村 隆一, 西村 敏雄, 伴 一郎  
 平井 脩, 東山 秀声, 村上 旭, 森 武史  
 石黒 達也, 井上 公男, 茨木健二郎, 植田 勝間  
 緒方 正美, 小沢 満, 小橋 正, 尾崎 公巳  
 河田 優, 木梨 敦夫, 倉智 敬一, 後藤田克巳  
 近藤 一郎, 猿渡 善美, 榎木 勇, 下村 虎男  
 菅本 一三, 須川 佑, 杉本 修, 竹村 喬  
 棚橋 馨, 寺村 定雄, 新田 一郎, 西野 英男  
 野田起一郎, 野田 定, 畑 孝雄, 藤井 恵  
 福井 雅夫, 山田 文夫, 余語 郁夫, 吉田 威  
 合阪俊二郎, 浅野 定, 磯島 晋三, 井上 康  
 岡村 稷, 川島 武夫, 小林 正義, 佐藤 弘  
 東條 伸平, 名方 正夫, 仲野 良介, 半田 博美  
 古川 語正, 望月 真人, 山下 澄雄, 山田 正雄  
 坂口 正一, 西川 義雄, 藤原 敏郎, 山口 龍二  
 吉田 秀夫, 池田 武司, 井上 欣也, 玉置友三郎

(71名)

(中 国) 前田 一雄, 北尾 学, 田野 俊彦  
 赤堀和一郎, 新 太喜治, 浮田 昌彦, 小川 重男  
 関場 香, 高知 床志, 田中 良憲, 武田 佳彦  
 江川 義雄, 網谷 一雄, 志田原睦雄, 新甲 洋  
 土光 文夫, 藤原 篤, 渡辺 英二, 黒川 亨一  
 円谷 一雄, 鳥越 正, 西村 博通, 姫野 英雄

(23名)

(四 国) 赤枝日出雄, 足立 春雄, 井川 昭  
 阪口 彰, 高柳 真, 明比 暁, 古市 正典  
 猪原 照夫, 中嶋 晃, 飯塚 治, 玉井 研吉  
 秦 親公 (12名)

(九 州) 安部 宏, 鬼木 博之, 片瀬 敏  
 加藤 俊, 金岡 毅, 木村 静夫, 楠田 雅彦  
 白川 光一, 久永 房雄, 久永 幸生, 薬師寺塩道  
 薬師寺道明, 山上 健, 山下 保海, 渡辺 英一  
 大隈 良貴, 夏秋 繁生, 馬場 常澄, 迎 俊彦  
 今村 臣正, 藤田 長利, 松尾宗一郎, 三浦 清麿  
 山口 茂安, 山辺 徹, 中山 道男, 前山 昌男  
 岩永 邦喜, 門田 徹, 吉川 暉, 肥田木 孜  
 秦 喜八郎, 日高 英幸, 細川義一郎, 森 憲正  
 池田 友信, 池田富士雄, 生野 正博, 外西 寿彦  
 前田 末男, 松元 重達, 森 一郎, 赤嶺 正次

川平 昌晄, 竹中 静広 (45名)  
(以上382名)

(委任状による出席者)

(北海道) 兼元 敏隆, 後藤 史郎, 成田 太  
芳賀 宏光, 森 茂

(東北) 武田 正美, 千村 哲朗

(関東) 石島 千城, 鈴木 基一, 沖 真澄  
佐藤 恒治, 中村 慎治, 加藤 宏一, 塚原 和夫  
大野虎之進, 加藤 周, 黒坂 二助, 小林 金市  
雨森 良彦, 佐藤 和雄, 津野 清男, 中西 敬  
深町 庫次, 馬島 季磨, 水口 弘司, 百瀬 和夫  
安達 健二, 安西 節重, 鈴木 忠雄, 田中 洋  
堀越 登, 清水 澄雄, 山本 正之, 小嵐 正三  
谷 道也, 中島 清

(北陸) 四位例 章, 西田 悦郎

(東海) 白木信一郎, 福島 稷, 本橋 義夫  
吉川 一弥

(近畿) 富永 敏朗, 飯島 弘治, 飯島 宏  
中村 寛一, 峯田 春光, 小国 美種, 武内久仁生  
吉田 豊

(中国) 富永 好之, 中曾 栄吾, 国重 憲  
秋本 若二, 佐藤 秀生, 平位 剛

(四国) 三木 周平, 岩崎 正, 浦田 佐  
吉良 猛

(九州) 熊本 有宏, 河津 竜介, 堀永昌三郎  
牧 美輝 (以上64名)

名誉会員: 明石勝英, 赤須文男, 石塚直隆, 小川玄一  
加来道隆, 川上 博, 小島 秋, 小林 隆,  
小南吉男, 澤崎千秋, 篠田 紂, 夏目 操,  
野嶽幸雄, 橋本 清, 長谷川敏雄, 藤生太  
郎, 藤森速水, 丸山 正, 水野重光, 水野潤  
二, 森山 豊, 山村博三, 渡辺金三郎

(以上23名)

功労会員: 石井 碩, 村井敏男, 明城春弥, 金上良  
仁, 並木資四郎, 篠田秀男, 桜井 誠, 河  
津 衛, 中津幸男, 関 闌, 水口 章,  
目崎鉦太, 庄司 新, 田口亮太郎, 小倉知  
治, 的埜 中, 勝 慶徳, 斉藤孝俊, 内野  
総二郎, 林 勝 (以上20名)

幹事: 秋谷 清, 荒木日出之助, 小畑英介, 木川源則  
高田道夫, 塚田一郎, 筒井章夫, 寺島芳輝, 長  
谷川直義, 松田静治, 松山栄吉, 矢内原巧, 吉  
田孝雄, 我妻 堯 (以上14名)

事務: 松崎 進

開会 午前10時, 九嶋会長, 第29回日本産科婦人科学  
会評議員会を開会する旨, 宣言。

松崎事務局長より仮議長の選出方法をはかり, 会長一  
任と決定。

九嶋会長より松尾正孝評議員 (山形) を仮議長に推薦  
する旨発言あり 承認。

## I 議長・副議長選出

松尾仮議長: 午前10時現在, 出席評議員282名, 定足  
数に達しているので評議員会は成立する旨を宣言。

仮議長より, 議長・副議長の選出は役員および評議員  
選任規程の第14条により選出する旨発言。承認。

別室にて詮衡委員会開催

詮衡委員

北海道ブロック: 関口四郎, 横尾和夫

東北ブロック: 松本益太郎, 斉藤一夫

関東ブロック: 五十嵐正雄, 木下二亮, 佐橋良雄

北陸ブロック: 岡田国佐, 飯田和賀

東海ブロック: 真鍋 真, 余語栄三

近畿ブロック: 青地重夫, 棚橋 馨, 吉田秀夫

中国ブロック: 高知床志, 絹谷一雄

四国ブロック: 赤枝日出雄, 古市正典

九州ブロック: 久永房雄, 秦喜八郎, 前田末男

休憩

10時30分再開

松本詮衡委員長報告

議長: 木下二亮評議員, 副議長: 余語栄三評議員・横  
尾和夫評議員を詮衡委員会として推薦する旨の報告がな  
された。

松尾仮議長から詮衡委員会推薦の議長・副議長につい  
て挙手による賛否を問う。

挙手多数により議長・副議長決定

木下議長, 余語・横尾副議長のもとで評議員会再開。  
議長より議事録署名人として, 蜂屋祥一評議員, 山口光  
哉評議員を指名した。

九嶋勝司会長挨拶

## II 報告

### 1. 本学会法人設立報告

九嶋会長より法人設立の経過についての説明があり,  
前回の評議員会で認められた範囲内で定款の一部改正に  
ついて説明がなされた。

昭和52年1月7日社団法人日本産科婦人科学会の設立  
が許可され, 定款, 施行細則, 選任規程が同時に発足し

た。

質疑なく報告を承認。

## 2. 庶務報告（松本理事）

### I 昭和50年度庶務報告

#### 1. 昭和50年度会員数

昭和49年度末会員総数 14,896名

（昭和49年度保留者47名を含む）

昭和50年度入会者数 399名

昭和50年度退会者数 241名

（物故会員100名を含む）

会費未納による除名者数 54名

住所不明による退会取扱者数 33名

昭和50年度末会員総数 14,967名

（昭和50年度保留者45名を含む）

物故会員氏名は下記の通り。この中には、樋口一成  
名誉会員、松田正二理事、土橋英夫、中沢録郎、藤井厚男

3 功労会員が含まれている。

昭和50年度物故会員氏名

（昭和50. 4. 1～昭和51. 3. 31 五十音順）

赤堀すみ江、姉齒 房雄、家城 博泉、五十嵐宏一  
石黒 キヨ、入江 登、今井 強、伊藤 茂三  
植苗福次郎、上杉 亨、遠藤 俊行、大塚 近雄  
小原 庸三、角井 光一、加藤 朝捷、加藤 正松  
金田 清、釜本 正憲、木下 卓司、清岡 俊彦  
工藤 富隆、久保 慶蔵、久米 要、倉田 時彦  
黒沢 雄三、倉智 芳子、後藤 尚三、小松 秋明  
小松原 裕、今野 章、近藤 正芳、近藤 謙吉  
斉藤 祐吉、佐々木 脩、佐々木順一郎、佐藤 章  
島田 尚守、末藤 正徳、菅野 末光、住友 勝一  
関口 衡、高木 昇、高野 敏夫、高橋 載  
竹口 守一、竹村 昌実、田中 徹、谷口 賢哉  
近森 正文、椿 四方介、東郷 義一、富田 貞治  
富樫 正平、土橋 英夫、中川 太郎、中川 兵次  
中沢 録郎、中島慎一郎、中野 純治、中野 郁佑  
中谷 勝治、西山 博三、根本 衛、野中 瑞穂  
野原 肇、橋本 達明、浜野 真、原 竜彦  
番場 和夫、日吉 陸人、樋口 一成、久富 義雄  
姫野 靖雄、広田 耐濕、福田 寛一、藤井 厚男  
藤関 義範、藤田 シヅ、船津 寿美、本庄 英雄  
本多 啓、松岡 信夫、松岡 道夫、松田 正二  
丸山 邦夫、万歳 茂、三浦 良治、三原勝三郎  
宮本 勤、村上 宰俊、望月 克巳、山内 繁雄  
山口 敬、山崎 行宣、山城 慶一、山本 熊吉

米川 衛、横山 重男、渡辺 盾太、渡辺 範介  
（以上100名）

全員起立 一黙祷一

#### 2. 役員異動

松田正二理事、昭和51年3月1日逝去されたので、北  
海道ブロックに対し、後任理事の補充を依頼した。

#### 3. 評議員異動（昭和50年4月～昭和51年3月）

##### 1) 定数内評議員の異動（届出順）

| 地方<br>部会 | 離任者<br>氏 名 | 離任<br>時期 | 離任又は<br>就任理由 | 補充者<br>氏 名 | 補充<br>時期 |
|----------|------------|----------|--------------|------------|----------|
| 宮 城      | 山田 千里      | 50. 4    | 辞 任          | 高橋 克幸      | 50. 4    |
| 愛 知      | 川島 吉良      | 50. 4    | 転 出          | 友田 豊       | 51. 1    |
| 熊 本      | 森 憲正       | 50. 5    | "            |            |          |
| 石 川      | 岡田 国佐      | 50. 6    | 定数外移行        | 赤祖父一知      | 50. 6    |
| 東 京      | 荒木 日出之助    | 50. 6    | "            | 久慈 直志      | 50. 7    |
| "        | 武田 重三      | 50. 6    | "            | 筒井 章夫      | 50. 7    |
| 三 重      | 野口 多六      | 50. 6    | "            | 本橋 義夫      | 50. 6    |
| 神奈川      | 岩崎 寛和      | 50. 7    | 転 出          |            |          |
| 埼 玉      | 中山 道男      | 50. 7    | "            | 萩原 信之      | 50. 9    |
| 京 都      | 杉山 陽一      | 50. 9    | "            | 伴 一郎       | 50. 10   |
| 東 京      | 相馬 広明      | 50. 11   | 定数外移行        | 矢内原 巧      | 50. 11   |
| 三 重      | 中村 隆一      | 51. 1    | 転 出          | 森本 英雄      | 51. 2    |
| 福 岡      | 光藤 博通      | 51. 3    | 辞 任          |            |          |

##### 2) 定数外評議員の異動（届出順）

| 地方<br>部会 | 離任者<br>氏 名 | 離任<br>時期 | 離任又は<br>就任理由 | 補充者<br>氏 名 | 補充<br>時期 |
|----------|------------|----------|--------------|------------|----------|
| 北海道      | 松田 正二      | 50. 4    | 理 事 就 任      |            |          |
| 宮 城      | 鈴木 雅洲      | "        | "            |            |          |
| 栃 木      | 松本 清一      | "        | "            |            |          |
| 東 京      | 飯塚 理八      | "        | "            |            |          |
| "        | 坂元 正一      | "        | "            |            |          |
| "        | 鈴村 正勝      | "        | "            |            |          |
| "        | 中山 徹也      | "        | "            |            |          |
| "        | 藤原 幸郎      | "        | "            |            |          |
| "        | 古谷 博       | "        | "            |            |          |
| "        | 渡辺 行正      | "        | "            |            |          |
| 神奈川      | 塩島 令儀      | "        | "            |            |          |
| 新 潟      | 竹内 正七      | "        | "            |            |          |
| 岐 阜      | 野田 克巳      | "        | "            |            |          |
| 愛 知      | 石塚 直隆      | "        | "            |            |          |
| 京 都      | 岡田 弘二      | "        | "            |            |          |
| 大 阪      | 倉智 敬一      | "        | "            |            |          |
| "        | 須川 佑       | "        | "            |            |          |

|     |       |      |        |         |       |
|-----|-------|------|--------|---------|-------|
| 兵庫  | 東條 伸平 | 50.4 | 理事就任   |         |       |
| 岡山  | 関場 香  | "    | "      |         |       |
| 山口  | 鳥越 正  | "    | "      |         |       |
| 徳島  | 足立 春雄 | "    | "      |         |       |
| 福岡  | 加藤 俊  | "    | "      |         |       |
| "   | 滝 一郎  | "    | "      |         |       |
| 佐賀  | 内野総二郎 | "    | 監事就任   |         |       |
| 長崎  | 山辺 徹  | "    | 理事就任   |         |       |
| 鹿児島 | 森 一郎  | "    | "      |         |       |
| 静岡  |       |      | 教授就任   | 川島 吉良   | 50.4  |
| 宮崎  |       |      | "      | 森 憲正    | 50.5  |
| 東京  | 小川 正巳 | 50.5 | 教授退職   |         |       |
| 石川  | 内田 一  | 50.6 | 地方部長交代 | 岡田 国佐   | 50.6  |
| 東京  |       |      | 教授就任   | 荒木 日出之助 | 50.6  |
| "   |       |      | "      | 武田 重三   | 50.6  |
| 茨城  |       |      | "      | 岩崎 寛和   | 50.6  |
| 三重  | 本橋 義夫 | 50.6 | 地方部長交代 | 野口 多六   | 50.6  |
| "   |       |      | 教授就任   | 杉山 陽一   | 50.9  |
| 東京  | 武田 重三 | 50.9 | 転出     |         |       |
| 神奈川 |       |      | 教授就任   | 武田 重三   | 50.10 |
| 東京  |       |      | "      | 相馬 広明   | 50.11 |
| 山形  |       |      | "      | 広井 正彦   | 50.12 |

## 4. 役員会及び幹事会の開催

定例理事会4回(4, 5, 1, 3月)

臨時理事会2回(4, 11月)

会計担当理事会3回(5, 7, 2月)

学術担当理事会1回(2月)

編集担当理事会4回(5, 11, 1, 3月)

渉外担当理事会3回(4, 8月)

常務理事会11回(5, 6, 7, 9, 10, 11, 12, 2, 3月)

幹事会10回(5, 6, 7, 9, 11, 12, 1, 2月)

## 5. 総会並びに学術講演会の開催

第27回総会並びに学術講演会

昭和50年4月 京都市西村敏雄会長

## 6. 会則の変更

学会事務所移転が第27回定例評議員会で承認され、この移転に伴い会則第2条の学会事務所所在地を変更することが総会で承認された。

## 7. 会費及び購読料の改訂

第27回定例評議員会において昭和50年度会費を6,000円に改訂することが承認され、併せて機関誌購読料も和欧両方ともそれぞれ年額6,000円に改訂された。これに伴い施行細則の一部も変更された。

## 8. 法人化検討特別委員会の設置

第27回定例評議員会で法人化問題を再検討することが承認されたので、昭和50年5月、法人化検討特別委員会が設置された。

## 9. 昭和50年度高齢による会費免除会員

昭和50年度から新たに43名が免除されることとなった(氏名は機関誌28巻3号341頁に掲載済み)。

## 10. 菊田会員の退会取扱い

宮城地方部会から菊田昇会員を除名した旨の通知を受取つたので、本会としては退会の取扱いを行つた。

## 11. 会費未納会員の除名

昭和50年9月、2年以上会費未納会員54名の除名の処理を行つた。

## 12. 昭和51年度文部省科学研究費審査委員候補者の推薦

日本学術会議からの依頼により第1段審査委員候補者として竹内、東條両理事を推薦した。その結果、竹内理事が委員に委嘱された。

## 13. 昭和51年度学術関係国際会議国費派遣申請について

第3回理事会の議を経て、坂元理事、滝副会長を候補者として申請した。

## 14. 日産婦・日母合同会員名簿の刊行

昭和50年9月、日産婦・日母合同全国会員名簿が完成し、両会会員の希望者に実費頒布されている。

## 15. 厚生省からの諮問について

昭和50年11月、厚生省から胎児の母体外生命保続可能性に関する諮問を受け、第3回理事会の議を経て昭和51年1月回答した。

## 16. 日本医学会評議員の交代

岩井正二評議員の任期は本年3月をもつて満了となるため、本会から昭和51、52年度日本医学会評議員として松本清一理事を推薦した。

## 17. 日本医学会用語委員について

日本医学会編 医学用語辞典刊行事業のため、本会からの委員として鈴木正勝理事、代員として石原力君を決定し通知した。

## II 昭和51年度庶務報告

## 1. 社団法人日本産科婦人科学会の設立

昭和52年1月7日付で文部大臣から設立の許可を受け、同日付で定款、施行細則、役員および評議員選任規程が施行された。また設立登記も昭和52年1月13日付で完了、預貯金関係、電話加入権も法人名義に切換えた。

また設立について評議員，地方部会長に通知し，機関誌第29巻第2号にも会告を掲載した。

## 2. 昭和51年度会員数

昭和50年度末会員総数 14,967名

(昭和50年度保留者45名を含む)

昭和51年度入会者数 420名

昭和51年度退会者数 295名

(物故会員131名を含む)

会費未納による除名者数 41名

住所不明による退会取扱者数 20名

昭和51年度末会員総数 15,031名

(昭和51年度保留者59名を含む)

物故会員氏名は下記の通り。この中には三林隆吉，吉松信宝両名誉会員，内田豊咲，小原信行，大屋精一，斉藤公平，平山健康，前田洲，村井貞寛，渡辺福明8功労会員，小林静一，橋本義夫，林基之3評議員が含まれている。

## 昭和51年度物故会員氏名

(昭和51. 4. 1～昭和52. 3. 31 五十音順)

秋山 牧子，安達 始郎，甘利 正人，新井俊五郎  
荒木 大助，安藤 良夫，安楽 兼昌，飯塚 稚次  
家坂 直清，池沢 淳，伊東 幸雄，石川 原  
石川 清隆，石原 一郎，稲葉 瑞穂，犬竹 正雄  
犬養 仙，猪俣 広，伊村 公男，岩端実之助  
内田 豊咲，内田 淳，江口勝四郎，大窪 之利  
大島 繁雄，太田 隆滋，大屋 精一，尾形容太郎  
芋木昇一郎，小倉 始宣，奥山 秀一，小野 順治  
小原 信行，加藤 官治，金尾 年久，兼城 昌賀  
兼松 豊次，釜石 功雄，釜本 四郎，儀保 宣栄  
木村 正俊，木村 嘉博，工藤 敏，国枝 洋  
国富 基衛，久保田梧樓，熊切俊太郎，桑原 胤彦  
香坂義一郎，小林 静一，斉藤 公平，佐々木 作  
笹島 鏡子，佐藤 勝信，沢崎 嘉衛，志賀 一親  
重松 成義，嶋長 進一，清水甲子夫，下里 英司  
瀬在 忠幸，高井 喬利，高山 肇，滝野 昌典  
竹村 玄達，橋 宥之，田中 輝彰，田渕 次彦  
谷 信一，谷 隆亮，玉置 昭雄，鶴岡 保徳  
時永 達己，友則 一男，中尾 豊作，長崎 次郎  
中野 進，中野兵太郎，中村四十吉，名越 和美  
二階堂達弥，西 康一，錦織 登，橋本 義夫  
蜂谷 一朗，浜田 道子，林 忍，林 基之  
東野 有子，比嘉 松栄，平野 文雄，平山 健康  
福田 昌子，福本嘉三郎，藤田 慎江，藤野 重雄

藤吉 喬，端 哲郎，堀田 繁樹，前多順次郎  
前田 洲，正木 久直，間島 春雄，真瀬垣 正  
松家 政雄，松田 泰治，松本 則章，松本 正夫  
水口 俊助，三林 隆吉，宮沢つるよ，南 賢次郎  
村井 貞寛，持山侃二郎，元島 義信，森脇 一之  
八木 繁，八木 治美，安井 雅美，山本 一也  
築詰 勝彦，祐森 市蔵，吉岡 高，吉田富士夫  
吉松 信宝，吉邨 勝次，力丸 豪，渡辺 福明  
和田 等，和田 信夫，鷺尾 了諦

(以上131名)

全員起立 一黙祷――

## 3. 役員異動

松田正二理事の後任として昭和51年4月，橋本正淑君が決定。

石塚直隆，渡辺行正両理事が昭和51年5月名誉会員となり，理事を辞任されたので，その後任として同年6月細川勉君，同年8月山原秀君がそれぞれ決定。

## 4. 理事の業務分担

岩井前会長：学術担当

橋本理事：学術担当

細川理事：庶務担当

山原理事：社保担当

第1回及び第2回理事会で以上の通り担当が決められた。

## 5. 常務理事の交代

第28回総会を経て坂元学術担当常務理事の副会長就任に伴い，竹内理事が学術担当常務理事（学術企画委員会委員長）に決定した。

また竹内常務理事の学術担当常務理事への移動により，鈴木理事が会長指名の常務理事に決定した。

渡辺社保担当常務理事の辞任に伴う社保担当常務理事には塩島理事が決定した。

## 6. 評議員異動（昭和51年4月～昭和52年3月）

### 1) 定数内評議員の異動（届出順）

| 地方部会 | 離任者氏名 | 離任時期  | 離任又は就任理由 | 補充者氏名 | 補充時期  |
|------|-------|-------|----------|-------|-------|
| 神奈川  |       |       | 欠員補充     | 鈴木 忠雄 | 51. 4 |
| 岐阜   | 西尾 好司 | 51. 4 | 転出       | 白木信一郎 | 51. 4 |
| 京都   | 伴 一郎  | 51. 4 | 定数外移行    | 中村 隆一 | 51. 4 |
| 〃    | 吉田 吉信 | 51. 4 | 転出       | 平井 侑  | 51. 4 |
| 茨城   | 岩間 芳雄 | 51. 4 | 定数外移行    | 関 進   | 51. 4 |
| 福岡   |       |       | 欠員補充     | 山上 健  | 51. 4 |
| 東京   | 中津 幸男 | 51. 4 | 転出       | 露口 元夫 | 51. 5 |

|    |       |        |         |       |        |
|----|-------|--------|---------|-------|--------|
| 鳥取 | 北尾 学  | 51. 4  | "       | 富永 好之 | 51. 7  |
| 佐賀 | 迎 俊彦  | 51. 4  | 定数外移行   | 大隈 良貴 | 51. 4  |
| 岩手 | 小林 静一 | 51. 5  | 死 亡     | 工藤 直彦 | 51. 5  |
| 茨城 | 栗田口宏三 | 51. 5  | 辞 任     | 瀬尾 芳寛 | 51. 5  |
| 青森 | 真木 正博 | 51. 5  | 転 出     |       |        |
| 宮崎 | 丸田 美德 | 51. 6  | 辞 任     | 細川義一郎 | 51. 6  |
| 東京 | 泉 陸一  | 51. 6  | 転 出     |       |        |
| 愛知 | 山原 秀  | 51. 8  | 理 事 就 任 | 中西 正美 | 52. 1  |
| 京都 | 石原 貞尚 | 51. 8  | 辞 任     | 小畑 義  | 51. 8  |
| 山口 | 大楽 高弘 | 51. 10 | "       | 円谷 一雄 | 51. 10 |
| 栃木 | 川上 稔  | 51. 11 | "       | 中山 博之 | 51. 11 |
| 大阪 | 塚原 英克 | 51. 11 | 転 出     |       |        |
| 熊本 | 橋本 義夫 | 51. 12 | 死 亡     |       |        |

## 2) 定数外評議員の異動(届出順)

| 地方部会 | 離任者氏名 | 離任時期  | 離任又は就任理由 | 補充者氏名 | 補充時期  |
|------|-------|-------|----------|-------|-------|
| 富山   | 中曾根敬吉 | 51. 4 | 地方部会長交代  | 藤田 敏雄 | 51. 4 |
| 佐賀   |       |       | "        | 迎 俊彦  | 51. 4 |
| 京都   | 田中亀三郎 | 51. 4 | "        | 伴 一郎  | 51. 4 |
| 茨城   | 関 進   | 51. 4 | "        | 岩間 芳雄 | 51. 4 |
| 北海道  | 橋本 正淑 | 51. 5 | 理 事 就 任  |       |       |
| 滋賀   |       |       | 教 授 就 任  | 吉田 吉信 | 51. 5 |
| 島根   |       |       | "        | 北尾 学  | 51. 6 |
| 宮崎   | 細川義一郎 | 51. 6 | 地方部会長交代  | 森 憲正  | 51. 6 |
| 東京   | 細川 勉  | 51. 6 | 理 事 就 任  |       |       |
| 秋田   |       |       | 教 授 就 任  | 真木 正博 | 51. 8 |
| 東京   | 林 基之  | 52. 2 | 死 亡      |       |       |
| 和歌山  | 一戸喜兵衛 | 52. 3 | 転 出      |       |       |
| 北海道  |       |       | 教 授 就 任  | 一戸喜兵衛 | 52. 3 |

## 7. 役員会の開催

定例理事会 4 回 (5, 9, 1, 3 月)

臨時理事会 1 回 (5 月)

会計担当理事会 2 回 (7, 2 月)

編集担当理事会 4 回 (7, 9, 1, 3 月)

常務理事会 8 回 (4, 7, 8, 10, 11, 12, 2 月)

幹事会 9 回 (4, 6, 8, 10, 11, 12, 2 月)

## 8. 総会並びに学術講演会の開催

第28回総会並びに学術講演会

昭和51年 5 月 松本市 岩井正二会長

## 9. 昭和51年度高齢による会費免除会員

昭和51年度から新たに27名が免除されることとなった。(氏名は機関誌第29巻第3号368頁に掲載)

## 10. 会費未納会員の除名

昭和51年 9 月, 2 年以上会費未納会員42名の除名の処理を行った。

## 11. 評議員の改選

昭和52年 1 月は, 評議員の改選時期であり, 改選による選出評議員の定数は362名である。このほか地方部長及び大学産婦人科教授が定数外の評議員となる。

## 12. 昭和52年度文部省科学研究費審査委員候補者の推薦

日本学術会議からの依頼により, 第1段審査委員候補者として東條, 須川, 鈴村の3教授を推薦した。その結果, 東條, 須川両教授が決定した。

## 13. 昭和51年度学術関係国際会議国費派遣

坂元副会長がメキシコにおける第8回 FIGO 世界大会に国費により出席した。

## 昭和51年度地方部会別会費納入成績並びに改選評議員定数

(昭和51年12月31日現在)

| 地方部会名 | 会員総数    | 完納者数    | 評議員定数 | 地方部会名 | 会員総数       | 完納者数       | 評議員定数 |
|-------|---------|---------|-------|-------|------------|------------|-------|
| 北海道   | 516 (7) | 507 (7) | 13    | 千葉    | 452 (10)   | 399 (10)   | 10    |
| 青森    | 165     | 164     | 4     | 東京    | 2,498 (37) | 2,327 (37) | 58    |
| 岩手    | 171 (1) | 154 (1) | 4     | 神奈川   | 865 (2)    | 821 (2)    | 21    |
| 宮城    | 264 (1) | 261 (1) | 7     | 山梨    | 85         | 69         | 2     |
| 秋田    | 129 (2) | 127 (2) | 3     | 長野    | 224 (1)    | 222 (1)    | 6     |
| 山形    | 148 (2) | 144 (2) | 4     | 静岡    | 338 (3)    | 318 (3)    | 8     |
| 福島    | 245     | 201     | 5     | 新潟    | 279 (3)    | 267 (3)    | 7     |
| 茨城    | 272 (4) | 270 (4) | 7     | 富山    | 115 (1)    | 113 (1)    | 3     |
| 栃木    | 199 (5) | 186 (5) | 5     | 石川    | 143 (1)    | 130 (1)    | 3     |
| 群馬    | 239     | 216     | 5     | 福井    | 79         | 79         | 2     |
| 埼玉    | 474 (5) | 436 (5) | 11    | 岐阜    | 196        | 188        | 5     |

|     |            |            |    |     |                 |                 |     |
|-----|------------|------------|----|-----|-----------------|-----------------|-----|
| 愛知  | 641        | 636        | 16 | 香川  | 105 (6)         | 103 (6)         | 3   |
| 三重  | 174        | 173        | 4  | 愛媛  | 149 (1)         | 145 (1)         | 4   |
| 滋賀  | 86 (1)     | 77 (1)     | 2  | 高知  | 91              | 85              | 2   |
| 京都  | 416 (6)    | 393 (6)    | 10 | 福岡  | 632 (12)        | 600 (12)        | 15  |
| 大阪  | 1,328 (19) | 1,287 (19) | 32 | 佐賀  | 110 (5)         | 109 (5)         | 3   |
| 兵庫  | 661 (9)    | 631 (9)    | 16 | 長崎  | 215 (6)         | 211 (6)         | 5   |
| 奈良  | 159 (1)    | 154 (1)    | 4  | 熊本  | 221 (6)         | 218 (6)         | 5   |
| 和歌山 | 153        | 146        | 4  | 大分  | 145 (1)         | 145 (1)         | 4   |
| 鳥取  | 97         | 97         | 2  | 宮崎  | 112 (3)         | 111 (3)         | 3   |
| 島根  | 97         | 85         | 2  | 鹿児島 | 262 (4)         | 261 (4)         | 7   |
| 岡山  | 255 (12)   | 249 (12)   | 6  | 沖縄  | 85 (1)          | 85 (1)          | 2   |
| 広島  | 346 (2)    | 346 (2)    | 9  |     |                 |                 |     |
| 山口  | 190 (6)    | 190 (6)    | 5  | 合計  | 14,991<br>(186) | 14,302<br>(186) | 362 |
| 徳島  | 165        | 165        | 4  |     |                 |                 |     |

\* ( ) 内は会費免除会員数再掲  
納入率は会費免除会員数を除く

#### 14. 日本医師会疑義解釈委員

昭和51, 52年度委員として, 三宅秀郎博士に引続き依頼することとし, 昭和51年5月その旨を日本医師会に通知した。

#### 15. 日産婦・日母連絡会

連絡会担当理事: 松本, 塩島, 鈴木, 藤原, 古谷

連絡会担当幹事: 荒木, 小畑, 高田, 松田, 吉田

##### ○第1回連絡会

昭和51年4月28日(水) 於日母会議室

##### 報告事項

日産婦側: ① 合同名簿頒布についての会告および製作費の精算, ② 未熟網膜症検討グループ懇談会内容の機関誌掲載, ③ 日産婦日母用語懇談会の日産婦側委員の推薦, ④ 日医疑義解釈委員の推薦, ⑤ 役員異動など。

日母側: ① 昭和51年度事業計画, ② 今年度および来年度の研修テーマ, ③ 特別研修, ④ FIGO 第9回世界大会への協力など。

##### 協議事項

① 日母側から全国産科婦人科学主任教授との懇談会, ② 日産婦との産科用語懇談会の設置を撤回して日母に産科用語委員会を設置することなどが提起され協議した。

##### ○第2回連絡会

昭和51年7月7日(水) 於日産婦事務所

##### 報告事項

日産婦側: 第28回総会に報告し, または承認を得た主

要事項, 役員の異動など。

日母側: ① 準看存続に関する決議, ② 慣用語委員会の設置, ③ 日母特別研修, ④ 昭和51年度ブロック協議会の予定, ⑤ 第3回日母大会, ⑥ フェニールケトン尿症の血液検査の実施など。

##### 協議事項:

報告事項のうち要点について協議

##### ○第3回連絡会

昭和51年11月17日(水) 於日母会議室

新たに日産婦側連絡担当理事に鈴木理事が当ることになった旨紹介。

##### 報告事項

日母側: ① 慣用語委員会委員に街風氏を委嘱, ② 硫酸スパルティン製剤の静脈内投与適用中止, ③ 医療事故防止特別研修, ④ 優生保護法届出書類の改訂, ⑤ NICU に関する厚生省宛の要望書, ⑥ 風疹ワクチンの実施, ⑦ 第4回日母大会開催など。

日産婦側: ① 山原理事の就任, ② FIGO 第8回メキシコ大会での次期大会会長坂元理事の決定, ③ 日産婦学会の法人化, ④ 機関誌の和文・欧文号合併など。

##### 協議事項

① 慣用語委員会の運営, ② FIGO 東京大会の募金などについて協議。

##### ○第4回連絡会

昭和52年2月2日(水) 於日産婦事務所

##### 報告事項

日産婦側：① 社団法人産科婦人科学会の設立，② FIGO 第9回世界大会，③ 第29回総会ならびに学術講演会，④ 第30回総会ならびに学術講演会など。

日母側：① 優生手術，人工妊娠中絶実施報告，② 人工妊娠中絶の際の配偶者の同意，③ 新生児ネームバンド，新生児引取り確認書，④ 昭和50年度の外表奇形に関する調査結果，⑤ 風疹生ワクチン使用の手引，⑥ 新生児黄疸光線療法および黄体ホルモンによる奇形発生の問題，⑦ 日母医療事故特別研修，⑧ 昭和52，53年度日母大会など。

#### 協議事項

① 日産婦側から産婦人科診療要綱，機関誌和文号・欧文号の合併，用語委員会で採択された陣痛の強さ，頸管の成熟度，Fetal distress などについて説明し意見を求め，② 日母側から日産婦第29回総会ならびに学術講演会開催中に日母と全国大学教授との懇談会開催，日産婦産科婦人科用語委員会の統一見解の日母医報への掲載，硫酸スバルティンなどについて提案され，協議した。

#### 16. 日本医学会定時評議員会

昭和52年2月28日開催され，松本評議員の代理も兼ねて出席した坂元日本医学会幹事からその報告を受取った。

昭和51年度日本医学会年次報告，次回医学会総会準備状況が主たる内容である。

#### 17. 本会事務所の月1回土曜日休業

本年2月から毎月1回第3土曜日を休業にすることとした。

#### 質問：

松尾評議員（山形）

1) 会員の移動について：内容を検討したが実質は71名の増加になっている。退会者について，241名の中物故者100名を除くと141名であるが，退会の動機について調査されたかどうかうかがいたい。

2) 地方部会の名称について：山形県地方部会か山形地方部会か，どちらの名称が正しいのか。

答弁：松本理事

1) 241名中物故者100名，会費未納54名，住所不明33名，その他となる。その他のものの理由としては学術講演会で発表のための一時入会者が多いと思う。

2) 県はつけない。山形地方部会とする。

以上の庶務報告 承認

#### 3. 編集報告（鈴木理事）

##### 1. 昭和51年における機関誌の刊行

##### 1) 和文号

第28巻は，第1号から第12号まで12冊発行した。

総頁数は1,554頁，その内容は原著112編，研究速報30

編，診療15編，欧文号抄録55編，その他総会並びに学術講演会関係記事，報告，雑報等である。

総会並びに学術講演会関係記事としては，第28回学術講演会関係記録一切を第9号に，第28回総会その他の議事記録を第10号に掲載した。

##### 2) 欧文号

第21巻第4号，第22巻第3号から第4号および第23巻第1号から第2号まで5冊を発行。第21巻第4号は第26回総会の講演要旨を収録し，その頁数は68頁である。

また第22巻第1号から第4号までの総頁数は297頁で，その内容は，Originals 29編，Prompt Reports 2編，Summaries 52編，それに第27回総会の講演要旨が93頁分ある。

##### 2. 編集担当理事会の開催

昭和51年7月15日，昭和51年9月10日，昭和52年1月21日，昭和52年3月11日の4回開催し，合併号その他について協議した。

##### 3. 機関誌和文号と欧文号の合併

機関誌欧文号（Acta Obstetrica et Gynaecologica Japonica）は，昭和52年から和文号（日本産科婦人科学会雑誌）に合併された。このため，欧文号第24巻から第28巻までは欠刊となる。

##### 4. 投稿規程の改正

従来の投稿規程には，編集上の規程も含まれているのでこれを削除して，新しい投稿規程を作製，第2回理事会（昭51. 9. 11）の承認を得て，昭和51年11月から実施した。なお，機関誌第28巻第10号より新投稿規程を掲載した。

新投稿規程は，編集上の項目を除外した以外に，第何条を止めて，数字のみとした。また，1.には外国から送付された原稿を考慮して「原則として」を挿入，5.に和文原稿の用紙をB5版に指定，6.のAbstractをSynopsisに，10.に引用文献番号をつけ，11.に速報の性格を明記した。

##### 5. 編集内規

編集規程は編集内規として，編集方針，機関誌の内容，原稿の種類，会告他，論文の採否，掲載費および別刷の7項目として，学術講演会の原稿，速報の採用基準を主として明示し，第4回理事会（昭52. 3. 12）の承認を受けた。

##### 6. 学術講演会の英文抄録

頁数および編集の都合上，総会号の次の号に掲載したい。

##### 7. 未熟児網膜症検討グループ報告

機関誌第29巻第3号に掲載した。

##### 8. Key Word

採用することを検討中である。

## 以上編集報告 承認

## 4. 委員会報告

## 企画委員会

1) 運営企画委員会(松本委員長)

2) 学術企画委員会(竹内委員長)

## 専門委員会

1) 子宮癌登録委員会(岩井委員長)

2) 卵巣腫瘍登録委員会(加藤委員長代読九嶋会長)

3) 絨毛性腫瘍登録委員会(石塚委員長)

4) 周産期管理登録委員会(坂元委員長)

5) 産科婦人科用語問題委員会(鈴木委員長)

6) 産科婦人科 ME 問題委員会(前田委員長)

7) 産科婦人科栄養問題委員会(古谷委員長代読九嶋会長)

8) 産科婦人科教育問題委員会(倉智委員長)

9) 助産婦教育問題委員会(品川委員長)

10) 黄体ホルモン剤問題委員会(松本委員長)

11) 婦人科癌検診問題委員会(竹内委員長)

12) 社会保険学術委員会(塩島委員長)

質問なく、これら報告を承認。

## 5. FIGO 第9回世界大会組織委員会報告

坂元 FIGO 世界大会会長挨拶

東條事務総長報告

昨年10月、第8回メキシコ大会で東京開催が正式に決った。メキシコで東京大会の運営に関する打合せを行ない以後は実務活動に入っている。

会期は1979年10月25日～31日、開会式は NHK ホール、学術集会はホテルニューオータニに決定した。

沢崎募金委員長報告

昨年の評議員会で、募金委員会で行うことが決められたのでその線で募金を行っている。実務は組織委員会と協力して行ない、募金は学会の特別会計として組み込んで監査を受けている。

募金委員会は各都道府県、大学関係、中央委員会の3部門に分けて募金活動を行っている。

3月末迄に集った金額は大学関係2,820万円、都道府県1,475万円で、合計金額は43,046,000円である。

質問なく、報告を承認。

## 6. その他 なし

## III 議 事

## 第1議案 昭和50年度決算につき承認を求める件

古谷理事、提案理由説明

## 昭和50年度収支決算書

自 昭和50年4月1日

至 昭和51年3月31日

日本産科婦人科学会

## 1. 事業会計

## (1) 歳入

| 科 目<br>款 項        | 決 算 額<br>(円) | 予 算 額<br>(円) | 増 減 (Δ)    | 摘 要 |
|-------------------|--------------|--------------|------------|-----|
| 1. 会 費 収 入        | 85,731,500   | 83,596,800   | 2,134,700  |     |
| (1) 当 年 度 会 費 収 入 | 83,842,000   | 81,180,000   | 2,662,000  |     |
| (2) 過 年 度 会 費 収 入 | 1,490,500    | 2,116,800    | Δ 626,300  |     |
| (3) 入 会 金 収 入     | 399,000      | 300,000      | 99,000     |     |
| 2. 機 関 誌 収 入      | 31,725,544   | 24,180,000   | 7,545,544  |     |
| (1) 購 読 料 収 入     | 2,400,508    | 1,920,000    | 480,508    |     |
| (2) 掲 載 料 収 入     | 8,689,036    | 5,460,000    | 3,229,036  |     |
| (3) 機関誌刊行協力費収入    | 20,636,000   | 16,800,000   | 3,836,000  |     |
| 3. 雑 収 入          | 4,353,593    | 1,001,000    | 3,352,593  |     |
| (1) 日 医 奨 励 金 収 入 | 100,000      | 100,000      | 0          |     |
| (2) 受 取 利 息       | 2,779,769    | 900,000      | 1,879,769  |     |
| (3) 雑 収 入         | 1,473,824    | 1,000        | 1,472,824  |     |
| 4. 繰 越 金          | 30,141,585   | 20,000,000   | 10,141,585 |     |
| 歳 入 合 計           | 151,952,222  | 128,777,800  | 23,174,422 |     |

1977年11月

総会記事

1625

## (2) 歳 出

| 科 目                         | 決 算 額<br>(円)      | 予 算 額<br>(円)      | 増 減 (Δ)            | 摘 要 |
|-----------------------------|-------------------|-------------------|--------------------|-----|
| 款 項 目                       |                   |                   |                    |     |
| <b>1. 事 業 費</b>             | <b>61,781,949</b> | <b>71,394,200</b> | <b>Δ 9,612,251</b> |     |
| (1) 機 関 誌 発 行 費             | (45,518,141)      | (53,289,700)      | Δ( 7,771,559)      |     |
| 印 刷 費                       | 24,738,146        | 27,840,000        | Δ 3,101,854        |     |
| 用 紙 購 入 費                   | 10,864,032        | 12,314,700        | Δ 1,450,668        |     |
| 発 送 費                       | 9,915,963         | 12,735,000        | Δ 2,819,037        |     |
| 編 集 費                       | 0                 | 400,000           | Δ 400,000          |     |
| (2) 総 会 費                   | ( 7,000,000)      | ( 7,000,000)      | ( 0)               |     |
| 総 会 補 助 費                   | 7,000,000         | 7,000,000         | 0                  |     |
| (3) 企 画 委 員 会 費             | ( 3,171,612)      | ( 4,504,500)      | Δ( 1,332,888)      |     |
| 運 営 企 画 委 員 会 費             | 1,776,960         | 1,930,500         | Δ 153,540          |     |
| 学 術 企 画 委 員 会 費             | 1,394,652         | 2,574,000         | Δ 1,179,348        |     |
| (4) 専 門 委 員 会 費             | ( 6,008,696)      | ( 6,500,000)      | Δ( 491,304)        |     |
| 子 宮 癌 登 録 委 員 会 費           | 599,818           | 600,000           | Δ 182              |     |
| 卵 巢 腫 瘍 登 録 委 員 会 費         | 500,000           | 500,000           | 0                  |     |
| 絨 毛 性 腫 瘍 登 録 委 員 会 費       | 599,100           | 600,000           | Δ 900              |     |
| 周 産 期 管 理 登 録 委 員 会 費       | 430,000           | 430,000           | 0                  |     |
| 産 科 婦 人 科 用 語 問 題 委 員 会 費   | 696,900           | 700,000           | Δ 3,100            |     |
| 産 科 婦 人 科 ME 問 題 委 員 会 費    | 550,000           | 550,000           | 0                  |     |
| 産 科 婦 人 科 栄 養 問 題 委 員 会 費   | 432,630           | 480,000           | Δ 47,370           |     |
| 産 科 婦 人 科 教 育 問 題 委 員 会 費   | 648,550           | 650,000           | Δ 1,450            |     |
| 助 産 婦 教 育 問 題 委 員 会 費       | 178,688           | 250,000           | Δ 71,312           |     |
| 未 熟 網 膜 症 問 題 委 員 会 費       | 159,440           | 380,000           | Δ 220,560          |     |
| 黄 体 ホ ル モ ン 剤 問 題 委 員 会 費   | 283,570           | 430,000           | Δ 146,430          |     |
| 婦 人 科 癌 検 診 問 題 委 員 会 費     | 430,000           | 430,000           | 0                  |     |
| 社 会 保 険 学 術 委 員 会 費         | 500,000           | 500,000           | 0                  |     |
| (5) 会 長 記 念 品 代             | ( 8,500)          | ( 10,000)         | Δ( 1,500)          |     |
| (6) 名 誉 会 員 ・ 功 労 会 員 記 章 代 | ( 75,000)         | ( 90,000)         | Δ( 15,000)         |     |
| <b>2. 管 理 費</b>             | <b>32,167,134</b> | <b>39,811,800</b> | <b>Δ 7,644,666</b> |     |
| (1) 事 務 費                   | (24,573,288)      | (28,108,800)      | Δ( 3,535,512)      |     |
| 事 務 所 賃 借 料                 | 4,948,920         | 5,126,400         | Δ 177,480          |     |
| 給 与 及 手 当                   | 14,122,998        | 15,950,000        | Δ 1,827,002        |     |
| 厚 生 費                       | 782,955           | 824,000           | Δ 41,045           |     |
| 什 器 備 品 購 入 費               | 595,000           | 1,000,000         | Δ 405,000          |     |
| 消 耗 品 費                     | 1,153,814         | 1,400,000         | Δ 246,186          |     |

|                          |                   |                   |                     |  |
|--------------------------|-------------------|-------------------|---------------------|--|
| 通 信 費                    | 667,124           | 1,300,000         | △ 632,876           |  |
| 旅 費 及 交 通 費              | 607,600           | 750,000           | △ 142,400           |  |
| 集 金 費                    | 911,720           | 1,058,400         | △ 146,680           |  |
| 雑 費                      | 783,157           | 700,000           | 83,157              |  |
| (2) 役員会及幹事会費             | ( 5,411,486)      | ( 7,703,000)      | △( 2,291,514)       |  |
| 理 事 会 費                  | 917,678           | 1,350,000         | △ 432,322           |  |
| 常 務 理 事 会 費              | 445,560           | 750,000           | △ 304,440           |  |
| 幹 事 会 費                  | 203,668           | 450,000           | △ 246,332           |  |
| 旅 費 及 交 通 費              | 3,844,580         | 5,153,000         | △ 1,308,420         |  |
| (3) 評 議 員 会 費            | ( 2,000,000)      | ( 2,000,000)      | ( 0)                |  |
| 評 議 員 会 補 助 費            | 2,000,000         | 2,000,000         | 0                   |  |
| (4) 渉 外 費                | ( 117,360)        | ( 1,970,000)      | △( 1,852,640)       |  |
| 国際関係渉外費                  | 11,480            | 1,700,000         | △ 1,688,520         |  |
| 国内関係渉外費                  | 105,880           | 270,000           | △ 164,120           |  |
| (5) 慶 弔 費                | ( 65,000)         | ( 30,000)         | ( 35,000)           |  |
| 3. 外部団体分担金支出             | <u>748,620</u>    | <u>590,000</u>    | <u>158,620</u>      |  |
| (1) 新生児管理改善促進連<br>合分担金支出 | ( 50,000)         | ( 50,000)         | ( 0)                |  |
| (2) 国際産科婦人科連合分<br>担金支出   | ( 399,605)        | ( 390,000)        | ( 9,605)            |  |
| (3) アジア産科婦人科連合<br>分担金支出  | ( 299,015)        | ( 150,000)        | ( 149,015)          |  |
| 4. 諸積立金繰入                | <u>3,918,128</u>  | <u>2,500,000</u>  | <u>1,418,128</u>    |  |
| (1) 退職積立金繰入              | ( 2,000,000)      | ( 2,000,000)      | ( 0)                |  |
| (2) 名簿発行積立金繰入            | ( 1,918,128)      | ( 500,000)        | ( 1,418,128)        |  |
| 5. 予 備 費                 | <u>4,201,960</u>  | <u>14,481,800</u> | <u>△ 10,279,840</u> |  |
| 6. 当期末処分剰余金              | <u>49,134,431</u> | <u>0</u>          | <u>49,134,431</u>   |  |
| 歳 出 合 計                  | 151,952,222       | 128,777,800       | 23,174,422          |  |

## 2. 積立金会計

| 科 目       | 前年度繰越額<br>(円) | 年度内増減     |            | 残 高<br>(円) | 利息収入<br>(円) | 次年度繰越額<br>(円) |
|-----------|---------------|-----------|------------|------------|-------------|---------------|
|           |               | 増 加       | 減 少        |            |             |               |
| 基 本 金     | 9,166,942     |           |            | 9,166,942  | 712,483     | 9,879,425     |
| 事務所移転積立金  | 13,333,734    |           | 8,741,886  | 4,591,848  | 256,514     | 4,848,362     |
| 海外代表派遣積立金 | 2,804,068     |           |            | 2,804,068  | 231,180     | 3,035,248     |
| 名簿発行積立金   | 7,121,059     | 1,918,128 | 3,833,024  | 5,206,163  | 629,283     | 5,835,446     |
| 退 職 積 立 金 | 8,064,977     | 2,000,000 | 935,958    | 9,129,019  | 661,556     | 9,790,575     |
| 合 計       | 40,490,780    | 3,918,128 | 13,510,868 | 30,898,040 | 2,491,016   | 33,389,056    |

1977年11月

総会記事

1627

財 産 目 録  
昭和 51 年 3 月 31 日 現 在

| 勘定科目      | 摘 要                  | 金 額 (円)    | 計 (円)       |
|-----------|----------------------|------------|-------------|
| 事業会計      | 現 金                  | 324,670    |             |
|           | 普通預金 三井銀行四谷支店        | 2,046,378  |             |
|           | 〃 (別口) 〃 〃           | 6,326,320  |             |
|           | 定期預金 〃 〃             | 39,000,000 |             |
|           | 振替貯金 東京地方貯金局         | 1,629,795  |             |
|           | 預 り 金                | △ 192,732  | 49,134,431  |
| 積立金会計     | 基 本 金 三井信託銀行新宿支店     | 9,879,425  |             |
|           | 事務所移転積立金 〃 〃         | 4,848,362  |             |
|           | 海外代表派遣積立金 東洋信託銀行新宿支店 | 3,035,248  |             |
|           | 名簿発行積立金 〃 〃          | 5,835,446  |             |
|           | 退職積立金 〃 〃            | 9,790,575  | 33,389,056  |
| 特別基金      | 普通預金 三井銀行四谷支店        | 112,040    |             |
|           | 定期預金                 | 6,000,000  | 6,112,040   |
| 保証金       | (財) 保健会館             |            | 9,600,000   |
| 敷 金       | (財) 保健会館             |            | 1,920,000   |
| 純 資 産 合 計 |                      |            | 100,155,527 |

| 什器備品    | 摘 要                                        | 取得年月     | 耐用年数 | 取得価格 (円)  |
|---------|--------------------------------------------|----------|------|-----------|
| 事務所用    | 電動式宛名印刷機                                   | 昭40. 11  | 5年   | 50,000    |
|         | オリベッティ記録計算機                                | 〃 43. 12 | 〃    | 247,000   |
|         | オリベッティ電動タイプライター                            | 〃 43. 12 | 〃    | 197,000   |
|         | 耐火金庫                                       | 〃 45. 9  | 20年  | 74,000    |
|         | 電動式宛名印刷機                                   | 〃 48. 9  | 5年   | 170,650   |
|         | ライト自動結束機                                   | 〃 50. 2  | 〃    | 370,000   |
|         | リコー複写機 DT1200型                             | 〃 51. 2  | 〃    | 595,000   |
| 以 上 7 点 |                                            |          |      | 1,703,650 |
| 有価証券    | 割引電信電話債券 (券面額 120,000円)<br>昭和58年11月10日償還期限 | 昭48. 2   |      | 64,468    |
| 以 上 1 点 |                                            |          |      | 64,468    |
| 電話加入権   | (260) 局 2296～7                             | 昭49. 3   |      | 80,000    |
| 以 上 1 点 |                                            |          |      | 80,000    |

## 事務所移転に伴う収支報告

## 2. 積立金会計より〔事務所移転積立金〕

## 資金の源泉

## 1. 保証年の返戻〔(財) 日本公衆衛生協会〕

3,750,000円

## 資金の用途

8,741,886円

12,491,886円

## 1. (財)保健会館へ支出

|         |           |             |
|---------|-----------|-------------|
| (1) 敷金  | 1,920,000 |             |
| (2) 保証金 | 9,600,000 | 11,520,000円 |

## 2. 工事及消耗品支出

|             |         |          |
|-------------|---------|----------|
| (1) 間仕切ドア工事 | 160,000 |          |
| (2) カーテン等工事 | 149,080 |          |
| (3) 消耗備品等   | 118,000 | 427,080円 |

## 3. その他支出

|             |         |             |
|-------------|---------|-------------|
| (1) 公衛ビル共益費 | 28,400  |             |
| (2) " 補修費   | 56,000  |             |
| (3) 保健会館    |         |             |
| 4/1～4/14金利  | 40,866  |             |
| (4) 移転雑費    | 55,900  |             |
| (5) 引越費用    | 320,000 |             |
| (6) 引越雑費    | 43,640  | 544,806円    |
|             |         | 12,491,886円 |

当期末処分剰余金 49,134,431円

以上の通りであります。

剰余金処分 特別基金繰入額 15,000,000円

次期繰越金 34,134,431円

昭和51年7月5日

日本産科婦人科学会

会長 九嶋 勝司

収支決算書、財産目録、関係諸帳簿及び証憑書類等を監査した結果、適法正当なることを認めます。

昭和51年7月24日

日本産科婦人科学会監事 内野総二郎<sup>印</sup>

" 関 闌<sup>印</sup>

" 目崎 欽太<sup>印</sup>

目崎監事から、昨年7月24日監査を行つた結果、適法正当であつた旨報告。

<昭和50年度収支決算書・財産目録説明書>

I 事業会計

歳入の部

|                            |              |
|----------------------------|--------------|
| 1) 会費収入(款)                 | 85,731,500円  |
| (1) 当年度会費収入(項)             | 83,842,000円  |
| 13,574名分会費6,000円×13,574(名) |              |
|                            | =81,444,000円 |
| 新入会員399名分会費6,000円×399(名)   |              |
|                            | =2,394,000円  |
| 在外国会員の機関誌送料自己負担金(4名)       |              |
|                            | 4,000円       |

予算は、年間の会費納入率を90%とし、新入会員も年

間300名が本会計年度内入会として計上したが、会費納入率94.73%の納入により収入増となつた。

(2) 過年度会費収入(項) 1,490,500円

昭和49年度分4,500円×296(名) 1,332,000円

同年度在外国会員の機関誌送料自己負担金

(1名) 1,000円

昭和48年度以前の会員51名分 157,500円

予算では49年度会費の未納率を4%、そのうち80%が当年度中に納入するものとして算定したが、49年度会費の未納率は3.72%であつたので、収入減となつた。

(3) 入会金収入(項) 399,000円

当年度399名分入会金1,000円×399(名)

399,000円

予算では、年間300名が本会計年度内に入会するとして計上したが、これを上廻つたため収入増となつた。

合計 83,842,000円+1,490,500円+399,000円

=85,731,500円

2) 機関誌収入(款) 31,725,544円

(1) 購読料収入(項) 2,400,508円

和文号 1,363,200円

欧文号 587,250円

取次店扱い(和文号、欧文号混合) 450,058円

(2) 掲載料収入(項) 8,689,036円

既往実績から年間収入546万円計上したが、アート紙使用は9枚、うちカラー2枚特別掲載6編などがあり、収入増となつた。

(3) 機関誌刊行協力費収入(項) 20,636,000円

50年4月分から値上げしたので1ヵ月約140万円として12ヵ月分を計上したが、収入増となつた。なお、機関誌の体裁は損なわないように十分配慮している。

合計 2,400,508円+8,689,036円+20,636,000円

=31,725,544円

3) 雑収入(款) 4,353,593円

(1) 日医奨励金収入(項) 100,000円

本年度内に昭和50年度日本医師会奨励金10万円の交付を受けた。

(2) 受取利息(項) 2,779,769円

事業会計並びに特別基金に属する預金の利息。

(3) 雑収入(項) 1,473,824円

日産婦・日母合同全国名簿広告料収入及び

頒布代金 1,418,128円

産婦人科診療要綱頒布代 2,390円

日婦誌・近婦誌総索引頒布代 45,000円

コピー代他 8,306円  
 合計 100,000円+2,779,769円+1,473,824円  
 =4,353,593円

4) 繰越金(款・項) 30,141,585円  
 昭和49年度事業会計からの繰越金

歳出の部

1) 事業費(款) 61,781,949円  
 (1) 機関誌発行費(項) 45,518,141円  
 ① 印刷費(目) 24,738,146円  
 ② 用紙購入費(目) 10,864,032円  
 ③ 発送費(目) 9,915,963円  
 ④ 編集費(目) 0円

和文号は、第27巻第4号から第28巻第3号まで12回発行、欧文号は第21巻第1号から第21巻第3号および第22巻第1号から第22巻第2号まで5回発行した。

和文号はアート紙の使用9枚(うちカラー2枚)があつたが、印刷頁数の若干減少、用紙代の横ばい、郵便料金の値上がりが延びたことなどにより支出減となつた。

欧文号は原著の投稿不足などのため第21巻第4号および第22巻第3号から第22巻第4号の年度内発行は行なわれなかつた。

編集費の支出も行なわれなかつた。

(2) 総会費(項) 7,000,000円  
 第28回総会(松本)の補助費は予算額通り支出。

(3) 企画委員会費(項) 3,171,612円  
 運営企画委員会3回(法人化検討特別委員会との合同会議2回を含む)、学術企画委員会3回の会議費及び会議出席のための旅費、交通費並びに会議準備打合せ会費用のほか会議資料作成費など。

(4) 専門委員会費(項) 6,008,696円  
 専門委員会13の活動経費。予算配分額を超えたものについては、配分額を限度として支出した。

(5) 会長記念品代(項) 8,500円  
 第28回総会会長へ贈呈した記念品代

(6) 名誉会員・功労会員記章代(項) 75,000円  
 功労会員7,500円×10(個)=75,000円

2) 管理費(款) 32,167,134円  
 予算に比して7,644,666円の減少。

(1) 事務費(項) 24,573,288円  
 予算より353万円の支出減。

事務所賃借料は、17万円の減少。

給与及手当は欠員などがあつたので182万円の減少。

厚生費は職員の健康保険料・厚生年金・失業保険料の

事業主負担分並びにレクリエーション費。

什器備品購入費はリコー乾式複写器を購入し、595,000円を支出。

消耗品費は会議用資料、記録のプリントタイプ代、及び事務用品費など。

通信費は電話料並びに諸連絡、通知の郵便料金で、年度内の値上がりを考慮して計上したが、その実施が51年1月に行なわれたので63万円の減少。

旅費及び交通費は、幹事及び職員の総会出張旅費、及び職員の都内出張交通費。

集金費は昭和49年度会費納入率90%以上の地方部会宛集金手数料支払い、及び昭和50年9月末までの当年度会費納入に係る各地方部会一括集金手数料。

雑費は公認会計士決算料、弁護士相談料、アルバイトの日当などを含んでいる。

(2) 役員会及幹事会費(項) 5,411,486円

理事会費は理事会6回、編集担当理事会4回、会計担当理事会3回、学術担当理事会1回などの費用。

常務理事会費は10回の費用。

幹事会費は幹事会8回の費用。

旅費及交通費は前述諸会議並びに渉外担当理事会(3回)への出席者の旅費及び交通費。

会議費全体としての支出減は会議の会場等についてできる限り節約したことと臨時の会議開催が少なかつたことなどによる。

(3) 評議員会費(項) 2,000,000円

第27回及び第28回総会時の定例評議員会開催費用の補助で予算額通り支出。

(4) 渉外費(項) 117,360円

国際関係渉外費は、FIGO 第8回世界大会資料の通関料(2回)11,480円である。

国内関係渉外費は、日産婦・日母連絡会4回開催の費用などである。

(5) 慶弔費(項) 65,000円

樋口一成名誉会員、土橋英夫、中沢録郎、藤井厚男3功労会員、松田正二理事のご逝去に際しての香典並びに花環代。

3) 外部団体分担金支出(款) 748,620円

新生児管理改善促進連合昭和50年度分担金5万円、FIGO 昭和50年度分担金1,300ドル(1ドル×1,300(名)、円価399,605円)、AFOG 昭和49、50年度分担金1,000ドル(50セント×1,000(名)×2)(円価299,015円)である。

## 4) 諸積立金繰入(款) 3,918,128円

各積立金を予算額通り繰入れ、更に日産婦・日母合同全国名簿発行に伴う広告料収入および名簿頒布代(いずれも日母と折半)1,418,128円も名簿発行積立金に繰入れた。

## 5) 予備費(款) 4,201,960円

法人化検討特別委員会費用1,125,400円、法人化問題に関する地方部長懇談会開催費用1,576,560円、FIGO第9回世界大会組織委員会補助費1,500,000円である。

以上を精算の結果、当期末処分剰余金49,134,431円が生じ、このうち15,000,000円を特別基金に繰入れ、34,134,431円が次年度に繰越すこととなった。

## Ⅱ 積立金会計

昭和50年度諸積立金及び基金増減報告は別記資料の通りである。

期中増は当期事業会計からの繰入額で、事業会計予算額通り繰入れ、名簿発行積立金については日産婦・日母合同全国名簿発行に伴う収入も事業会計から繰入れた。

退職積立金935,958円の減は退職した職員3名に退職給与金として支出したものであり、名簿発行積立金3,855,596円の減は日産婦・日母合同全国名簿発行に要した経費の本会負担額である(日母と折半)。

また事務所移転積立金8,741,886円の減については、別記事務所移転に伴う収支報告の通りである。

以上により、事業会計並びに積立金会計の決算による昭和50年度末における財産目録は資料の通りである。

## 財産目録

この財産目録は昭和51年3月31日現在の学会の資産状況を明示するために作成した。

## 1) 事業会計

普通預金(別口)には地方部会から送金されたが整理未了のものが、預り金の形で含まれている。同じものが振替貯金中にもある。

## 2) 積立金会計

積立金会計の預金状況を示し、貸付信託並びに金銭信託としてある。

## 3) 特別基金

年度当初など事業会計の不足した場合の運用資金として使用するためのもので、普通預金と定期預金に分けてある。

## 4) 保証金及び敷金

現在の学会事務所を借用する際に保証金並びに敷金として、財団法人保健会館に預けてある金額である。

## 5) 什器備品

購入価格5万円以上の物品を取得価格で示してある。

## 6) 有価証券

直通電話設置に際し購入した割引電信電話債券である。

## 7) 電話加入権

日本公衆衛生協会から譲受けたものである。

## 第2議案 昭和51年度決算につき承認を求める件

古谷理事、提案理由説明

## 昭和51年度収支決算書

自 昭和51年4月1日

至 昭和52年3月31日

社団法人日本産科婦人科学会

## 1. 総括表

| 事 項<br>会計別 | 歳 入         | 歳 出         | 差 引 残 高    | 差引残高の処理  |            |
|------------|-------------|-------------|------------|----------|------------|
|            |             |             |            | 基本財産への編入 | 翌年度への繰越    |
| 事 業 会 計    | 165,965,000 | 121,150,381 | 44,814,619 |          | 44,814,619 |
| 積 立 金 会 計  | 41,342,634  | 839,162     | 40,503,472 |          | 40,503,472 |
| 計          | 207,307,634 | 121,989,543 | 85,318,091 |          | 85,318,091 |

## 2. 事業会計

## (1) 歳 入

| 科 目               | 決 算 額<br>(円) | 予 算 額<br>(円) | 増 減 (Δ)   | 摘 要 |
|-------------------|--------------|--------------|-----------|-----|
| 款 項               |              |              |           |     |
| 1. 会 費 収 入        | 92,202,700   | 85,278,000   | 6,924,700 |     |
| (1) 当 年 度 会 費 収 入 | 86,931,000   | 81,450,000   | 5,481,000 |     |

1977年11月

総会記事

1631

|                |                   |                   |                     |  |
|----------------|-------------------|-------------------|---------------------|--|
| (2) 過年度会費収入    | 4,851,700         | 3,528,000         | 1,323,700           |  |
| (3) 入会金収入      | 420,000           | 300,000           | 120,000             |  |
| 2. 機関誌収入       | <u>35,021,892</u> | <u>25,840,000</u> | <u>9,181,892</u>    |  |
| (1) 購読料収入      | 2,487,460         | 2,040,000         | 447,460             |  |
| (2) 掲載料収入      | 11,942,432        | 5,800,000         | 6,142,432           |  |
| (3) 機関誌刊行協力費収入 | 20,592,000        | 18,000,000        | 2,592,000           |  |
| 3. 雑収入         | <u>4,605,977</u>  | <u>1,101,000</u>  | <u>3,504,977</u>    |  |
| (1) 日医奨励金収入    | 100,000           | 100,000           | 0                   |  |
| (2) 受取利息       | 2,945,557         | 1,000,000         | 1,945,557           |  |
| (3) 雑収入        | 1,560,420         | 1,000             | 1,559,420           |  |
| 4. 繰越金         | <u>34,134,431</u> | <u>45,000,000</u> | <u>Δ 10,865,569</u> |  |
| 歳入合計           | 165,965,000       | 157,219,000       | 8,746,000           |  |

## (2) 歳出

| 科目            | 決算額<br>(円)        | 予算額<br>(円)        | 増減(Δ)              | 摘要 |
|---------------|-------------------|-------------------|--------------------|----|
| 款 項 目         |                   |                   |                    |    |
| 1. 事業費        | <u>76,677,129</u> | <u>84,886,000</u> | <u>Δ 8,208,871</u> |    |
| (1) 機関誌発行費    | (52,707,378)      | (54,288,000)      | Δ ( 1,580,622)     |    |
| 印刷費           | 27,910,288        | 28,140,000        | Δ 229,712          |    |
| 用紙購入費         | 12,418,967        | 13,295,000        | Δ 876,033          |    |
| 発送費           | 12,345,123        | 12,453,000        | Δ 107,877          |    |
| 編集費           | 33,000            | 400,000           | Δ 367,000          |    |
| (2) 総会費       | (10,000,000)      | (10,000,000)      | ( 0)               |    |
| 総会補助費         | 10,000,000        | 10,000,000        | 0                  |    |
| (3) 企画委員会費    | ( 2,021,609)      | ( 7,098,000)      | Δ ( 5,076,391)     |    |
| 運営企画委員会費      | 167,454           | 3,054,000         | Δ 2,886,546        |    |
| 学術企画委員会費      | 1,854,155         | 4,044,000         | Δ 2,189,845        |    |
| (4) 専門委員会費    | ( 6,863,142)      | ( 8,400,000)      | Δ ( 1,536,858)     |    |
| 子宮癌登録委員会費     | 599,897           | 600,000           | Δ 103              |    |
| 卵巣腫瘍登録委員会費    | 500,180           | 600,000           | Δ 99,820           |    |
| 絨毛性腫瘍登録委員会費   | 729,202           | 730,000           | Δ 798              |    |
| 周産期管理登録委員会費   | 641,000           | 641,000           | 0                  |    |
| 産科婦人科用語問題委員会費 | 879,691           | 880,000           | Δ 309              |    |
| 産科婦人科ME問題委員会費 | 598,000           | 598,000           | 0                  |    |
| 産科婦人科栄養問題委員会費 | 632,401           | 930,000           | Δ 297,599          |    |
| 産科婦人科教育問題委員会費 | 562,946           | 1,120,000         | Δ 557,054          |    |
| 助産婦教育問題委員会費   | 157,996           | 300,000           | Δ 142,004          |    |
| 黄体ホルモン剤問題委員会費 | 274,082           | 441,000           | Δ 166,918          |    |

|                         |                   |                   |                     |
|-------------------------|-------------------|-------------------|---------------------|
| 婦人科癌検診問題委員会費            | 960,000           | 960,000           | 0                   |
| 社会保険学術委員会費              | 327,747           | 600,000           | △ 272,253           |
| (5) 第9回FIGO世界大会組織委員会補助費 | ( 5,000,000)      | ( 5,000,000)      | ( 0)                |
| (6) 会長記念品代              | ( 10,000)         | ( 10,000)         | ( 0)                |
| (7) 名誉会員・功勞会員記章代        | ( 75,000)         | ( 90,000)         | △ ( 15,000)         |
| 2. 管 理 費                | <u>35,419,002</u> | <u>45,767,040</u> | <u>△ 10,348,038</u> |
| (1) 事 務 費               | (27,670,865)      | (29,484,000)      | △ ( 1,813,135)      |
| 事務所賃借料                  | 5,178,820         | 5,172,000         | 6,820               |
| 給与及手当                   | 16,854,388        | 17,210,000        | △ 355,612           |
| 厚生費                     | 947,136           | 970,000           | △ 22,864            |
| 什器備品購入費                 | 0                 | 500,000           | △ 500,000           |
| 消耗品費                    | 1,365,274         | 1,400,000         | △ 34,726            |
| 通信費                     | 1,039,659         | 1,500,000         | △ 460,341           |
| 旅費及交通費                  | 687,740           | 870,000           | △ 182,260           |
| 集金費                     | 922,460           | 1,062,000         | △ 139,540           |
| 雑費                      | 675,388           | 800,000           | △ 124,612           |
| (2) 役員会及幹事会費            | ( 6,462,637)      | (13,163,040)      | △ ( 6,700,403)      |
| 理事会費                    | 922,364           | 1,350,000         | △ 427,636           |
| 常務理事会費                  | 412,908           | 750,000           | △ 337,092           |
| 幹事会費                    | 282,105           | 450,000           | △ 167,895           |
| 旅費及交通費                  | 4,845,260         | 10,613,040        | △ 5,767,780         |
| (3) 評議員会費               | ( 1,000,000)      | ( 1,000,000)      | ( 0)                |
| 評議員会補助費                 | 1,000,000         | 1,000,000         | 0                   |
| (4) 渉外費                 | ( 135,500)        | ( 2,020,000)      | △ ( 1,884,500)      |
| 国際関係渉外費                 | 33,700            | 1,700,000         | △ 1,666,300         |
| 国内関係渉外費                 | 101,800           | 320,000           | △ 218,200           |
| (5) 慶弔費                 | ( 150,000)        | ( 100,000)        | ( 50,000)           |
| 3. 外部団体分担金支出            | <u>426,120</u>    | <u>590,000</u>    | <u>△ 163,880</u>    |
| (1) 新生児管理改善促進連合分担金支出    | ( 50,000)         | ( 50,000)         | ( 0)                |
| (2) 国際産科婦人科連合分担金支出      | ( 376,120)        | ( 390,000)        | △ ( 13,880)         |
| (3) アジア産科婦人科連合分担金支出     | ( 0)              | ( 150,000)        | △ ( 150,000)        |
| 4. 諸積立金繰入               | <u>5,485,420</u>  | <u>4,000,000</u>  | <u>1,485,420</u>    |
| (1) 退職積立金繰入             | ( 2,000,000)      | ( 2,000,000)      | ( 0)                |
| (2) 名簿発行積立金繰入           | ( 1,985,420)      | ( 500,000)        | ( 1,485,420)        |
| (3) 事務所移転積立金繰入          | ( 1,000,000)      | ( 1,000,000)      | ( 0)                |
| (4) 海外代表派遣積立金繰入         | ( 500,000)        | ( 500,000)        | ( 0)                |
| 5. 予 備 費                | <u>3,142,710</u>  | <u>21,975,960</u> | <u>△ 18,833,250</u> |
| 歳 出 合 計                 | 121,150,381       | 157,219,000       | △ 36,068,619        |

1977年11月

総会記事

1633

## 3. 積立金会計

| 科 目       | 前年度繰越額<br>(円) | 年度内増減     |         | 残 高<br>(円) | 利息収入<br>(円) | 次年度繰越額<br>(円) |
|-----------|---------------|-----------|---------|------------|-------------|---------------|
|           |               | 増 加       | 減 少     |            |             |               |
| 基 本 金     | 9,879,425     |           |         | 9,879,425  | 726,392     | 10,605,817    |
| 事務所移転積立金  | 4,848,362     | 1,000,000 |         | 5,848,362  | 350,653     | 6,199,015     |
| 海外代表派遣積立金 | 3,035,248     | 500,000   | 613,200 | 2,922,048  | 222,661     | 3,144,709     |
| 名簿発行積立金   | 5,835,446     | 1,985,420 |         | 7,820,866  | 408,595     | 8,229,461     |
| 退職積立金     | 9,790,575     | 2,000,000 | 225,962 | 11,564,613 | 759,857     | 12,324,472    |
| 合 計       | 33,389,056    | 5,485,420 | 839,162 | 38,035,314 | 2,468,158   | 40,503,472    |
|           | A             | B         | C       | D          | E           | F             |

(注) 歳入 A + B + E = 41,342,634円  
 歳出 = 839,162円

及び定款にてらして正当なることを認めます。

昭和52年4月16日

社団法人 日本産科婦人科学会

当期末処分剰余金 44,814,619円

以上の通りであります。

監事 内野総二郎㊤

剰余金処分 次期繰越金 44,814,619円

同 関 闌㊤

昭和52年4月16日

同 目崎 鉦太㊤

社団法人 日本産科婦人科学会

目崎監事から、本年4月16日監査を行つた結果、適法

会長 九嶋 勝司

正当であつた旨報告。

収支決算書は関係諸書類とともに監査した結果、法令

## 財 産 目 録

## 1. 総 括 表

| 区 分     | 昭 和 52 年 3 月 31 日 現 在 |              |              |
|---------|-----------------------|--------------|--------------|
|         | 基 本 財 産               | 運 用 財 産      | 計            |
| 資 産     | 10,605,817円           | 108,928,656円 | 119,534,473円 |
| 負 債     | 0                     | 10,029,793   | 10,029,793   |
| 差 引 残 高 | 10,605,817            | 98,898,863   | 109,504,680  |

## 2. 明 細 表

## (1) 資 産 の 部

| 科 目 | 摘 要                                                           | 昭 和 52 年 3 月 31 日 現 在 |                        |                        |
|-----|---------------------------------------------------------------|-----------------------|------------------------|------------------------|
|     |                                                               | 基本財産                  | 運用財産                   | 計                      |
| 現 金 | 現 金 小 計<br>(基本金)<br>貸付信託 三井信託銀行新宿支店<br>金銭信託 " "<br>(事務所移転積立金) | 円                     | 233,908円<br>( 233,908) | 233,908円<br>( 233,908) |
| 預 金 |                                                               | 10,400,000            |                        | 10,400,000             |
|     |                                                               | 205,817               |                        | 205,817                |
|     |                                                               |                       |                        |                        |

|       |                        |              |              |               |
|-------|------------------------|--------------|--------------|---------------|
|       | 貸付信託 三井信託銀行新宿支店        |              | 6,000,000    | 6,000,000     |
|       | 金銭信託 " "               |              | 199,015      | 199,015       |
|       | (海外代表派遣積立金)            |              |              |               |
|       | 金銭信託 東洋信託銀行新宿支店        |              | 3,144,709    | 3,144,709     |
|       | (名簿発行積立金)              |              |              |               |
|       | 貸付信託 東洋信託銀行新宿支店        |              | 8,000,000    | 8,000,000     |
|       | 金銭信託 " "               |              | 229,461      | 229,461       |
|       | (退職積立金)                |              |              |               |
|       | 貸付信託 東洋信託銀行新宿支店        |              | 11,400,000   | 11,400,000    |
|       | 金銭信託 " "               |              | 924,470      | 924,470       |
|       | (事業会計)                 |              |              |               |
|       | 定期預金 三井銀行四谷支店          |              | 31,000,000   | 31,000,000    |
|       | 普通預金 "                 |              | 931,300      | 931,300       |
|       | " "                    |              | 9,695,089    | 9,695,089     |
|       | 郵便振替口座 東京地方貯金局         |              | 3,184,546    | 3,184,546     |
|       | (特別資金)                 |              |              |               |
|       | 定期預金                   |              | 21,000,000   | 21,000,000    |
|       | 普通預金                   |              | 112,040      | 112,040       |
|       | 預金小計                   | (10,605,817) | (95,820,630) | (106,426,447) |
| 有価証券  | 割引電信電話債券(券面額 120,000円) |              | 64,468       | 64,468        |
|       | 有価証券小計                 |              | (64,468)     | (64,468)      |
| 電話加入権 | 東京(260)局2296~2297      |              | 80,000       | 80,000        |
|       | 電話加入権小計                |              | (80,000)     | (80,000)      |
| 保証金   | 財団法人保健会館               |              | 9,600,000    | 9,600,000     |
|       | 保証金小計                  |              | (9,600,000)  | (9,600,000)   |
| 敷金    | 財団法人保健会館               |              | 1,920,000    | 1,920,000     |
|       | 敷金小計                   |              | (1,920,000)  | (1,920,000)   |
| 什器備品  | 事務用備品                  |              |              |               |
|       | 耐火金庫                   |              | 74,000       | 74,000        |
|       | 電動式宛名印刷機               |              | 170,650      | 170,650       |
|       | ライト自動結束機               |              | 370,000      | 370,000       |
|       | リコー複写機DT 1,200型        |              | 595,000      | 595,000       |
|       | 什器備品小計                 |              | (1,209,650)  | (1,209,650)   |
| 合 計   |                        | 10,605,817   | 108,928,656  | 119,534,473   |

## (2) 負債の部

| 科 目     | 摘 要         | 昭 和 52 年 3 月 31 日 現 在 |             |             |
|---------|-------------|-----------------------|-------------|-------------|
|         |             | 基本財産                  | 運用財産        | 計           |
| 預 り 金   | 源泉所得税       | 円                     | 106,500円    | 106,500円    |
|         | 会費等預り金      |                       | 123,724     | 123,724     |
|         | 預り金小計       |                       | (230,224)   | (230,224)   |
| 退職給与引当金 | 職員6名退職金要支給額 |                       | 9,799,569   | 9,799,569   |
|         | 退職給与引当金小計   |                       | (9,799,569) | (9,799,569) |
| 合 計     |             |                       | 10,029,793  | 10,029,793  |

1977年11月

総会記事

1635

## &lt;昭和51年度収支決算書・財産目録説明書&gt;

## I 事業会計

## 歳入の部

1) 会費収入(款) 92,202,700円  
 (1) 当年度会費収入(項) 86,931,000円  
 14,068名分会費6,000円×14,068(名)  
 =84,408,000円

新入会員420名分会費6,000円×420(名)  
 =2,520,000円

在外国会員の機関誌送料自己負担金(3名)  
 3,000円

予算は、年間の会費納入率を90%とし、新入会員も年間300名が本会計年度内入会として計上したが、会費納入率98.27%の納入により収入増となつた。

(2) 過年度会費収入(項) 4,851,700円  
 昭和50年度分6,000円×745(名) 4,470,000円  
 昭和49年度以前の会員93名分 381,700円

予算では50年度会費の未納率を5%、そのうち80%が当年度中に納入するものとして算定したが、50年度会費の未納率は5.27%であり、それ以前の会費収入も93名分の納入があつたので、収入増となつた。

(3) 入会金収入(項) 420,000円  
 当年度420名分入会金1,000円×420(名)  
 420,000円

予算では、年間300名が本会計年度内に入会するとし、これを上廻つたため収入増となつた。

合計 86,931,000円+4,851,700円+420,000円  
 =92,202,700円

2) 機関誌収入(款) 35,021,892円

(1) 購読料収入(項) 2,487,460円  
 和文号 973,010円  
 欧文号 732,950円  
 取次店扱い(和文号、欧文号混合) 781,500円

(2) 掲載料収入(項) 11,942,432円

既往実績から年間収入580万円計上したが、アート紙使用は30頁、うちカラー10頁、特別掲載14編などがあり、また昭和52年9月までの掲載予定前納金も含まれて収入増となつた。

(3) 機関誌刊行協力費収入(項) 20,592,000円

既往実績から1ヵ月150万円として12ヵ月分を計上したが、収入増となつた。なお、機関誌の体裁は損なわないように十分配慮している。

合計 2,487,460円+11,942,432円+20,592,000円

=35,021,892円

3) 雑収入(款) 4,605,977円

(1) 日医奨励金収入(項) 100,000円

本年度内に昭和51年度日本医師会奨励金10万円の交付を受けた。

(2) 受取利息(項) 2,945,557円

事業会計並びに特別基金に属する預金の利息。

(3) 雑収入(項) 1,560,420円

日婦誌・近婦誌総索引頒布代 75,000円

会員名簿頒布代他 1,485,420円

合計 100,000円+2,945,557円+1,560,420円

=4,605,977円

4) 繰越金(款・項) 34,134,431円

昭和50年度事業会計からの繰越金。

## 歳出の部

1) 事業費(款) 76,677,129円

(1) 機関誌発行費(項) 52,707,378円

① 印刷費(目) 27,910,288円

② 用紙購入費(目) 12,418,967円

③ 発送費(目) 12,345,123円

④ 編集費(目) 33,000円

和文号は、第28巻第4号から第29巻第3号まで12回発行、欧文号は第21巻第4号及び第22巻第3号から第23巻第3号まで6回発行した。

和文号はアート紙の使用30頁(うちカラー10頁)があつたが、用紙代の値下りなどにより支出減となつた。

欧文号は第23巻第4号の年度内発行は行なわれなかつた。

編集費の33,000円は合併号表紙デザインの試作代である。

(2) 総会費(項) 10,000,000円

第29回総会(秋田)の補助費は予算額通り支出。

(3) 企画委員会費(項) 2,021,609円

運営企画委員会1回、学術企画委員会3回の会議費及び会議出席のための旅費、交通費並びに会議準備打合せ会費用のほか会議資料作成費など。

(4) 専門委員会費(項) 6,863,142円

専門委員会12の活動経費

(5) 第9回 FIGO 世界大会組織委員会

補助費(項・目) 5,000,000円

組織委員会に対して予算額通り支出。

(6) 会長記念品代(項) 10,000円

第29回総会会長へ贈呈した記念品代。

(7) 名誉会員・功労会員記章代(項) 75,000円  
功労会員7,500円×10(個)=75,000円

2) 管理費(款) 35,419,002円  
予算に比して10,348,038円の減少。

(1) 事務費(項) 27,670,865円  
予算より1,813,135円の支出減。

事務所賃借料はほぼ予算額通り。

給与及手当は職員の交代により35万円の減少。

厚生費は職員の健康保険料・厚生年金・失業保険料の事業主負担分並びにレクリエーション費。

什器備品購入費は支出なし。

消耗品費は会議用資料、記録のプリントタイプ代、及び事務用品費。

通信費は諸連絡、通知の郵便料金及び電話通話料で46万円の減少。

旅費及び交通費は、幹事及び職員の総会出張旅費、及び職員の都内出張交通費。

集金費は昭和50年度会費納入率90%以上の地方部会宛集金手数料支払い、及び昭和51年9月末までの当年度会費納入に係る各地方部会一括集金手数料。

雑費は公認会計士決算料、アルバイトの日当などを含んでいる。

(2) 役員会及び幹事会費(項) 6,462,637円

理事会費は理事会5回、編集担当理事会4回、会計担当理事会2回などの費用。

常務理事会費は8回の費用。

幹事会費は幹事会6回、担当幹事連絡会1回の費用。

旅費及交通費は前述諸会議への出席者の旅費及び交通費。

会議費全体としての支出減は会議の会場等についてできる限り節約したことと臨時の会議開催が少なかったこと並びに国鉄運賃の値上げが11月になったことなどによる。

(3) 評議員会費(項) 1,000,000円

第29回総会時の評議員会開催費用の補助で予算額通り支出。

(4) 渉外費(項) 135,500円

国際関係渉外費は、第8回 FIGO 世界大会主催機関への電報料及び AF ジャーナルの受取運賃である。

国内関係渉外費は、日産婦・日母連絡会4回開催の費用などである。

(5) 慶弔費(項) 150,000円

三林隆吉、吉松信宝2名誉会員、内田豊咲、小原信

行、大屋精一、小林静一、斉藤公平、平山健康、前田洲、村井貞寛、渡辺福明 9 功労会員、橋本義夫、林基之2 評議員のご逝去に際しての香典並びに花環代。

3) 外部団体分担金支出(款) 426,120円

新生児管理改善促進 連合昭和51年度分担金5万円、FIGO 昭和51年度分担金1,300ドル(1ドル×1,300(名))(円価376,120円で、AFOG 昭和51年度分担金500ドル(50セント×1,000(名))は請求書未着のため送金できなかった。

4) 諸積立金(款) 5,485,420円

各積立金を予算額通り繰入れた。また名簿発行積立金には、日産婦・日母全国名簿頒布代(日母と折半)1,485,420円も繰入れた。

5) 予備費(款) 3,142,710円

法人化に要した評議員会法人化委員会旅費、会議費、その他申請手続などに要した一切の費用1,180,840円、及び FIGO 募金趣意書発送費1,961,870円である。以上を精算し、44,814,619円が次年度に繰越すこととなった。

## II. 積立金会計

昭和51年度諸積立金及び基金増減報告は別記資料の通りである。

期中増は当期事業会計からの繰入額で、事業会計予算額通り繰入れ、名簿発行積立金については日産婦・日母全国名簿発行に伴う収入も事業会計から繰入れた。

期中減は当期支出額で、海外代表派遣積立金613,200円の減は FIGO 第8回世界大会(メキシコ)の General Assembly に本会からの代表として出席した滝副会長、竹内、東條両渉外担当理事の旅費補助費であり、また、退職積立金225,962円の減は退職した職員1名に退職給与金として支出したものである。

以上により、事業会計並びに積立金会計の決算による昭和51年度末における財産目録は資料の通りである。

## 財産目録

この財産目録は昭和52年3月31日現在の資産状況を明示するために作成した。

### 1) 現金

当法人の手許残高である。

### 2) 預金

(基本金)～(退職積立金)は積立金会計の残高である。

(事業会計)事業会計の剰余金が銀行預金等になっている。

(特別資金)年度当初などの事業会計の不足した場合の運用資金として使用するのためのもので、普通預金と定

期預金に分けてある。

3) 有価証券

直通電話設置に際し購入した割引電信電話債券である。

4) 電話加入権

当法人の事務所に使用

5) 保証金及び敷金

当法人の事務所を賃借するため(財)保健会館に預託してあるものである。

6) 什器備品

取得価格5万円以上の物品を取得価格で示してある。

7) 預り金

職員の給与よりの預り源泉所得税及び会費収入等の預り金である。

8) 退職給与引当金

当法人職員が期末において自己都合退職したものとして「職員退職給与規定」に基づき計算された金額である。

**第3議案 委員会の設置改廃に関する件(九嶋会長)**

設置予定の委員会は次の通りである。

登録委員会として

1. 子宮癌登録委員会

2. 卵巣腫瘍登録委員会

3. 絨毛性腫瘍登録委員会

4. 周産期管理登録委員会

問題委員会として

5. 産科婦人科用語問題委員会

6. 産科婦人科 ME 問題委員会

7. 産科婦人科栄養・代謝問題委員会

8. 産科婦人科教育問題委員会

9. 婦人科癌検診問題委員会

10. 産科婦人科小児・思春期問題委員会

特殊委員会として

11. 社会保険学術委員会

木下議長：委員会設置に関する件は承認されるか。承認

**第4議案 昭和52年度事業計画及び予算に関する件**

昭和52年度事業計画：滝副会長

社団法人として初年度になるが従来の事業は継続する。物価上昇による諸経費の増加、FIGO 東京大会の準備などを計画している。

昭和52年度予算について：古谷理事

提案理由の説明

昭和52年度収支予算書

自 昭和52年4月1日

至 昭和53年3月31日

社団法人 日本産科婦人科学会

1. 総括表

| 事 項<br>会計別 | 歳 入         | 歳 出         | 差引残高      | 差引残高の処理  |           |
|------------|-------------|-------------|-----------|----------|-----------|
|            |             |             |           | 基本財産への編入 | 翌年度への繰越   |
| 事業会計       | 164,027,219 | 164,027,219 | 0         | 0        | 0         |
| 積立金会計      | 2,000,000   | 0           | 2,000,000 | 0        | 2,000,000 |
| 計          | 166,027,219 | 164,027,219 | 2,000,000 | 0        | 2,000,000 |

2. 事業会計

(1) 歳 入

| 科 目         | 予 算 額             | 前年度予算額            | 増 減 (Δ)          | 摘 要 |
|-------------|-------------------|-------------------|------------------|-----|
| 款 項         |                   |                   |                  |     |
| 1. 会 費 収 入  | <b>89,651,600</b> | <b>85,278,000</b> | <b>4,373,600</b> |     |
| (1) 当年度会費収入 | 86,460,000        | 81,450,000        | 5,010,000        |     |
| (2) 過年度会費収入 | 2,841,600         | 3,528,000         | Δ 686,400        |     |

|                   |                   |                   |                  |  |
|-------------------|-------------------|-------------------|------------------|--|
| (3) 入 会 金 収 入     | 350,000           | 300,000           | 50,000           |  |
| 2. 機 関 誌 収 入      | <u>27,460,000</u> | <u>25,840,000</u> | <u>1,620,000</u> |  |
| (1) 購 読 料 収 入     | 960,000           | 2,040,000         | Δ 1,080,000      |  |
| (2) 掲 載 料 収 入     | 6,700,000         | 5,800,000         | 900,000          |  |
| (3) 機関誌刊行協力費収入    | 19,800,000        | 18,000,000        | 1,800,000        |  |
| 3. 雑 収 入          | <u>2,101,000</u>  | <u>1,101,000</u>  | <u>1,000,000</u> |  |
| (1) 日 医 奨 励 金 収 入 | 100,000           | 100,000           | 0                |  |
| (2) 受 取 利 息       | 2,000,000         | 1,000,000         | 1,000,000        |  |
| (3) 雑 収 入         | 1,000             | 1,000             | 0                |  |
| 4. 繰 越 金          | <u>44,814,619</u> | <u>45,000,000</u> | Δ <u>185,381</u> |  |
| 歳 入 合 計           | 164,027,219       | 157,219,000       | 6,808,219        |  |

## (2) 歳 出

| 科 目                             | 予 算 額             | 前年度予算額            | 増 減 (Δ)          | 摘 要 |
|---------------------------------|-------------------|-------------------|------------------|-----|
| 款 項 目                           |                   |                   |                  |     |
| 1. 事 業 費                        | <u>92,000,800</u> | <u>84,886,000</u> | <u>7,114,800</u> |     |
| (1) 機 関 誌 発 行 費                 | (57,000,300)      | (54,288,000)      | ( 2,712,300)     |     |
| 印 刷 費                           | 29,830,000        | 28,140,000        | 1,690,000        |     |
| 用 紙 購 入 費                       | 14,078,000        | 13,295,000        | 783,000          |     |
| 発 送 費                           | 12,692,300        | 12,453,000        | 239,300          |     |
| 編 集 費                           | 400,000           | 400,000           | 0                |     |
| (2) 総 会 費                       | (10,000,000)      | (10,000,000)      | ( 0)             |     |
| 総 会 補 助 費                       | 10,000,000        | 10,000,000        | 0                |     |
| (3) 企 画 委 員 会 費                 | ( 7,843,500)      | ( 7,098,000)      | ( 745,500)       |     |
| 運営企画委員会費                        | 2,646,000         | 3,054,000         | Δ 408,000        |     |
| 学術企画委員会費                        | 5,197,500         | 4,044,000         | 1,153,500        |     |
| (4) 専 門 委 員 会 費                 | ( 8,400,000)      | ( 8,400,000)      | ( 0)             |     |
| (5) 第 9 回 FIGO 世界大会<br>組織委員会補助費 | ( 8,500,000)      | ( 5,000,000)      | ( 3,500,000)     |     |
| (6) 会 長 記 念 品 代                 | ( 12,000)         | ( 10,000)         | ( 2,000)         |     |
| (7) 名誉会員・功労会員記<br>章代            | ( 45,000)         | ( 90,000)         | Δ ( 45,000)      |     |
| (8) 永年勤続職員表彰事業費                 | ( 200,000)        | —                 | ( 200,000)       |     |
| 2. 管 理 費                        | <u>54,306,280</u> | <u>45,767,040</u> | <u>8,539,240</u> |     |
| (1) 事 務 費                       | (36,010,600)      | (29,484,000)      | ( 6,526,600)     |     |
| 事 務 所 賃 借 料                     | 5,304,000         | 5,172,000         | 132,000          |     |
| 給 与 及 手 当                       | 22,284,000        | 17,210,000        | 5,074,000        |     |
| 厚 生 費                           | 1,312,000         | 970,000           | 342,000          |     |
| 什 器 備 品 購 入 費                   | 500,000           | 500,000           | 0                |     |
| 消 耗 品 費                         | 1,400,000         | 1,400,000         | 0                |     |
| 通 信 費                           | 1,800,000         | 1,500,000         | 300,000          |     |
| 旅 費 及 交 通 費                     | 1,545,000         | 870,000           | 675,000          |     |
| 集 金 費                           | 1,065,600         | 1,062,000         | 3,600            |     |
| 雑 費                             | 800,000           | 800,000           | 0                |     |

1977年11月

総会記事

1639

|                          |              |              |                |  |
|--------------------------|--------------|--------------|----------------|--|
| (2) 役員会及幹事会費             | (14,860,680) | (13,163,040) | ( 1,697,640)   |  |
| 理 事 会 費                  | 1,269,000    | 1,350,000    | Δ 81,000       |  |
| 常務理事会費                   | 810,000      | 750,000      | 60,000         |  |
| 幹 事 会 費                  | 450,000      | 450,000      | 0              |  |
| 旅費及交通費                   | 12,331,680   | 10,613,040   | 1,718,640      |  |
| (3) 評 議 員 会 費            | ( 1,000,000) | ( 1,000,000) | ( 0)           |  |
| 評議員会補助費                  | 1,000,000    | 1,000,000    | 0              |  |
| (4) 地 方 部 会 長 会 費        | ( 315,000)   | —            | ( 315,000)     |  |
| (5) 渉 外 費                | ( 2,020,000) | ( 2,020,000) | ( 0)           |  |
| 国際関係渉外費                  | 1,700,000    | 1,700,000    | 0              |  |
| 国内関係渉外費                  | 320,000      | 320,000      | 0              |  |
| (6) 慶 弔 費                | ( 100,000)   | ( 100,000)   | ( 0)           |  |
| 3. 外部団体分担金支出             | 590,000      | 590,000      | 0              |  |
| (1) 新生児管理改善促進連<br>合分担金支出 | ( 50,000)    | ( 50,000)    | ( 0)           |  |
| (2) 国際産科婦人科連合分<br>担金支出   | ( 390,000)   | ( 390,000)   | ( 0)           |  |
| (3) アジア産科婦人科連合<br>分担金支出  | ( 150,000)   | ( 150,000)   | ( 0)           |  |
| 4. 諸積立金繰入                | ( 2,000,000) | 4,000,000    | Δ ( 2,000,000) |  |
| (1) 退 職 積 立 金 繰 入        | ( 1,500,000) | ( 2,000,000) | Δ ( 500,000)   |  |
| (2) 名簿発行積立金繰入            | ( 500,000)   | ( 500,000)   | ( 0)           |  |
| (3) 事務所移転積立金繰入           | ( — )        | ( 1,000,000) | Δ ( 1,000,000) |  |
| (4) 海外代表派遣積立金繰入          | ( — )        | ( 500,000)   | Δ ( 500,000)   |  |
| 5. 予 備 費                 | 15,130,139   | 21,975,960   | Δ 6,845,821    |  |
| 歳 出 合 計                  | 164,027,219  | 157,219,000  | 6,808,219      |  |

## 3. 積立金会計（事業会計よりの繰入）

| 科 目           | 予 算 額     | 前年度予算額    | 増 減 (Δ)   | 摘 要 |
|---------------|-----------|-----------|-----------|-----|
| 退 職 積 立 金     | 1,500,000 | 2,000,000 | Δ 500,000 |     |
| 名 簿 発 行 積 立 金 | 500,000   | 500,000   | 0         |     |
| 合 計           | 2,000,000 | 2,500,000 | Δ 500,000 |     |

## 昭和52年度収支予算書（案）説明書

## I 編成方針

本年度は社団法人日本産科婦人科学会の発足した初年度であるが、従来の諸事業は概ねそのまま継続され、特に大きな変更はない。しかし昨今の経済状態は、法人としての事業完遂に諸経費の必然的増加を生んでいる。また第9回国際産科婦人科連合世界大会も準備の実行段階に入り、その活動も益々盛んになるが、本年度は繰越金を充当することによつて、ようやくこの予算案を編成した。

## II 歳入の部

1) 会費収入（款） 89,651,600円

(1) 当年度会費収入（項） 86,460,000円

51年度末会員数（会費免除者を除く）を14,800名として、既往の実績から納入率を95%、新入会員を350名と見込んで算定した。

$$6,000円 \times 14,800（名） \times \frac{95}{100} = 84,360,000円$$

$$6,000円 \times 350（名） = 2,100,000円$$

$$（84,360,000円 + 2,100,000円） = 86,460,000円$$

(2) 過年度会費収入（項） 2,841,600円

51年度会費の未納率を4%, そのうち80%が当年度中に納入するものとして算定した.

$$6,000円 \times 14,800(名) \times \frac{4}{100} \times \frac{80}{100} = 2,841,600円$$

(3) 入会金収入(項) 350,000円

当年度内の新入会員を350名と見込んで算定した.

$$1,000円 \times 350(名) = 350,000円$$

$$\begin{aligned} \text{合計} \quad & 86,460,000円 + 2,841,600円 + 350,000円 \\ & = 89,651,600円 \end{aligned}$$

2) 機関誌収入(款) 27,460,000円

(1) 購読料収入(項) 960,000円

$$6,000円 \times 160(名) = 960,000円$$

(2) 掲載料収入(項) 6,700,000円

特掲希望者はないものとして, 前年度実績を考慮して計上した.

(3) 機関誌刊行協力費収入(項) 19,800,000円

52年4月分から値上げするので, 1ヵ月約165万円として算定した.

$$1,650,000円 \times 12(月) = 19,800,000円$$

$$\begin{aligned} \text{合計} \quad & 960,000円 + 6,700,000円 + 19,800,000円 \\ & = 27,460,000円 \end{aligned}$$

3) 雑収入(款) 2,101,000円

(1) 日医奨励金収入(項) 100,000円

前年度収入と同額を見込んだ.

(2) 受取利息(項) 2,000,000円

事業会計に属する預金の受取利息のみで, 予算規模の拡大により前年度より100万円増を見込んだ.

(3) 雑収入(項) 1,000円

$$\begin{aligned} \text{合計} \quad & 100,000円 + 2,000,000円 + 1,000円 \\ & = 2,101,000円 \end{aligned}$$

4) 繰越金(款・項) 44,814,619円

昭和51年度決算による繰越金である.

### Ⅲ 歳出の部

1) 事業費(款) 92,000,800円

(1) 機関誌発行費(項) 57,000,300円

① 印刷費(目) 29,830,000円

前年度の状況を考慮に入れ更に4月から値上げを見込んで算出した.

1回15,800部, 年間12回発行.

普通号(1回約160頁) 11回

$$2,180,000円 \times 11(回) = 23,980,000円$$

総会号1回 5,350,000円

雑経費 500,000円

$$(23,980,000円 + 5,350,000円 + 500,000円)$$

$$= 29,830,000円$$

② 用紙購入費(目) 14,078,000円

最近は比較的安定しているので, 前年度の状況を考慮して算定した.

表紙用紙代 12回 840,000円

普通号 11回 913,000円  $\times$  11(回) = 10,043,000円

総会号 1回 2,695,000円

雑経費 500,000円

$$\begin{aligned} & (840,000円 + 10,043,000円 + 2,695,000円 \\ & + 500,000円 = 14,078,000円) \end{aligned}$$

③ 発送費(目) 12,692,300円

各大学医局などには小包便で一括発送し, その他は各個人宛に郵送している.

普通号 11回

$$846,000円 \times 11(回) = 9,306,000円$$

総会号 1回 1,300,500円

発送用封筒購入費

$$8円 \times 15,300(枚) \times 12(回) = 1,468,800円$$

国外発送費 117,000円

雑経費 500,000円

$$\begin{aligned} & (9,306,000円 + 1,300,500円 + 1,468,800円 \\ & + 117,000円 + 500,000円 = 12,692,300円) \end{aligned}$$

④ 編集費(目) 400,000円

欧文原稿の整備費

$$100,000円 \times 4(回) = 400,000円$$

$$\begin{aligned} \text{計} \quad & 29,830,000円 + 14,078,000円 + 12,692,300円 \\ & + 400,000円 = 57,000,300円 \end{aligned}$$

(2) 総会費(項) 10,000,000円

総会補助費(目) 10,000,000円

第30回の総会並びに学術講演会の補助費.

(3) 企画委員会費(項) 7,843,500円

① 運営企画委員会費(目) 2,646,000円

1回の出席者を会長, 副会長, 委員25名, 合計28名として, 食事1回, 茶菓1回, 会場費を含めて1名につき4,500円を計上した. 従つて, 1回分の経費は4,500円  $\times$  28(名) = 126,000円

年間3回開催されるものとして, 会議費

$$126,000円 \times 3(回) = 378,000円$$

本年は委員交代期なので旅費・交通費は1名1回22,500円として年度内に国鉄運賃20%値上げを見込んで算定した.

$$\begin{aligned} & 22,500円 \times 28(名) \times \frac{120}{100} \times 3(回) = 2,268,000円 \\ & 378,000円 + 2,268,000円 = 2,646,000円 \end{aligned}$$

② 学術企画委員会費(目) 5,197,500円

1回の出席者が会長、副会長、委員30名、合計33名の会議を5回、1回の経費は運営企画委員会と同額を見込んで、会議費を算出した。

$$4,500円 \times 33(名) \times 5(回) = 742,500円$$

委員は未定なので1名1回22,500円として年度内に国鉄運賃20%値上げを見込んで算定した。

$$22,500円 \times 33(名) \times \frac{120}{100} \times 5(回) = 4,455,000円$$

$$742,500円 + 4,455,000円 = 5,197,500円$$

$$計 \quad 2,646,000円 + 5,197,500円 = 7,843,500円$$

$$(4) \text{ 専門委員会費(項)} \quad 8,400,000円$$

本年は専門委員会改廃の年に当たっている。しかし新委員会は評議員会の議を経て発足するため具体的な経費の計上はできないので、従前の委員会活動を推察し、社会経済状態を考慮して、一応一括して840万円を計上した。

$$(5) \text{ 第9回 FIGO 世界大会組織委員会補助費}$$

$$8,500,000円$$

組織委員会の会議費、交通費、通信費、印刷費の補助。

$$(6) \text{ 会長記念品代(項・目)} \quad 12,000円$$

第30回会長に贈呈する記念品の製作費用。

$$12,000円 \times 1(個) = 12,000円$$

$$(7) \text{ 名誉会員・功労会員記章代(項・目)}$$

$$45,000円$$

功労会員記章 5名分の製作費用。

$$9,000円 \times 5(個) = 45,000円$$

$$(8) \text{ 永年勤続職員表彰事業費(項・目)}$$

$$200,000円$$

$$合計 \quad 57,000,300円 + 10,000,000円 + 7,843,500円$$

$$+ 8,400,000円 + 8,500,000円 + 12,000円$$

$$+ 45,000円 + 200,000円 = 92,000,800円$$

$$2) \text{ 管理費(款)} \quad 54,306,280円$$

$$(1) \text{ 事務費(項)} \quad 36,010,600円$$

$$\textcircled{1} \text{ 事務所賃借料(目)} \quad 5,304,000円$$

事務室の賃借料、共益費及び清掃費を含めて1ヵ月約442,000円として算定した。

$$442,000円 \times 12(月) = 5,304,000円$$

$$\textcircled{2} \text{ 給与及び手当(目)} \quad 22,284,000円$$

1名増員を見込み職員9名の給与及び手当、賞与(年2回)、通勤定期券代などを含む。

$$\textcircled{3} \text{ 厚生費(目)} \quad 1,312,000円$$

職員の社会保険料事業主負担分(健康保険、厚生年金、雇用保険)とレクリエーション費(1名につき年額

10,000円)との合計額。

$$\textcircled{4} \text{ 什器備品購入費(目)} \quad 500,000円$$

書架、キャビネットなどの購入費。

$$\textcircled{5} \text{ 消耗品費(目)} \quad 1,400,000円$$

各種事務用品、印刷、製本などの経費で、前年度と同額を計上した。

$$\textcircled{6} \text{ 通信費(目)} \quad 1,800,000円$$

電話料及び印刷配布書類の第1種及び第2種郵便料金などで、総会委任状の送料などを考慮して計上した。

$$\textcircled{7} \text{ 旅費及交通費(目)} \quad 1,545,000円$$

役員、幹事並びに職員の公務出張旅費と、職員の都内出張交通費。

$$\textcircled{8} \text{ 集金費(目)} \quad 1,065,600円$$

9月末までに会費を一括納入した地方部会に対して納入者1名につき60円、前年度会費の納入率90%以上の地方部会に対して納入者1名につき20円を手数料として送附するためのもので、いずれも会員数の90%が納入するものと見込んで算定した。

$$60円 \times 14,800(名) \times \frac{90}{100} = 799,200円$$

$$20円 \times 14,800(名) \times \frac{90}{100} = 266,400円$$

$$799,200円 + 266,400円 = 1,065,600円$$

$$\textcircled{9} \text{ 雑費(目)} \quad 800,000円$$

事務諸雑費、アルバイト雇用費、公認会計士決算料、弁護士相談料などを一括計上した。

$$計 \quad 5,304,000円 + 22,284,000円 + 1,312,000円$$

$$+ 500,000円 + 1,400,000円 + 1,800,000円$$

$$+ 1,545,000円 + 1,065,600円 + 800,000円$$

$$= 36,010,600円$$

$$(2) \text{ 役員会及幹事会費(項)} \quad 14,860,680円$$

$$\textcircled{1} \text{ 理事会費(目)} \quad 1,269,000円$$

1回の出席者を理事23名、監事3名、幹事(総会幹事を含む)15名、名誉会員及び議長、副議長5名、事務局長1名、合計47名として食事1回、茶菓1回、会場費を含めて1名につき4,500円として算定した。従つて、1回分の経費は、

$$4,500円 \times 47(名) = 211,500円$$

定例理事会費としては4回分を計上した。

$$211,500円 \times 4(回) = 846,000円$$

臨時理事会及び担当役員会費などとして、定例理事会の2回分に相当する額を計上した。

$$211,500円 \times 2(回) = 423,000円$$

$$846,000円 + 423,000円 = 1,269,000円$$

## ② 常務理事会費(目) 810,000円

1回の出席者を会長、副会長、常務理事11名、幹事10名、監事及び議長・副議長5名、事務局長1名、合計27名として、食事1回、茶菓を含めて1名につき2,500円を計上した。従つて、1回分の経費は、

$$2,500円 \times 27(名) = 67,500円$$

年間臨時を含めて12回分を計上した。

$$67,500円 \times 12(回) = 810,000円$$

## ③ 幹事会費(目) 450,000円

1回の出席者を12名として、食事1回、茶菓を含めて1名につき2,500円を計上した。従つて1回分の経費は、

$$2,500円 \times 12(名) = 30,000円$$

年間臨時を含めて15回分計上した。

$$30,000円 \times 15(回) = 450,000円$$

## ④ 旅費及交通費(目) 12,331,680円

理事会、常務理事会、幹事会の旅費及び交通費で既往の実績を勘案して年度内に国鉄運賃20%値上を見込んで算定した。

理事会：定例及び臨時又は担当合計5回

$$880,000円 \times 5(回) \times \frac{120}{100} = 5,280,000円$$

常務理事会：定例及び臨時合計12回

$$380,200円 \times 12(回) \times \frac{120}{100} = 5,474,880円$$

幹事会：定例及び臨時合計15回

$$87,600円 \times 15(回) \times \frac{120}{100} = 1,576,800円$$

$$(5,280,000円 + 5,474,880円 + 1,576,800円)$$

$$= 12,331,680円)$$

$$\text{計} \quad 1,269,000円 + 810,000円 + 450,000円$$

$$+ 12,331,680円 = 14,860,680円$$

## (3) 評議員会費(項) 1,000,000円

## ① 評議員会補助費(目) 1,000,000円

第30回総会時の定例評議員会開催費用の補助

## (4) 地方部会長会費(項・目) 315,000円

出席者70名として

$$4,500円 \times 70(名) = 315,000円$$

## (5) 渉外費(項) 2,020,000円

## ① 国際関係渉外費(目) 1,700,000円

国際的学术交流の隆盛となるに伴い、わが国を代表して IF, AF などの議事に参加される会員(国際会議役員)に対して、旅費の補助として支出する経費のみでなく、諸外国の学会関係者との連絡、折衝などの経費も含めた。

IF 関係会議への旅費として100万円、AF 関係のそれ

として50万円、連絡・折衝などの経費として20万円を計上した。

$$1,000,000円 + 500,000円 + 200,000円 = 1,700,000円$$

## ② 国内関係渉外費(目) 320,000円

国内諸団体との連絡・折衝のため必要経費(旅費・交通費を含む)を計上した。

日本母性保護医協会との連絡会は、会場費及び食費は交互に負担し、旅費・交通費はそれぞれ自己負担することとしたので、食事1回と茶菓代を含めて1名につき2,500円として、1回の出席者を各10名、年間4回開催されるものとして算定した。

$$2,500円 \times 20(名) \times 2(回) = 100,000円$$

$$\text{同交通費} \quad 30,000円 \times 4(回) = 120,000円$$

なお、上記連絡会以外に日本学術会議、日本医学会など国内の関係団体との折衝や会議に出席するための旅費及び交通費あるいはその他の渉外関係諸経費として10万円を計上した。

$$100,000円 + 120,000円 + 100,000円 = 320,000円$$

$$\text{計} \quad 1,700,000円 + 320,000円 = 2,020,000円$$

## (6) 慶弔費(項・目) 100,000円

$$\text{合計} \quad 36,010,600円 + 14,860,680円 + 1,000,000円$$

$$+ 315,000円 + 2,020,000円 + 100,000円$$

$$= 54,306,280円$$

## 3) 外部団体分担金支出(款) 590,000円

## (1) 新生児管理改善促進連合分担金支出(項・目)

$$50,000円$$

## (2) 国際産科婦人科連合分担金支出(項・目)

$$390,000円$$

1米ドル300円として算定した。

$$300円(1米ドル) \times 1,300(名) = 390,000円$$

## (3) アジア産科婦人科連合分担金支出(項・目)

$$150,000円$$

1米ドル300円として算定した。

$$150円(50セント) \times 1,000(名) = 150,000円$$

$$\text{合計} \quad 50,000円 + 390,000円 + 150,000円$$

$$= 590,000円$$

## 4) 諸積立金繰入(款) 2,000,000円

## (1) 退職積立金繰入(項・目) 1,500,000円

## (2) 名簿発行積立金繰入(項・目) 500,000円

今後名簿を発行するための費用を計上した。

$$\text{合計} \quad 1,500,000円 + 500,000円 = 2,000,000円$$

## 5) 予備費(款・項・目) 15,130,139円

昭和52年度事業会計予算案の収支比率

| 歳入の部  |                      | 164,027,219円 | 歳出の部      |                      | 164,027,219円 |
|-------|----------------------|--------------|-----------|----------------------|--------------|
| 会費収入  | 89,651,600 ( 54.66%) |              | 事業費       | 92,000,800 ( 56.09%) |              |
| 機関誌収入 | 27,460,000 ( 16.74%) |              | 管理費       | 54,306,280 ( 33.11%) |              |
| 雑収入   | 2,101,000 ( 1.28%)   |              | 外部団体分担金支出 | 590,000 ( 0.36%)     |              |
| 繰越金   | 44,814,619 ( 27.32%) |              | 諸積立金繰入    | 2,000,000 ( 1.22%)   |              |
|       |                      |              | 予備費       | 15,130,139 ( 9.22%)  |              |

## 第1議案～第4議案に関する質疑

石井評議員（北海道）

日本医師会よりの奨励金について

現在10万円であり、昔は5万円であつた。その時の医師会の会費は2,000円であり、現在はA会員47,000円、B会員は17,000円となつている。このような状況からみても学術団体に対する日医の奨励金を値上げしてもらつてもよいのではないか。執行部として日医に運動すべきではないか。

九嶋会長答弁

執行部として、機会あるごとをお願いをするつもりである。日医側の方でも考えて頂きたい。

木下議長から、一般質問がなければ、第1議案から第4議案までを予算決算委員会に付託して慎重審議をお願いすることにしたいとの提案があり、承認された。

—◇—

## ○予算・決算委員会

委員名

北海道：小森 昭，高岡邦夫

東北：五十嵐信寛，広井正彦

関東：平山量太郎，斉藤 幹，長野寿久

北陸：藤田敏雄，四位例 章

東海：堀 好二，野口多六

近畿：伴 一郎，河田 優，合阪俊二郎

中国：田野俊彦，黒川亨一

四国：猪原照夫，玉井研吉

九州：馬場常澄，今村臣正，岩永邦喜

委員会運営を木下議長一任とし、議長から委員長に合阪俊二郎君が指名され委員全員賛同して決定。

## 1) 昭和50年度収支決算について

古谷会計担当理事から説明があり、その後次のごとき質疑応答があつた。

○評議員会費が例年1,000,000円であるが、50年度は2,000,000円である理由。……答弁：第27回、第28回総

会時の定例評議員会開催費用（2回分）である。

○慶弔費はどのように使われているか。また一般会員の場合はどうか。……答弁：名誉会員には香典1万円、花環代1万円、功労会員、評議員には香典1万円をさしあげている。一般会員は所属の地方部会が担当しており本学会では特別のことはしていない。

出席委員全員昭和50年度収支決算を原案通り承認。

## 2) 昭和51年度収支決算について

古谷会計担当理事より説明があり、次のごとき意見の開陳および質疑応答があつた。

○歳入について機関誌収入のうち掲載料収入、雑収入のうち受取利息の予算額等が決算額に比して過小であり、次年度予算からは改められたい。

○歳出について編集費の決算が極めて小額の理由。……答弁：欧文号の校正を外人に依頼しその謝礼を計上していたが現在は編集理事、幹事が担当しているので謝礼を支出していないためである。

○専門委員会の委員の旅費は支給しているか。……答弁：専門委員会とはほとんど他の委員会と同時に行つているので旅費は支給していない。

○役員の旅費は日母と同額にしてはどうか。……答弁：旅費規定を検討したい。

○事務職員の給与はどうか。……答弁：一応公務員に準じている、採用時特に支障はない。

○財産目録に於ける預金のうち特別資金についての説明を委員一同承認した。

○一般に予算額に比して決算額が少額なのがめだつ。必要な経費に伴う予算執行は積極的に行うよう要望された。

## 3) 昭和52年度収支予算案について

古谷会計担当理事より説明。

○永年勤続職員表彰について今後規定を作るよう提案があつた。

○地方部会長会をふやすよう要望があつたので費用その他の点につき今後検討することにした。

出席委員全員昭和52年度予算案を原案通り承認。

#### 4) その他

古谷理事より次年度（第30回）総会は53年4月8日から開催されるので3月中旬（15日）で一応会計を閉鎖し決算を行い、これを評議員会用の送附資料としたい旨の申し出があり、一同承認。

——◇——

木下議長

予算・決算委員会の審議が終了したので委員長から報告していただきたい。

合阪 予算・決算委員長報告

必要な経費は遠慮なく支出し、充実した事業を行なえるような予算を組むようにとの意見があつた。また、慶弔費の対象を一般会員にも拡げるようにとの意見もあつた。

慎重に審議した結果、第1議案から第4議案まで、何れも適切であり委員会として原案通り承認した。

尚、会計年度と次期総会との時間的關係から、来年度の臨時措置として、3月15日に会計を閉鎖して決算書を作成することも委員会として承認した。

木下議長：予算・決算委員会での結論に基づき、第1議案について御承認願えるか。承認

第2議案について御承認願えるか。承認

第3議案について御承認願えるか。承認

第4議案について御承認願えるか。承認

52年度決算処理に関する臨時措置について御承認願えるか。承認

#### 第5議案 第30回学術講演会シンポジウム担当者に関する件

##### 第31回学術講演会シンポジウム課題に関する件

1) 第30回学術講演会 シンポジウム 担当者 について（竹内理専）

学術企画委員会での詮衡経過並びに理事会での審議経過を説明

応募者はi)「子宮内膜異常増殖の病態」については13名、ii)「妊娠現象と子宮頸部」については9名であつたが、慎重審議の結果、理事会では次のように決定した。

i) 演者：植木 実君，加藤順三君，早川謙一君

予定発言者：石東嘉男君，関谷宗英君

司会：須川 信教授

ii) 演者：一條元彦君，齊藤良治君，橋本武次君，平川 舜君

予定発言者：菊池三郎君

司会：鈴木正勝教授

2) 第31回学術講演会シンポジウム課題について（竹内理事）

応募課題14題について、学術企画委員会および理事会で慎重に詮衡・審議した結果次の2題が採択された。

○排卵をめぐる卵巣の生理・病理

……ヒト卵巣を中心としての問題点

○早産因子の解析と対策

以上 承認

#### 第6議案 副会長及び第32回総会並びに学術講演会開催地選定に関する件（九嶋会長）

理事会で慎重審議の結果、開催地 東京都，第32回総会会長に松本清一君を推薦する。挙手多数で決定。

#### 第7議案 名誉会員及び功労会員推薦に関する件（九嶋会長）

理事会で慎重審議の結果

名誉会員として

岩井 正二（長野）

九嶋 勝司（秋田）

佐伯 政雄（神奈川）の3君

功労会員として

田畑武夫（北海道），彦坂恭之助（東京），三宅秀郎（東京），天野一忠（神奈川），依田省吾（山梨），花岡堅而（長野），越野達郎（福井），今泉静夫（愛知），山田利男（愛知），山原 秀（愛知），田中亀三郎（京都），浜田春次郎（大阪），正岡 旭（広島），八木国男（熊本），遠矢善栄（鹿児島）

の15君を推薦する。

以上 承認。

#### 新名誉会員の横顔

岩 井 正 二 君  
い い しょう じ

本籍地 高岡市川原上町42番地

現住所 松本市横田118—5

生年月日 明治44年11月15日生

昭和6年3月 富山高等学校卒業

昭和11年3月 東京帝国大学医学部卒業



昭和11年4月 同 産婦人科教室勤務  
 昭和18年9月 海軍技師, マカッサル研究所所員  
 昭和18年12月 学位受領(医学博士)  
 昭和23年6月 東京都養育院勤務  
 昭和25年8月 信州大学松本医科大学教授  
 昭和29年4月 信州大学医学部教授  
 昭和33年4月 第10回日本産科婦人科学会宿題報告  
 「子宮頸癌の放射線療法」  
 昭和36年8月 子宮癌の放射線療法の研究のため,  
 オーストリア共和国, ドイツ連邦共和  
 国, スウェーデン王国, フランス共和  
 国, イギリスおよびアメリカ合衆国の  
 各国へ出張  
 昭和36年12月 信州大学医学部附属病院長併任  
 昭和38年4月 信州大学医学部附属助産婦学校長併任  
 昭和41年3月 日本産科婦人科学会理事  
 昭和43年11月 第4回アジア産科婦人科学会出席なら  
 びにアジア各国産婦人科学の研究調  
 査のため, シンガポール, インドネシ  
 ア, タイ, 中華民国ならびに香港へ出  
 張  
 昭和46年10月 第5回アジア産科婦人科学会に座長と  
 して出席のため, シンガポールおよび  
 インドネシアへ出張  
 昭和48年6月 日本産科婦人科学会子宮癌委員会委員  
 長  
 昭和49年7月 第6回アジア産科婦人科学会議に出席  
 のため, マレーシアおよびシンガポ  
 ールへ出張

昭和50年4月 信州大学医学部長併任  
 昭和50年4月 第28回日本産科婦人科学会会長就任  
 昭和52年3月 日本母性保護医協会名誉会員  
 昭和52年4月 信州大学名誉教授  
 昭和52年5月 社団法人日本産科婦人科学会名誉会員

九 嶋 勝 司 君  
 く しま かつ じ



本籍地 秋田県能代市南元町115—3  
 現住所 秋田市手形中谷地5—1  
 生年月日 明治44年2月20日生(秋田県)  
 昭和7年3月 第二高等学校理科乙類卒  
 昭和11年3月 東北帝国大学医学部卒  
 昭和11年4月 東北帝大副手(産科婦人科教室勤務)  
 昭和16年9月 東北帝大助教授  
 昭和17年1月 医学博士授与(子宮癌予後判定法とし  
 ての血液変化)  
 昭和21年8月 福島県立女子医学専門学校講師  
 昭和22年2月 同上教授  
 昭和24年5月 日本産科婦人科学会評議員  
 昭和31年4月 日本産科婦人科学会理事  
 ~45年3月  
 昭和31年5月 東北大学教授  
 昭和39年1月 日本学術会議会員(第6期および第7  
 期, 4年間)  
 昭和44年7月 秋田大学教授  
 昭和45年4月 秋田大学医学部長(初代~3期6年間)  
 昭和48年4月 日本産科婦人科学会理事(2期4年間)

昭和51年2月 秋田大学長（専任）  
 昭和51年5月 日本産科婦人科学会会長  
 昭和52年5月 第29回日本産科婦人科学会総会ならび  
 に学術講演会主催（秋田市）  
 昭和52年5月 社団法人日本産科婦人科学会名誉会員

佐 伯 政 雄 君  
 さ えき まさ お



本籍地 東京都中央区湊町1-4-1  
 現住所 東京都保谷市東伏見3-2-25  
 生年月日 明治38年11月5日生

大正15年3月 県立金沢第3中学校卒業  
 昭和9年3月 慶応義塾大学医学部卒業  
 昭和9年4月 同大学医学部助手・産婦人科教室勤務  
 昭和16年4月 同産婦人科教室医局長  
 昭和16年11月 医学博士（近畿産婦人科学会高山賞）  
 昭和17年8月 東京市立深川産院長—東京都立清瀬産  
 院同乳児院長兼務  
 昭和18年9月 慶応義塾大学医学部講師  
 昭和19年1月 慶応義塾大学附属医学専門部教授・学  
 生主事・慶応中野病院（同 附属病院）  
 副院長  
 昭和19年9月～20年5月（応召—解除，再応召—解除）  
 昭和25年4月 東京歯科大学講師兼任  
 昭和28年2月 医師国家試験委員  
 昭和29年4月～41年3月  
 日本産科婦人科学会幹事—幹事長

昭和32年3月 日本産科婦人科学会評議員  
 昭和35年 第4回日本癌学会シンポジウム担当  
 昭和36年6月 中野組合病院長  
 昭和41年3月 第18回日本産科婦人科学会総会シンポ  
 ジウム担当  
 昭和41年10月 昭和41年日本産科婦人科学会臨床大会  
 シンポジウム担当  
 昭和46年4月 聖マリアンナ医科大学教授・同附属病  
 院副院長  
 昭和48年4月 日本産科婦人科学会関東連合地方部会  
 監事  
 昭和48年8月 第7回産科婦人科国際会議（モスコ—）  
 出席・英，独，仏，スウェーデン，フ  
 ィンランド医学視察  
 昭和49年9月 聖マリアンナ医大客員教授・聖マリア  
 アンナ医大東横病院顧問，副院長  
 昭和49年11月 第8回国際不妊学会（フェノスアイレ  
 ス）出席・北米，南米医学視察  
 昭和52年5月 社団法人日本産科婦人科学会名誉会員

#### 第8議案 規約改正に関する件（九嶋会長）

役員および評議員選任規程の改正について，1）理事  
 の定数，第6条は現行のままであると理事が23名に達し  
 ないことがあるので改正する．2）評議員の定数，第12  
 条の中の会員はその地方部会に属することを明確にする  
 ……の2項である．

社団法人日本産科婦人科学会役員および評議員選任規  
 程

#### 現行

##### 理事の定数

第6条 理事の定数は，各ブロックごとに前年の12  
 月31日現在会費を完納した会員数700名につき1  
 名の割合とする．その会員数に700名未満の端数を  
 生じた場合は350名を超えるとき1名を加え得る  
 ものとする．但し理事総数が18名を下り，または  
23名を超えるときは，理事会が比例人員を変更す  
る．会長，副会長は理事の定数に数える．

##### 評議員の定数

第12条 評議員の定数は，各地方部会ごとに前年の  
 12月31日現在会費を完納した会員数40名につき1  
 名の割合とする．会員数に40名未満の端数を生じ  
 た場合は20名を超えるとき1名を加え得るものと  
 する．但し，評議員総数が340名を下り，または

370名を超えるときは理事会が比例人員を変更するものとする。

#### 改正案

#### 理事の定数

第6条 理事の定数は、各ブロックごとに前年の12月31日現在、そのブロックに所属する会員で会費を完納した会員数700名につき1名の割合とする。その会員数に700名未満の端数を生じた場合は350名を超えるときに1名を加え得るものとする。但し理事総数が23名を超え、または下つたときは、理事会は各ブロックの比例人員または端数が生じた場合の人員を変更し、理事総数を23名にする。

#### 評議員の定数

第12条 評議員の定数は、各地方部会ごとに前年の12月31日現在、その地方部会に所属する会員で会費を完納した会員数40名につき1名の割合とする。会員数に40名未満の端数を生じた場合は20名を超えるとき1名を加え得るものとする。

但し、評議員総数が340名を下り、または370名を超えるときは理事会が比例人員を変更するものとする。

#### 規約改正を承認

#### 第9議案 2年以上会費未納者処理に関する件（九嶋会長）

評議員会資料64頁～65頁にある未納者はすでに各地方部会を通じて督促の結果、4月20日現在なお未納の会員である。これを定款第14条第3項により事務的に処理したい。承認

#### 第10議案 母子保健法、健康保険法の一部改正問題に関する件

木下議長：理事会から緊急追加議案が提出されたので提案理由の説明を。

九嶋会長：4月26日国会に、社会党より母子保健法と健康保険法の一部改正案が提出された。これに対し本学会として何等かの対策を講ずる必要がある。具体的な内容については議長より説明していただきたい。

木下議長：改正案の内容は1) 16歳以上の女性に年1回の定期検診を国費で行う。2) 妊婦に対し産後を含め1年間に12回の検診を国費で行う。3) 健康保険法を一部改正し、給付対象に疾病のほか分娩を含める。すなわち分娩費の現物給付。4) 健康保険助産婦、健康保険助産所を作る。……というような内容のものである。松浦日医副会長より補足をしてもらいたい。

松浦評議員：健康保険助産所を設け、健康保険助産婦を認めようとしているが、これは学問の進歩に逆行することである。日医としては反対の立場を表明した。

安井評議員（静岡）：執行部から、たたき台になる案を提案してもらいたい。

九嶋会長：これに対する対策委員会のような小委員会を作つて、日母との連絡を密にして、時期を失しないような対策を立てて行きたい。

○この法案に反対する意見が出され、評議員会で決議せよとの意見も出された。

木下議長：この議案の取り扱い慎重を要する。評議員会で決議する方法と執行部提案の対策委員会に一任する方法と2つがあるがどちらにするか。

○直ちに決議せよとの意見と、学会として検討してから結論を出せとの両論が出された。

九嶋会長：法案を阻止する対策であるので、基本的に反対するということを決議してもらつて、対策委員会に案文はまかせてもらいたい。この法案は周産期医学の立場から見ても時代に逆行するものであり、学問的見地に立つて反対の案文を作成したい。出産給付の件については、日母からもさらに意志表示をしてもらうようにしたい。拍手多数

木下議長：大多数の賛成を得たものと認める。会長提案を承認する。反対表明は効果のあるルートを通じて行ってもらふことにする。

内野監事：学会として決議したことを政治の場に持ち出すことはどうか。政治的なことは日本医師会を通じて行うことが賢明ではないか。

安井評議員（静岡）：現状は学問の場に政治が泥足でふみ込んで来た感がある。このようなことをされては学問は守れない。政治に対して1つアピールをしなくてはいけない。

木下議長：両先生の御意見を尊重し、意志表示の方法については、執行部に一任して慎重に配慮したい。

#### IV 役員選任

##### 1. 理事選任

各ブロックから予め選出された理事候補者

北海道：一戸喜兵衛

東北：鈴木雅洲、秦 良磨

関東：飯塚理八、小畑英介、坂元正一、塩島令儀

鈴木正勝、古谷 博、細川 勉、松本清一

北陸：竹内正七

東海：友田 豊、八神喜昭

近 畿：倉智敬一，須川 侑，東條伸平，西村敏雄

中 国：関場 香

四 国：中嶋 晃

九 州：加藤 俊，滝 一郎，山辺 徹

木下議長：以上23名の候補者を御承認願えるか．承認決定

## 2. 監事選任

定数3名のところ，立候補者5名のため3名連記の投票となる．

（投票上の注意について松崎事務局長より説明）

木下議長より選挙立会人選出に規約がないので議長が指名してよいかと諮り，了承されたので，関口四郎（北海道），五十嵐正雄（関東），真鍋 真（東海），青地重夫（近畿），久永幸生（九州）の各評議員が指名された．

投票の結果次の3名の新監事が選出された．

内野総二郎君，小倉知治君，関 闌君

## V その他

### 1. 第29回総会並びに学術講演会について（九嶋会長）

総会並びに学術講演会の日程と会場を説明，一般演題について従来と交見の方法を変えてオーバーヘッドプロジェクター方式で行ない，進行を円滑にすることを試みた．

### 2. 第30回総会並びに学術講演会について（滝副会長）

昭和53年福岡において，4月8日評議員会，総会，4月9日～12日まで学術講演会を行なう．会場は福岡市民会館を予定している．

### 3. 第31回総会並びに学術講演会について（坂元副会長）

医学会総会が54年4月7日～9日に開催されるので，4月3日～6日を予定している．会場は第1会場を国立東京教育会館，第2会場を久保講堂に予定している．

### 4. 国際産科婦人科連合について（東條理事）

一般演題についての説明がなされた．FIGO 役員の改選が行なわれた．本年10月にナイジェリアで理事会が開催され，坂元 FIGO 会長が出席する．

### 5. アジア産科婦人科連合について（東條理事）

本年11月にバンコクで開催される予定．本学会として岩井理事が AF を担当していたが後任については理事会に一任していただきたい．承認

### 6. その他（九嶋会長）

本学会法人化の記念事業として次の2件が提案され

た．

1. 社団法人日本産科婦人科学会の学会旗の製作

2. 事務局の永年勤続者の表彰

質問なく．承認

（鈴木理事）

妊娠7カ月児は育つということから，流産は6カ月以下にしたい．WHO の定義が保留になっているが，今年中か来年 WHO の定義が決つてから，本学会として，はつきりした見解を出したいと思つている． 閉会

## 第29回社団法人日本産科婦人科学会総会

日 時：昭和52年5月20日（金）15時30分～16時

場 所：秋田県民会館（秋田市千秋明徳町2）

I 九嶋勝司会長挨拶

II 米国産科婦人科学会よりのメッセージ

III 15時30分現在，出席者数423名，委任状2,181通，合計2,604名となり総会定足数を 超え総会は成立（会員数15,031名）

## IV 議 事

九嶋会長が議長となり，先ず定款第37条による議事録署名人として荒木日出之助会員，松山栄吉会員を指名，続いて議事に入る．

### ◇1. 昭和52年度事業計画及び収支予算報告

昭和52年度事業計画

1. 研究事業

産科婦人科領域における各分野についての専門委員会が行う事業

（1）子宮癌登録委員会

治療年報の作成及び配布，子宮頸癌患者年報の作成及び配布，委員会及び子宮頸癌Ⅰa期に関する小委員会の開催，子宮癌懇話会の開催，新加盟病院の認定，国際子宮癌委員会と連絡提携．

（2）卵巢腫瘍登録委員会

卵巢腫瘍並びに充実性卵巢腫瘍の登録，卵巢充実性腫瘍の予後調査，卵巢腫瘍症例検討会の開催，FIGO 提案の卵巢癌組織分類の小委員会開催．

（3）絨毛性腫瘍登録委員会

絨毛性腫瘍の発生状況の調査並びに地域的登録管理方式の継続，その完全な実施に基づく本症発生の地域的な差異及び管理方式の差による病態の差などの検討．

（4）周産期管理登録委員会

周産期死亡登録の実施，並びにこれらの地域別，機関

別成績の作成，死亡例の解析についての方法の検討，アジア産科婦人科連合周産期死亡委員会調査への対応。

(5) 産科婦人科用語問題委員会

産科婦人科用語集の改訂作業の継続，FIGO, WHO 並びに関連他学会，日本母性保護医協会との連絡提携。

(6) 産科婦人科 ME 問題委員会

超音波，安全，用語，心拍数計，電算機などの調査検討，ME 学会等との連絡提携。

(7) 産科婦人科教育問題委員会

産科婦人科領域の卒前教育，卒後教育，生涯教育の問題点の調査研究並びに具体的対策の検討，国家試験問題に関する検討。

(8) 婦人科癌検診問題委員会

子宮頸癌検診について受診間隔，検査法の組合わせなどの検討，子宮体癌の検診方式の確立，がん検診に関する他機関との対応。

(9) 社会保険学術委員会

社会保険の疑義・解釈に関する学術的検討，他団体との対応。

(10) 産科婦人科小児・思春期問題委員会

小児思春期婦人科外来のあり方，小児思春期婦人科臨床に関する卒前卒後教育についての調査，思春期少女の人工妊娠中絶の実態調査，思春期におけるステロイドホルモン投与の性機能に及ぼす影響並びに思春期少女の栄養とそれが性機能，身体発育に及ぼす影響などの調査研究。

(11) 産科婦人科栄養・代謝問題委員会

母乳哺育，思春期栄養・代謝，糖質・脂質栄養・代謝，ビタミン・ミネラル栄養・代謝，妊産婦栄養所要量などに関する各種の調査検討。

2. 出版事業

(1) 定期刊行物

日本産科婦人科学会雑誌（月刊）第29巻第4号から第30巻第3号まで12回発行する。

3. 附帯事業

(1) 講演会の開催

昭和52年5月秋田市において総会開催時に学術講演会（4日間）を開催する。

(2) 企画委員会の活動

企画委員会として運営企画委員会，学術企画委員会をおき，それぞれ本会の組織運営機構並びに学術活動に関して企画調整を計り，理事会の諮問に応え，かつ有機的な建策・立案を行う。

(3) 内外の学術団体との連絡提携

国際及び各国産科婦人科学会等との連絡及び提携，国内関係学術団体との連絡及び提携。

(4) FIGO 組織委員会の活動

1979年，東京で開催される国際産科婦人科連合（FIGO）第9回世界大会の準備活動。

◇昭和52年度収支予算報告

収支予算書（案）及び収支予算書（案）説明書は評議員会記録と同一内容の資料を配布した。

質疑 なし

議長：昭和52年度事業計画及び収支予算に関する報告を承認されるか。賛成多数。承認

2. 昭和50年度及び昭和51年度事業報告並びに収支決算報告

3. 財産目録についての報告

◇昭和50年度事業報告

1. 研究事業

専門委員会が行った事業

(1) 子宮癌登録委員会（委員長 岩井正二）

委員29名。新しい子宮頸癌臨床進行期分類の決定と公示，Ia 期の診断方法及び治療法に関する集計，昭和49年度子宮頸癌患者年報の作成及び配布，第17回治療年報の作成及び配布，昭和50年度子宮癌懇話会の開催，FIGO 癌委員会との連絡，第2回アジア癌会議への委員派遣，全国子宮頸癌調査成績第2報の発刊，新加盟病院の認定など。

(2) 卵巣腫瘍登録委員会（委員長 加藤 俊）

委員46名。症例検討会の開催，全参加機関による臨床調査及びその統計，卵巣癌組織分類についての小委員会開催。

(3) 絨毛性腫瘍登録委員会（委員長 石塚直隆）

委員35名。全国主要病院における絨毛性腫瘍発生状況の調査，病院登録の継続施行，地域登録管理の実施など。

(4) 周産期管理登録委員会（委員長 坂元正一）

委員15名。昭和49年度以降の周産期死亡などの年次登録の開始，アジア産科婦人科連合の周産期死亡委員会との連絡提携など。

(5) 産科婦人科用語問題委員会（委員長 鈴木正勝）

委員31名。産科婦人科用語の定義についての検討，産科婦人科用語集の改訂作業の実施，WHO，国内他学会との連絡提携など。

(6) 産科婦人科 ME 問題委員会（委員長 前田一雄）

委員23名。分娩監視装置安全基準について日本 ME 学会との合同検討，超音波診断装置使用状況の調査，陣痛計の安全調査，産科婦人科 ME 用語の調査など。

(7) 産科婦人科栄養問題委員会（委員長 古谷 博）

委員26名。妊産婦・授乳婦栄養の実態調査，厚生省の“日本人の栄養所要量”に基づいての妊・産・授乳婦栄養指導の具体的基準の作成など。

(8) 産科婦人科教育問題委員会（委員長 倉智敬一）

委員38名。卒前教育，卒後教育，生涯教育の現状調査と問題点の分析など前年度事業の継続。

(9) 助産婦教育問題委員会（委員長 品川信良）

委員19名。助産婦養成，助産婦不足解決の問題全般に対する学会としての立場に立つての検討の継続。

(10) 未熟網膜症問題委員会（委員長 九嶋勝司）

委員6名。新基準による未熟網膜症と産科学的発症因子との関連についての全国調査。

(11) 黄体ホルモン剤問題委員会（委員長 松本清一）

委員20名。黄体ホルモン剤の流産阻止効果についてのアンケート調査，妊娠初期黄体ホルモン剤使用例の新生児についての調査，関連研究グループとの連絡並びに情報の収集など。

(12) 婦人科癌検診問題委員会（委員長 竹内正七）

委員43名。癌検診のあり方，癌検診医学教育，癌検診の実態調査などの学問的検討。

(13) 社会保険学術委員会（委員長 渡辺行正）

委員23名。疑義解釈の検討，外科系学会社会保険委員会及び日本母性保護医協会社会保険委員会との連携。

## 2. 出版事業

### (1) 定期刊行物

日本産科婦人科学会雑誌（月刊）第27巻第4号から第28巻第3号まで12回発行。Acta Obstetrica et Gynaecologica Japonica（季刊）第21巻第1号から第3号および第22巻第1号から第2号まで5回発行。

### 3. 附帯事業

#### (1) 講演会の開催

第27回学術講演会を昭和50年4月9日から4日間，京都市において開催した。

内容は，シンポジウム2題，特別講演2題，教育講演9題，一般演題206題である。

#### (2) 企画委員会の活動

運営企画委員会（委員長 松本清一）

委員25名，3回の会議を経て本会の法人化に伴う定款案の検討を行い，理事会に答申した。

学術企画委員会（委員長 坂元正一）

委員30名，3回の会議を経て第28回学術講演会の名種講演及び一般演題についての協議，詮衡を行い，第29回学術講演会シンポジウム演者，第30回学術講演会シンポジウムテーマなどについて協議した。

### (3) 内外の学術団体との連絡提携

#### 1) 国外

○国際産科婦人科連合（FIGO）の各種学術委員会との連絡提携。

○アジア産科婦人科連合（AFOG）の各種学術委員会との連絡提携。

○各国主要機関との機関誌交換。

#### 2) 国内

日本医学会，医学関係学会，日本学術会議，日本母性保護医協会などとの連絡提携。

◇昭和50年度収支決算報告及び財産目録についての報告  
収支決算書，収支決算書説明書及び財産目録は評議員会記録と同一内容の資料を配布した。

◇昭和51年度事業報告

#### 1. 研究事業

産科婦人科領域における各分野についての専門委員会が行う事業

#### (1) 子宮癌登録委員会（委員長 岩井正二）

委員28名。昭和50年度子宮頸癌患者年報の作製と配布，Ia期の診断方法と治療法に関する集計並びに診断基準の作製の検討，昭和51年度子宮癌懇話会の開催，第18回治療年報の作製と配布，新加盟病院の認定など。

#### (2) 卵巣腫瘍登録委員会（委員長 加藤 俊）

委員45名。FIGOの組織分類に対応する分類試案の作成，予後の調査並びに統計資料の作成，疑問症例検討会の開催。

#### (3) 絨毛性腫瘍登録委員会（委員長 石塚直隆）

委員34名。全国主要病院における絨毛性腫瘍の発生状況の調査並びに地域的登録管理方式の統行。

#### (4) 周産期管理登録委員会（委員長 坂元正一）

委員15名。周産期死亡率，剖検数，臨床死因別分類の調査並びにその基本的検討。アジア産科婦人科連合周産期死亡委員会調査への対応。

(5) 産科婦人科用語問題委員会（委員長 鈴木正勝）

委員30名。妊娠、胎児成熟度、早期破水、その他の産婦人科用語の定義の検討、産科婦人科用語集の増補改定版収録予定用語の抽出、他学会、FIGO、WHO、厚生省との連携。

(6) 産科婦人科 ME 問題委員会 (委員長 前田一雄)

委員23名。分娩監視装置、超音波安全対策、ME 機器の安全基準などに関する検討、ME 用語の検討。

(7) 産科婦人科栄養問題委員会 (委員長 古谷博)

委員25名。妊産授乳婦の栄養調査、母乳哺育の実態調査、肥満、糖尿病、妊娠中毒症などと体重著増妊婦との関係や必要な検査法、胎児発育と母体の栄養状態との関係などの検討。

(8) 産科婦人科教育問題委員会 (委員長 倉智敬一)

委員40名。産科婦人科領域の卒前教育、卒後教育、生涯教育の問題点の調査研究並びに検討、FIGO 第8回世界大会seminar への参加、国家試験問題に関する検討。

(9) 助産婦教育問題委員会 (委員長 品川信良)

委員18名。助産婦養成機関の内容の整備や充実の調査検討。

(10) 黄体 ホルモン 剤問題委員会 (委員長 松本清一)

委員20名。黄体ホルモン剤投与と心奇形発生の因果関係並びに流早産防止に関する内外の情報の収集とその検討。

(11) 婦人科癌検診問題委員会 (委員長 竹内正七)

委員42名。都道府県における婦人科がん検診の実態調査並びにわが国におけるがん検診対策の検討。

(12) 社会保険学術委員会 (委員長 塩島令儀)

委員23名。社会保険の疑義解釈に関する学術的検討。

## 2. 出版事業

### (1) 定期刊行物

日本産科婦人科学会雑誌 (月刊) 第28巻第4号から第29巻第3号まで12回発行。Acta Obstetrica et Gynaecologica Japonica (季刊) 第21巻第4号及び第22巻第3号から第23巻第3号までを刊行。

## 3. 附帯事業

### (1) 講演会の開催

第28回学術講演会を昭和51年5月23日～26日まで4日間松本市において開催した。

### (2) 企画委員会の活動

運営企画委員会 (委員長 松本清一)

委員25名。会議開催1回、専門委員会の設置改廃、規約の改正案の検討を行い理事会に答申した。

学術企画委員会 (委員長 竹内正七)

委員31名。会議開催3回、第29回学術講演会の各種講演及び一般演題について協議詮衡を行い、第30回学術講演会シンポジウム演者、第31回学術講演会シンポジウムテーマなどについて協議した。

## (3) 内外の学術団体との連絡提携

### 1) 国内

日本医学会、医学関係学会、日本学術会議、日本母性保護医協会などとの連絡提携。

### 2) 国外

○国際産科婦人科連合 (FIGO) の各種学術委員会との連絡提携。

○国際産科婦人科連合 (FIGO) 第8回世界大会への参加。

○アジア産科婦人科連合 (AFOG) の各種学術委員会との連絡提携。

○各国主要機関との機関誌の交換。

## (4) FIGO 組織委員会の活動

1979年、東京で開催される国際産科婦人科連合 (FIGO) 第9回世界大会の準備活動。

◇昭和51年度収支決算報告及び財産目録についての報告  
収支決算書、収支決算書説明書及び財産目録は評議員会記録と同一内容の資料を配布した。

質疑 なし

議長：昭和50年度及び昭和51年度事業報告並びに収支決算報告、財産目録についての報告を承認されるか。賛成多数。承認

## 4. 副会長 (昭和54年度会長予定者) 選任についての報告

理事会から松本清一君が推薦され、評議員会で承認されたことを報告。

議長：松本清一君の副会長選任を承認されるか。賛成多数承認

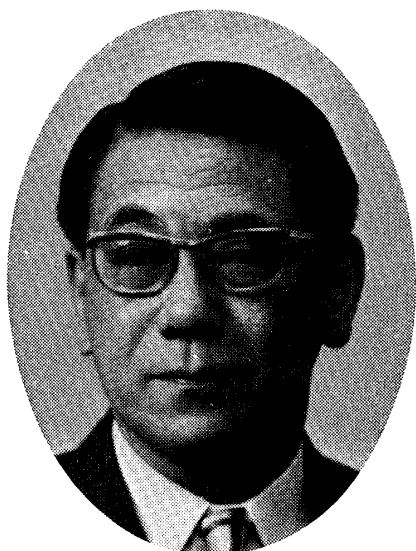
松本副会長挨拶

## V 名誉会員及び功勞会員に感謝状贈呈

理事会、評議員会の承認を経て、下記会員が名誉会員、功勞会員となつたことを報告。

### 1) 名誉会員 (3名)

岩井正二君 (長野)、九嶋勝司君 (秋田)、佐伯政雄君 (神奈川)。



松本清一副会長

九嶋会長から感謝状と、記章を贈呈した。

新名誉会員を代表して岩井正二君の挨拶があつた。

## 2) 功勞会員 (15名)

田畑武夫君 (北海道), 彦坂恭之助君 (東京), 三宅秀郎君 (東京), 天野一忠君 (神奈川), 依田省吾君 (山梨), 花岡堅而君 (長野), 越野達郎君 (福井), 今泉静夫君 (愛知), 山田利男君 (愛知), 山原 秀君 (愛知), 田中亀三郎君 (京都), 浜田春次郎君 (大阪), 正岡 旭君 (広島), 八木国男君 (熊本), 遠矢善栄君 (鹿児島)

九嶋会長から感謝状と、記章を贈呈した。

新功勞会員を代表して山原 秀君の挨拶があつた。

## VI 永年勤続事務職員の表彰

九嶋会長より松崎事務局長に表彰状と記念品代 (金一封) を贈呈した。

## 第29回学術講演会

第29回学術講演会は、昭和52年5月21日 (土), 22日 (日), 23日 (月), 24日 (火) の4日間、秋田市の秋田県民会館 (主会場), 秋田銀行本店大ホール (第2), 秋田県庁・正庁 (第3), 秋田県教育会館大ホール (第4) の4会場において開催された。

一般演題は533題の応募演題の中から、学術企画委員会において選択推薦され理事会において発表演題として決定された247題が35群に分類されて発表され、示説、誌上発表等は設けられなかつた。

参加会員には講演抄録集と主座長による紹介的な「聞

きどころ」を加えたプログラムが事前に送付された。

学術講演会第1日 (5月21日) は主会場で会長講演, シンポジウム1題, 教育講演4題が行われ, 第2日 (5月22日) は主会場および第2～第4会場で一般演題126題, 第3日 (5月23日) は同じく4会場で一般演題121題が行われた。また, 第4日 (5月24日) には主会場において招請講演1題, シンポジウム1題, 特別講演1題, 教育講演 (シンポジウム形式) 1題が行われて盛会の裡にその幕を閉じた。

参加会員は約2,000名に達し, 第3日目の夜は秋田市立体育館において総懇親会が行われた。

## 会長講演

秋田における産科 秋田大学学長 九嶋 勝司君

## 招請講演

Research on the Development of Antifertility Vaccines.

オハイオ大学教授 Vernon C. Stevens

## シンポジウム

### 1) 初期流産管理の基礎

座長 東北大学教授 鈴木 雅洲君

演者 (五十音順) 東京医科歯科大学助教授

熊坂 高弘君

慶応義塾大学講師 中村 幸雄君

福島県立医科大学教授 福島 務君

関西医科大学助教授 余語 郁夫君

追加発言 岩手医科大学助教授 国本 恵吉君

### 2) 胎児発育の生理と病理

座長 日本医科大学教授 室岡 一君

演者 (五十音順) 大阪市立大学講師 荻田 幸雄君

千葉大学院外講師 小林 充尚君

順天堂大学助教授 高田 道夫君

奈良県立医科大学教授 山口 龍二君

追加発言 九州大学医療技術短期大学部教授

久永 幸生君

## 特別講演

妊娠中毒症に対する低カロリー療法

京都大学講師 城戸 国利君

## 教育講演

### A. (シンポジウム形式)

「卵巣癌の臨床」

司会 久留米大学教授 加藤 俊君

診断面よりみた組織像ならびに最近の検査法について

演者 富山医薬科大学教授 泉 陸一君

1977年11月

総会記事

1653

## 比較的早期の癌の治療について

東京慈恵会医科大学助教授 寺島 芳輝君

## 進行癌の治療について

久留米大学助教授 薬師寺 道明君

## B.

## 1. 産婦人科心身症診療の実際

秋田大学講師 長谷川 直義君

## 2. 小児婦人科学の実際

国立小児病院 高嶋 達夫君

## 3. 内視鏡の現況と問題点

東邦大学教授 故 林 基之君

(代演 柴田 直秀講師)

## 4. 上皮内癌および高度異形成上皮の臨床

近畿大学教授 野田 起一郎君

## 一般演題分類

## 1. 子宮癌

## 2. 卵巣腫瘍

## 3. 絨毛性腫瘍

## 4. 思春期・更年期・老年期

## 5. 手術・麻酔

## 6. 感染症

## 7. 不妊・避妊

## 8. 診断・検査

## 9. 妊娠・分娩・産褥

## 10. 胎児・新生児

## 11. 婦人科一般

## 12. 内分泌

## 13. 性器の生理・病理

## 14. 免疫

## 15. 産科一般

## 16. ME

## 17. プロスタグランディン

## 18. 血液